

令和元年度

事業実績書

(病虫害防除関係)

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

目 次

I 組織と業務

1 名称及び所在地	-----	1
2 管轄区域	-----	1
3 職員及び業務	-----	1
4 業務分掌表	-----	1

II 事業実績

1 農作物有害動植物発生予察事業		
1) 調査の種類及び方法		
(1) 指定病害虫	-----	3
(2) 指定外病害虫	-----	4
(3) 巡回調査ほ場数	-----	5
2) 主要農作物の病害虫発生概況（令和元年産）		
(1) 早期水稻	-----	6
(2) 普通期水稻	-----	6
(3) カンショ	-----	6
(4) 大豆	-----	6
(5) ジャガイモ	-----	7
(6) かんきつ類（露地栽培）	-----	7
(7) 茶	-----	7
(8) 冬春きゅうり	-----	7
(9) 冬春ピーマン	-----	7
(10) 冬春トマト	-----	8
(11) いちご	-----	8
(12) 秋冬だいこん	-----	8
(13) サトイモ	-----	8
3) 水稻、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日		
(1) 水稻、かんきつ病害の初発日		
ア 水稻	-----	9
イ かんきつ	-----	9
(2) 予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日	---	9
4) 予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況		
(1) 延岡	-----	10
(2) 佐土原	-----	11
(3) 国富	-----	12
(4) 都城	-----	13

5) フェロモントラップによる誘殺状況		
(1) チャハマキの誘殺状況	-----	1 4
(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況	-----	1 6
(3) チャノホソガの誘殺状況	-----	1 8
(4) ハスモンヨトウの誘殺状況	-----	2 0
(5) タバコガ・オオタバコガの誘殺状況	-----	2 2
(6) コブノメイガの誘殺状況	-----	2 4
6) 果樹カメムシ類の誘殺状況		
(1) 予察灯における誘殺状況	-----	2 5
(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況	-----	2 9
7) 農作物有害動植物の発生及び防除状況		
(1) 発生経過、発生要因及び防除の概要	-----	3 3
(2) 発生面積及び防除面積等	-----	3 9
8) 有害動植物発生予察事業実施状況		
(1) 発表情報一覧（警報、注意報、特殊報、防除情報）	-----	4 5
(2) 情報の内容	-----	4 6
2 特殊病虫害侵入警戒調査事業		
1) ミバエ類侵入警戒調査	-----	9 9
2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査	-----	1 0 0
3) イモゾウムシ侵入警戒調査	-----	1 0 3
4) ミカンキジラミ侵入警戒調査	-----	1 0 3
3 その他の調査、検定等		
1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況	-----	1 0 4
2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査	-----	1 0 6
3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測	-----	1 0 7
4) サトイモ疫病の発生状況調査	-----	1 0 8
5) 割れ粳程度による斑点米の発生状況	-----	1 0 9
6) 輸出検疫協議の迅速化委託事業	-----	1 1 0
7) 2019年に宮崎県で初確認されたツマジロクサヨトウの発生状況と薬剤感受性	-----	1 1 1
8) サツマイモ腐敗に関する発生消長調査	-----	1 1 2
III その他		
1 病虫害防除員の設置状況	-----	1 1 4
2 巡回調査ほ場の分布図	-----	1 1 5
IV 令和元年度気象概況	-----	1 1 6

I 組織と業務

1 名称及び所在地

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課

(兼 宮崎県病虫害防除・肥料検査センター ※ H23.4～)

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5 8 0 5 番地

2 管轄区域

県内全域 (9市14町3村)

3 職員及び業務

職 員	業 務
課長(所長) 吉 留 浩	1 病虫害の発生予察及び情報の提供に関すること 2 病虫害の適正防除指導に関すること 3 病虫害の診断及び検定に関すること 4 重要病虫害の侵入警戒調査に関すること 5 農薬指導取締に関すること 6 農薬安全使用指導に関すること 7 その他植物防疫に関すること 8 肥料の分析及び取締に関すること
主 幹 松 浦 明	
主 査 森 下 勝	
〃 黒 木 匠 子	
専門技師 寺 本 敏	
専門技師 福 田 武 美	
非常勤職員 今 村 幸 久	
〃 吉留雅輝(4～6月)	
〃 久保知佳(7～3月)	
(兼務職員)	
土壤環境部	
副 部 長 永 井 浩 幸	
主任技師 吉 留 悠 太	
技 師 田 上 遊 里	

4 業務分掌表 (病虫害防除関係のみ記載)

主担当	副担当	分 掌 事 務
吉 留	松 浦	1 病虫害防除・肥料検査課の総括に関すること
松 浦	森 下	1 植物防疫関係事業の総括に関すること 2 病虫害発生予察並びに情報作成の総括に関すること 3 農薬取締に関すること 4 各種協議会の総括に関すること 5 全国的なサーベイデータ蓄積及び分析に関すること

主担当	副担当	分 掌 事 務
森 下	松 浦	1 野菜（きゅうり、ピーマンなど）、花きの病虫害発生予察に関する事 2 発生予察関連資料の作成に関する事 3 宮崎方式 ICM 技術確立事業に関する事 4 農薬取締に関する事
黒 木	寺 本	1 普通作物等の病虫害発生予察に関する事 2 特殊病虫害侵入警戒調査対策事業に関する事 3 病虫害診断対策に関する事 4 農薬取締に関する事
寺 本	黒 木	1 果樹・茶等の病虫害発生予察に関する事 2 サトイモ疫病総合防除対策技術に関する事 3 情報ネットワーク保守・管理に関する事 4 病虫害診断対策に関する事 5 農薬取締に関する事
吉留(雅) 倉 永	松 浦	1 野菜（トマト、イチゴ、露地野菜など）の病虫害発生予察に関する事 2 発生予察関連資料の作成に関する事 3 薬品の保管管理に関する事

Ⅱ 事 業 実 績

1 農作物有害動植物発生予察事業

病虫害発生予察事業は、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、その発生分布・繁殖・気象・農作物の生育状況等を調査し、病虫害による損害の発生を予察し、これに基づく発生予察情報を関係者に提供するものである。

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱及び同実施要領に準拠し、予察ほ場の定点調査及び巡回調査を行って病虫害予察方法の確立に努め、発生予報・警報・注意報・特殊報・防除情報を発表して病虫害防除対策の資料にした。

1) 調査の種類及び方法

(1) 指定病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名 (種類数)
普通作物	イネ	稲こうじ病、いもち病、縞葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病、イネミズソウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ)、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ(15)
	サツマイモ	ハスモンヨトウ (1)
	ジャガイモ	疫病、アブラムシ類(ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハスモンヨトウ(3)
	ダイズ	アブラムシ類(ダイズアブラムシ)、吸実性カメムシ類(ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ)、ハスモンヨトウ(3)
果樹等作物	カンキツ	かいよう病、黒点病、そうか病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、ミカンクロアブラムシ)、ハダニ類(ミカンハダニ)、果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ)(6)
	チャ	炭疽病、チャノホソガ、ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ、チャハマキ)、ハダニ類(カンザワハダニ)(4)
野菜	キュウリ	うどんこ病、褐斑病、灰色かび病、べと病、アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ)、アブラムシ類(ワタアブラムシ)、コナジラミ類(タバココナジラミ)、ハスモンヨトウ(8)
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ヨトウガ(5)
	トマト	疫病、灰色かび病、葉かび病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、コナジラミ類(タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)、ハスモンヨトウ(6)
	ダイコン	アブラムシ類(ニセダイコンアブラムシ)、ハスモンヨトウ、コナガ、ヨトウガ(4)
	イチゴ	うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)、アブラムシ類(ワタアブラムシ)、ハダニ類(ナミハダニ、カンザワハダニ)、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ヨトウガ(9)

(2) 指定外病害虫

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	萎縮病、ごま葉枯病、白葉枯病、苗立枯病、黄萎病、黄化萎縮病、内穎褐変病、アワヨトウ、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、イネヨトウ、スクミリンゴガイ、イネシンガレセンチュウ（14）
	サツマイモ	立枯病、つる割病、紫紋羽病、アブラムシ類、イモキバガ、エビガラスズメ、ナカジロシタバ（7）
	ジャガイモ	ニジュウヤホシテントウ、葉巻病（2）
	ダイズ	さび病、紫斑病、葉焼病、べと病、モザイク病、ウコンノメイガ、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ハダニ類、フタスジヒメハムシ、コガネムシ類（マメコガネ）、マメシクイガ、マメヒメサヤムシ類、食糧性鱗翅目幼虫（ミツモンキンウワバ）（14）
果樹等作物	カンキツ	青・緑かび病、灰色かび病、果樹吸蛾類、コアオハナムグリ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、ヒメヒラタケシキスイ、ミカンハモグリガ（7）
	チャ	網もち病、白星病、もち病、輪斑病、クワシロカイガラムシ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、チャノミドリヒメヨコバイ、ツマグロアオカスミカメ（8）
野菜	キュウリ	疫病、退緑黄化病（CCYV）、黄化えそ病（MYSV）、菌核病、炭疽病、つる枯病、つる割病、斑点細菌病、モザイク病、ウリノメイガ、ウリハムシ、チャノホコリダニ、ハモグリバエ類、ワタヘリクロノメイガ（14）
	ピーマン	青枯病、疫病、黄化えそ病（TSWV）、菌核病、軟腐病、灰色かび病、白斑病、斑点細菌病、斑点病、モザイク病、黒枯病、タバココナジラミ、タバコガ類、チャノホコリダニ、ハダニ類、ヒラズハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ（17）
	トマト	青枯病、萎凋病、うどんこ病、すすかび病、モザイク病、黄化葉巻病（TYLCV）、褐色輪紋病、菌核病、軟腐病、斑点病、輪紋病、ハモグリバエ類（12）
	ダイコン	萎黄病、べと病、モザイク病、炭疽病、軟腐病、キスジノミハムシ、ハムシ類（ダイコンサルハムシ）（7）
	イチゴ	萎黄病、じゃのめ病、菌核病、輪斑病、コナジラミ類（5）
	サトイモ	疫病（1）

(3) 巡回調査ほ場数

地域 対象作物	中部	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	西臼杵	計
早期水稲	11	6			12	4		33
普通期水稲	5		10	8		10	8	41
ダイズ	1		6					7
サツマイモ		4	4		4			12
ジャガイモ	2		4		4			10
カンキツ	8	4			2	4		18
チャ	2	1	4	2	4		4	17
冬春キュウリ	9	1	2			3		15
冬春ピーマン	3	2			6			11
冬春トマト	3				5	2		10
ダイコン	6					4		10
冬春イチゴ	2		3	3	4			12
サトイモ	5		4	4	1			14
計	57	18	37	17	42	27	12	210

2) 主要農作物の病虫害発生概況（令和元年産）

(1) 早期水稲

スクミリンゴガイは4月中旬の発生面積率が平年比やや多、発生程度が多（病虫害発生予察注意報第1号（H31.4.19））で、5月中旬も同様の傾向であった。

葉いもちの初発生は6月13日で平年よりも遅い発生であった。6月下旬にいもち病に好適な気象条件が数回あったが、好適条件が連続することはなく、発生量は平年並であった。

紋枯病は出穂期頃から見られ、成熟期の発生面積率、発生程度は平年並であった。

斑点米カメムシ類は、6月上旬のイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度は平年よりやや多、6月中旬の本田での発生面積率は平年並、発生程度が平年比多（病虫害予察注意報第2号（R1.6.20））であった。その後の6月下旬の本田での発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並であった。

(2) 普通期水稲

葉いもちは7月中旬から発生が確認された。平年より梅雨明けが遅かったものの、7～8月の高温により進展が抑制され、8月中旬の発生面積率、発病度は平年並であった。

紋枯病は8月中旬の巡回調査から確認され、発生量は期間を通して平年並で推移した。

セジロウンカは初飛来が平年並の6月6日で、県内の広い範囲で断続的な飛来が見られたのは7月に入ってからであり、誘殺頭数はやや少なく推移した。

トビイロウンカは初飛来が6月6日で平年より早く、その後6月下旬から断続的に飛来を確認し、県内への飛来回数、飛来量は多かった（病虫害防除情報第4号（R1.7.23））。その後、7月下旬の巡回調査における発生面積率、発生程度が平年比やや多（病虫害発生予察注意報第4号（R1.8.1））となり、8月中旬の巡回調査では発生面積率、発生程度が平年比多（病虫害発生予察警報第1号（R1.8.19））となった。8月下旬の巡回調査においても発生面積率、発生程度は平年比多で、坪枯れが発生し始めた（病虫害防除情報第5号（R1.8.30））。度重なる飛来により、トビイロウンカの世代が複雑になり、防除効果が得られにくい状況であったと考えられる。

コブノメイガは初飛来が6月16日で前年よりも早かった。7月から8月の巡回調査では発生面積率、発生程度は平年よりやや多であった。

斑点米カメムシ類は8月中旬の巡回調査では発生面積率は平年に比べて多、発生程度はやや多の発生であったが、10月中旬の発生程度は平年並であった。

(3) カンショ

ナカジロシタバやハスモンヨトウ、イモキバガの発生量は期間を通して平年並で推移した。また、6月上旬の調査で、サツマイモ基腐病（病虫害防除情報第2号（R1.6.25））を確認し、その後8月下旬頃から地上部の枯れが目立ち始めた。

(4) 大豆

べと病の9月（着莢期）の発生面積率及び発生程度は平年より少であり、その後の収穫物調査でも被害粒は平年に比べてやや少の発生であった。

ハスモンヨトウの発生面積率は平年並～少で推移した。吸汁性カメムシは9月の発生面積率及び程度は多発生であったが、10月は平年よりやや少の発生であった。

(5) ジャガイモ

疫病は、5月中旬の発生量は平年並であった。また、ニジュウヤホシテントウの5月中旬の発生面積率は平年並、アブラムシ及びハスモンヨトウは平年よりやや少ない発生であった。

(6) かんきつ類（露地栽培）

そうか病は、初発時期が葉・果実とも平年より早く、発生量は葉がやや多、果実が平年並であった。黒点病は、初発が葉で平年並、果実でやや早く、発生量は平年並～やや少で推移した。かいよう病については、初発が遅く、発生量は葉が平年並であったが、果実では8月以降に増加した。

ミカンハダニは、越冬量が平年に比べ少なく、その後も少発生で推移した。

果樹カメムシ類のトラップ誘殺数は、フェロモントラップでは、チャバネアオカメムシが平年並、ツヤアオカメムシがやや多、予察灯では、チャバネアオカメムシがやや少、ツヤアオカメムシが平年並であった。

(7) 茶

炭疽病、輪斑病は平年並、もち病は山間部を主体に多の発生であった。

チョウ目害虫（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ）のフェロモントラップによる誘殺数は、チャノコカクモンハマキが一部地域で多かったものの、全般的には3種とも平年並であった。ほ場での発生は、チャノホソガが9月にやや多かったものの、全般的には平年並、チャノコカクモンハマキとチャハマキは一部地域で発生がみられた。

カンザワハダニについては、越冬後の寄生密度は平年並で、その後も平年並～少の発生であった。

クワシロカイガラムシは一部園地で7月と10月の発生が増加したが、全体的に少発生で推移した。

(8) 冬春きゅうり（栽培期間：平成30年9月～令和元年6月）

べと病は栽培当初から発生が多く、12月以降は平年より多の発生で推移した（病害虫発生予察注意報第4号(H30.12.25)）。うどんこ病は12月までおおむね平年並の発生であったが、1月以降は発生面積が平年よりやや多の発生となった。褐斑病は期間を通して平年並の発生であった。黄化えそ病は、栽培当初は前年・前々年より多い発生であったが、12月以降は比較的少ない発生となった。

その他病害については、平年並からやや少の発生であった。

ミナミキイロアザミウマは栽培当初は平年並の発生であったが、11月以降は平年よりもやや少～少の発生で推移した。タバココナジラミは年内は平年より少の発生であったが、1月以降は平年並の発生となった。

その他虫害についてはおおむね平年並の発生であった。

(9) 冬春ピーマン（栽培期間：平成30年9月～令和元年6月）

斑点病は11月まで発生が確認されず、12月以降も平年並以下の発生であった。黒枯病は10月と12月以外のつきには発生を確認しておらず、平年並の発生であった。うどんこ病は期間を通しておおむね平年並の発生であった。

その他病害については平年並の発生であった。

ミナミキイロアザミウマは、栽培当初から発生が少なく、期間を通して平年よりやや少～少の発生となった。一方、ヒラズハナアザミウマは11月以降の発生面積率が平年より多の発生で推移した（病害虫発生予察注意報第3号(H30.12.25)）。タバココナジラミは12

月までおおむね平年並の発生であったが、1月以降は平年よりやや多の発生となった。

その他虫害についてはおおむね平年並の発生であった。

(10) 冬春トマト（栽培期間：平成30年9月～令和元年6月）

葉かび病は12月まで発生はほとんど確認されなかったが、1～2月に平年より多の発生になり、3月以降は平年並の発生となった。すすかび病は10～11月の発生面積が平年より多、発生程度がやや多の発生となり、12月以降も平年よりやや多の発生であった。そのため葉かび病とすすかび病については病虫害防除情報第8号（H30.11.30）と病虫害発生予察注意報第6号（H31.2.27）を発出した。灰色かび病は期間を通して平年並以下の発生であった（病虫害防除情報第8号（H30.11.30））。黄化葉巻病は、12月と4月以外は発生が確認されず、おおむね平年並の発生となった。褐色輪紋病は1月まで発生が確認されなかったが、2月以降2調査地点で発生が確認された。

その他病害については平年並の発生であった。

タバココナジラミは定植直後から発生がみられたが、栽培期間を通して平年並の発生であった。

その他害虫についてはおおむね平年並の発生であった。

(11) いちご（栽培期間：平成30年9月～令和元年5月）

うどんこ病は定植直後から葉で発生がみられたが、栽培期間を通して平年並～少の発生であった。

その他病害についてはおおむね平年並の発生であった。

ハダニ類は期間を通して平年よりやや少～少の発生であった。アブラムシ類は11月に平年よりやや多の発生であったが、それ以外の月は平年よりやや少～少の発生で推移した。ハスモンヨトウは期間を通して平年並～やや少の発生となった。ヒラズハナアザミウマは11月まで発生が確認されなかったが、12月以降平年よりやや多～多の発生となった（病虫害発生予察注意報第5号（H31.2.27））。

その他害虫については、平年並以下の発生であった。

(12) 秋冬だいこん（栽培期間：平成30年9月～30年12月）

モザイク病、べと病、萎黄病、軟腐病いずれも病害も平年並の発生であった。

アブラムシ、ダイコンサルハムシ、キスジノミハムシ、コナガいずれの害虫も平年よりやや少の発生であった。

(13) サトイモ（栽培期間：平成31年3月～令和元年9月）

サトイモ疫病は、6月26日に現地からの発生確認情報があり、病虫害防除情報第3号（R1.7.2）を発出して防除を呼びかけた。巡回調査においても7月4日に初発生を確認した。初発確認は前年より3週間ほど遅かったが、その後の病勢は、7月20日（台風7号）と8月6日（台風8号）に接近または上陸した台風の影響もあり、7月下旬から8月中旬にかけて急速に進展した。発生ほ場率は8月中旬に100%、発病株率は9月上旬に100%となった。

3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1)水稲、かんきつ病害の初発日

ア. 水稲

種 別	早期水稲			普通期水稲		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
葉いもち	6.13	5.24	5.30	7.08	7.01	6.12
穂いもち	7.12	7.08	7.09	9.09	9.09	9.10
紋枯病	6.25	7.04	6.26	8.08	8.04	7.27
白葉枯病	—	—	—	—	—	—

イ. かんきつ

種 別	春 葉			果 実		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
そうか病	4.25	4.30	4.25	5.10	6.8	5.10
黒点病	5.22	5.22	5.10	6.13	6.29	6.7
かいよう病	6.10	5.20	5.15	7.5	6.25	7.10

(2)予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日

項 目	地区名 年次	延 岡			佐土原			国 富			都 城		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
セジロウンカ		5.18	6.13	8.09	7.04	6.19	7.25	7.05	6.26	9.11	6.21	6.14	7.19
トビイロウンカ		7.05	7.06	7.10	—	8.10	8.17	8.01	7.11	7.25	—	7.08	6.21
ヒメトビウンカ		5.24	6.18	5.23	5.18	6.28	7.08	7.26	7.11	8.02	7.01	7.23	7.10
ツマグロヨコバイ		5.18	5.23	5.22	7.09	5.28	7.05	5.16	5.18	5.22	5.16	5.24	5.08
コブノメイガ		7.21	7.17	7.12	—	8.16	8.16	7.18	8.13	9.28	9.08	7.09	8.04

4) 予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況

(1) 延岡

月	半月	ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
		本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	2	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	1	2.5	0	0.1	0	0.0	1	0.1
	5	3	10.5	0	1.1	0	0.0	0	1.2
	6	3	32.4	0	0.3	0	0.1	0	0.7
	計	9	45.4	0	1.5	0	0.1	1	2.0
6	1	21	64.7	0	0.1	0	0.0	3	0.3
	2	31	62.1	0	10.2	0	0.0	1	0.2
	3	10	15.4	0	1.4	0	0.0	0	0.1
	4	1	10.6	0	8.6	0	1.3	0	0.5
	5	0	5.6	0	14.0	0	0.2	1	0.5
	6	1	1.9	4	1.8	2	0.2	4	0.1
	計	64	160.3	4	36.1	2	1.7	9	1.7
7	1	0	1.1	6	8.2	0	0.9	2	0.2
	2	2	1.8	6	6.6	16	0.6	4	0.4
	3	2	7.6	1	14.4	2	1.7	0	0.6
	4	5	28.9	2	5.5	8	0.1	0	0.3
	5	15	40.8	0	2.4	7	1.0	0	0.1
	6	29	60.8	0	2.4	1	0.1	1	0.3
	計	53	137.2	15	39.5	34	4.4	7	1.9
8	1	7	5.8	0	16.5	1	0.1	0	0.2
	2	5	6.9	5	3.5	0	0.7	0	0.3
	3	1	15.1	-	4.2	-	1.2	0	0.7
	4	-	33.8	2	39.3	2	1.2	1	1.5
	5	4	30.5	4	8.8	7	1.4	3	1.4
	6	6	15.4	6	13.0	23	9.2	14	2.4
	計	10	106.0	17	83.1	33	13.6	18	6.5
9	1	1	12.8	1	5.8	28	1.7	0	1.9
	2	2	9.5	35	13.7	51	18.2	1	0.8
	3	2	6.0	0	11.3	156	19.6	0	0.9
	4	7	3.6	0	16.0	9	8.5	0	0.1
	5	1	12.9	4	8.9	44	2.9	4	2.3
	6	4	1.8	33	6.4	254	9.7	50	0.4
	計	17	46.0	73	61.5	542	58.4	55	6.4
10	1	5	3.7	2	1.2	618	8.0	5	0.6
	2	3	5.0	2	2.5	74	22.1	0	2.1
	3	2	0.0	0	1.6	23	23.6	2	0.5
	4	0	0.3	7	0.1	20	13.2	5	0.1
	5	0	0.0	1	0.4	26	7.6	7	0.1
	6	0	0.0	0	0.0	1	4.5	0	0.1
	計	10	9.0	12	5.8	762	79.0	19	3.5

(2) 佐土原

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.4	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	6	0	1.8	0	0.3	0	0.0	0	0.0
	計		0	3.2	0	0.4	0	0.0	0
6	1	0	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	1	1.6	0	0.7	0	0.0	0	0.2
	3	1	4.0	0	0.1	0	0.0	0	0.2
	4	0	4.4	0	1.9	0	0.0	0	0.2
	5	0	1.5	0	2.3	5	0.0	0	0.0
	6	0	1.5	0	4.7	0	0.0	0	0.0
	計		2	14.0	0	9.7	5	0.0	0
7	1	0	2.1	1	4.5	1	0.1	0	0.3
	2	0	4.8	0	3.8	0	0.0	0	0.1
	3	0	12.2	1	0.7	6	0.2	0	0.2
	4	4	19.4	1	0.3	2	0.2	1	0.1
	5	15	24.3	1	1.1	0	0.0	8	0.0
	6	26	42.0	0	0.6	3	0.0	0	0.0
	計		45	102.9	4	11.0	12	0.5	9
8	1	15	26.0	1	1.3	0	0.0	4	0.2
	2	3	12.7	0	0.2	0	0.0	0	0.0
	3	0	23.5	0	1.1	0	0.2	0	0.0
	4	5	49.2	0	1.3	2	0.2	2	0.1
	5	1	13.5	81	3.0	33	0.6	1	0.5
	6	2	45.9	4	4.8	3	0.6	0	0.0
	計		26	170.8	86	11.7	38	1.6	7
9	1	1	12.6	0	1.2	6	0.6	1	0.0
	2	1	6.6	1	1.9	1	0.3	1	0.2
	3	5	7.8	7	9.5	40	1.6	0	0.2
	4	3	4.7	1	1.6	8	1.6	0	0.1
	5	7	4.9	8	0.7	20	0.2	0	0.0
	6	1	0.9	0	1.3	8	0.2	0	0.4
	計		17	37.5	17	16.2	75	4.5	2
10	1	1	0.3	6	0.3	26	0.3	0	0.0
	2	0	0.3	4	0.2	44	0.0	0	0.0
	3	0	0.2	0	0.0	6	0.8	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.1	1	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	1	0.2	7	0.3	0	0.0
	6	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0	0.0
	計		1	0.9	11	0.9	84	1.6	0

(3) 国富

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	3.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	18	9.9	0	0.2	0	0.0	0	0.2
	6	30	40.3	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	計		49	54.4	0	0.2	0	0.0	0
6	1	20	25.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	82	62.5	22	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	20	35.1	1	0.2	0	0.6	1	0.0
	4	36	31.9	1	6.1	0	0.0	3	0.0
	5	5	22.2	0	27.6	1	0.2	0	0.2
	6	3	5.1	3	2.9	1	0.7	2	0.0
	計		166	176.7	2	33.1	3	0.3	6
7	1	2	6.6	2	16.7	1	0.3	0	0.2
	2	3	9.4	0	7.0	4	1.3	1	1.1
	3	4	11.2	1	3.1	1	0.1	1	0.4
	4	10	7.8	1	1.5	0	0.2	2	0.0
	5	8	15.9	14	0.8	6	0.2	3	0.4
	6	20	20.1	7	1.5	15	2.3	10	0.2
	計		47	64.8	25	28.6	0	0.6	17
8	1	18	14.6	0	1.5	0	0.4	1	2.5
	2	9	21.9	0	1.8	-	1.3	1	0.4
	3	1	43.3	0	4.5	2	0.9	0	0.5
	4	11	31.5	2	3.6	30	7.3	0	0.3
	5	6	23.2	0	2.1	92	9.0	0	0.8
	6	6	18.7	5	9.2	124	19.5	7	0.9
	計		51	153.2	7	22.7	89	3.0	9
9	1	1	5.0	2	7.2	27	7.0	1	0.2
	2	6	4.6	3	3.8	56	12.3	0	0.7
	3	3	3.1	11	7.1	6	3.0	2	0.9
	4	2	2.4	1	2.0	14	2.8	1	0.7
	5	6	0.7	2	3.6	64	8.3	1	1.1
	6	5	0.3	5	1.3	256	38.9	0	0.2
	計		23	14.2	24	26.3	172	12.7	5
10	1	4	0.4	5	0.9	60	8.1	3	0.2
	2	1	0.4	0	1.3	29	18.9	0	0.2
	3	0	0.2	0	0.1	8	26.7	0	0.3
	4	0	0.0	0	0.3	0	13.1	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.7	1	5.7	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.3	270	85.1	0	0.0
	計		5	1	5	4	368	158	3

※「-」は欠測、()は欠測期間を除く頭数

(4) 都城

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.1	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.1
	4	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	5	43	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	23	11.6	0	0.2	0	0.0	0	0.0
	計		67	13.4	0	0.2	0	0.1	0
6	1	75	10.1	0	0.2	0	0.0	0	0.0
	2	62	30.6	1	14.2	1	0.0	0	0.0
	3	23	25.6	0	3.9	0	0.0	0	0.0
	4	5	8.4	0	18.4	0	0.1	0	0.0
	5	2	3.3	0	73.4	0	8.6	0	0.2
	6	3	7.9	1	15.0	1	1.2	0	0.7
	計		170	85.9	2	125.1	2	9.9	0
7	1	2	3.1	0	465.8	1	5.0	0	0.1
	2	3	4.2	2	10.0	0	0.6	0	0.2
	3	12	13.9	4	20.4	20	0.8	1	0.2
	4	46	29.3	3	3.9	2	0.3	1	0.2
	5	40	84.6	1	14.3	0	1.1	0	1.2
	6	91	134.5	13	22.9	2	3.6	0	3.3
	計		194	269.6	23	537.3	25	11.4	2
8	1	36	69.5	0	14.2	2	1.9	0	1.3
	2	27	72.1	0	5.7	4	2.4	0	0.3
	3	14	90.6	0	10.0	0	2.7	0	0.9
	4	-	105.1	-	8.7	-	1.4	-	0.3
	5	60	111.3	1	6.2	11	3.8	4	0.6
	6	84	99.4	0	17.4	4	6.0	0	1.3
	計		221	531.7	1	58.3	21	17.4	4
9	1	45	62.3	3	10.6	18	12.2	5	0.5
	2	27	47.2	6	10.9	114	23.5	1	0.7
	3	25	10.7	0	6.0	21	7.8	2	0.2
	4	80	12.5	0	5.8	24	7.6	6	0.6
	5	70	8.7	4	8.4	54	16.9	0	0.5
	6	60	9.9	9	3.1	121	26.8	0	0.0
	計		307	150.3	22	44.5	352	92.1	14
10	1	13	24.3	4	2.6	126	89.8	12	0.4
	2	0	5.7	0	3.0	79	106.6	0	0.8
	3	0	2.5	0	0.7	71	36.7	0	0.3
	4	0	2.1	2	1.2	30	99.4	0	0.2
	5	0	0.1	1	0.5	11	65.3	0	0.5
	6	0	0.3	0	1.0	2	34.8	0	0.0
	計		13	35.0	7	9.0	319	432.6	12

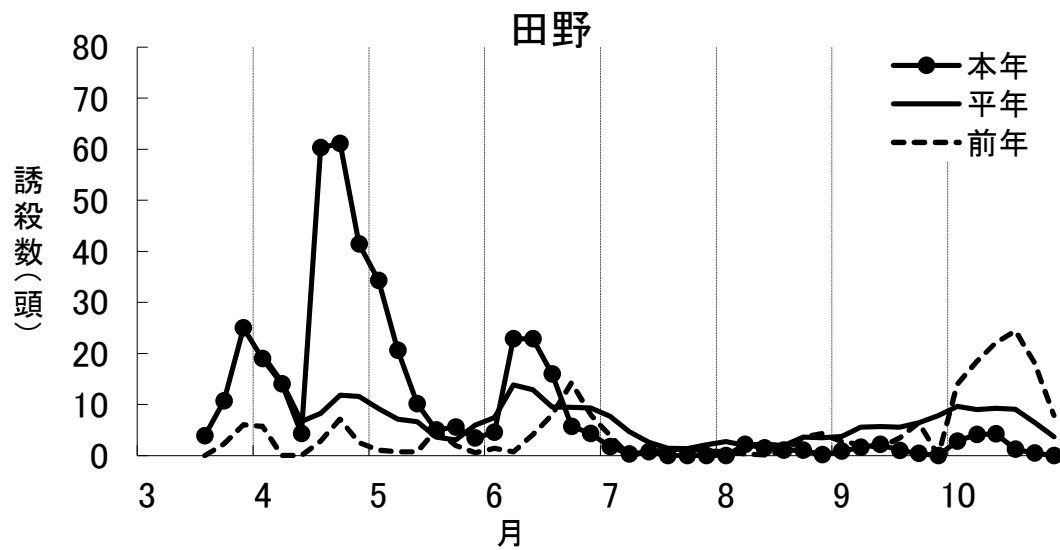
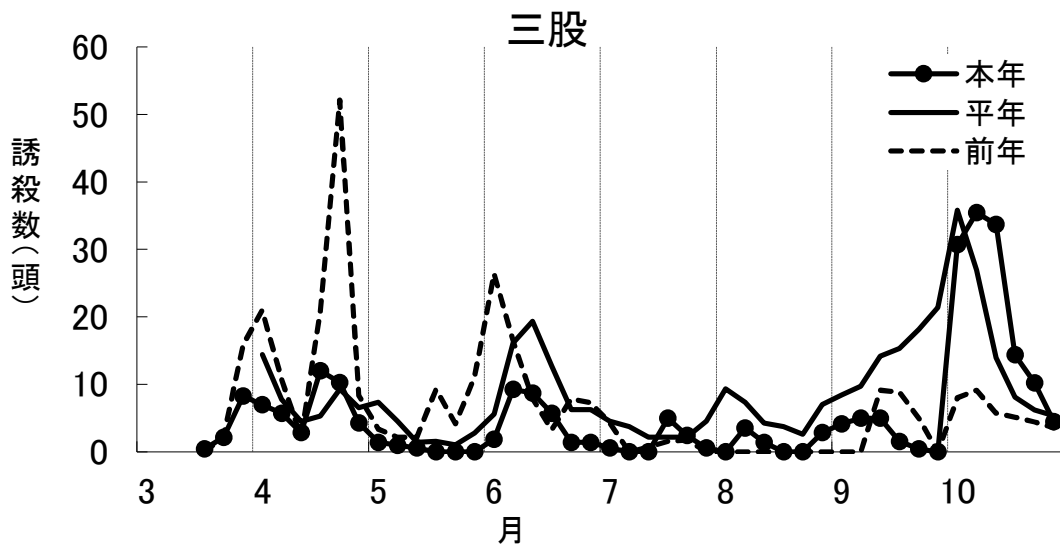
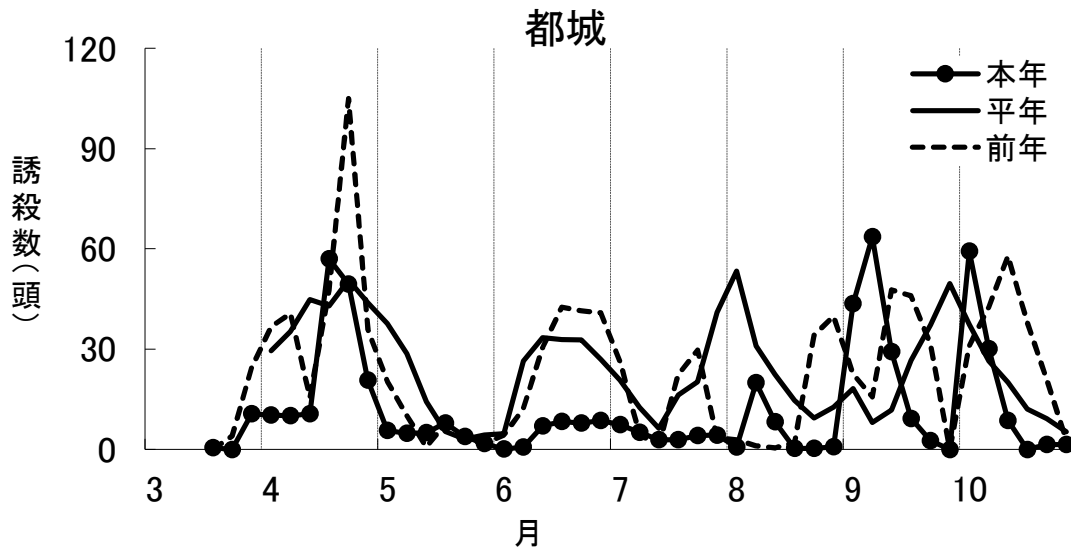
※「-」は欠測、()は欠測期間を除く頭数

5) フェロモントラップによる誘殺状況

(1) チャハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3									
	4	1		0	0		0	4		0
	5	0		4	2		2	11		2
	6	11		24	8		16	25		6
4	1	10	30	37	7	14	21	19	20	6
	2	10	35	41	6	8	11	14	14	0
	3	11	45	16	3	4	2	4	7	0
	4	57	43	48	12	5	21	60	8	3
	5	49	51	105	10	9	52	61	12	7
	6	21	44	36	4	7	8	41	12	3
5	1	6	38	20	1	7	3	34	9	1
	2	5	29	10	1	5	2	21	7	1
	3	5	14	1	1	1	2	10	7	1
	4	8	5	8	0	2	9	5	4	5
	5	4	3	3	0	1	4	6	3	2
	6	2	4	2	0	3	11	3	6	1
6	1	0	5	4	2	6	26	5	7	1
	2	1	26	12	9	16	16	23	14	1
	3	7	33	31	9	19	8	23	13	4
	4	8	33	43	6	13	3	16	10	8
	5	8	33	41	1	6	8	6	9	14
	6	9	27	41	1	6	7	4	9	8
7	1	7	21	26	1	5	4	2	8	4
	2	5	13	4	0	4	0	0	5	0
	3	3	6	1	0	2	1	1	3	1
	4	3	16	22	5	2	2	0	1	1
	5	4	20	30	2	2	2	0	1	1
	6	4	41	3	1	5	0	0	2	1
8	1	1	53	3	0	9	0	0	3	1
	2	20	31	1	4	7	0	2	2	0
	3	8	22	0	1	4	0	2	2	0
	4	0	15	2	0	4	0	1	2	1
	5	0	9	34	0	3	0	1	4	4
	6	1	13	40	3	7	0	0	4	4
9	1	44	18	23	4	8	0	1	4	3
	2	64	8	16	5	10	0	2	6	2
	3	29	12	48	5	14	9	2	6	2
	4	9	27	46	2	15	9	1	6	3
	5	3	37	31	0	18	5	0	6	6
	6	0	50	0	0	21	0	0	8	0
10	1	59	37	31	31	36	8	3	10	14
	2	30	26	43	35	27	9	4	9	18
	3	9	20	58	34	14	6	4	9	22
	4	0	12	38	14	8	5	1	9	24
	5	2	9	21	10	6	4	1	7	18
	6	2	5	3	5	5	4	0	4	8

※「-」は欠測

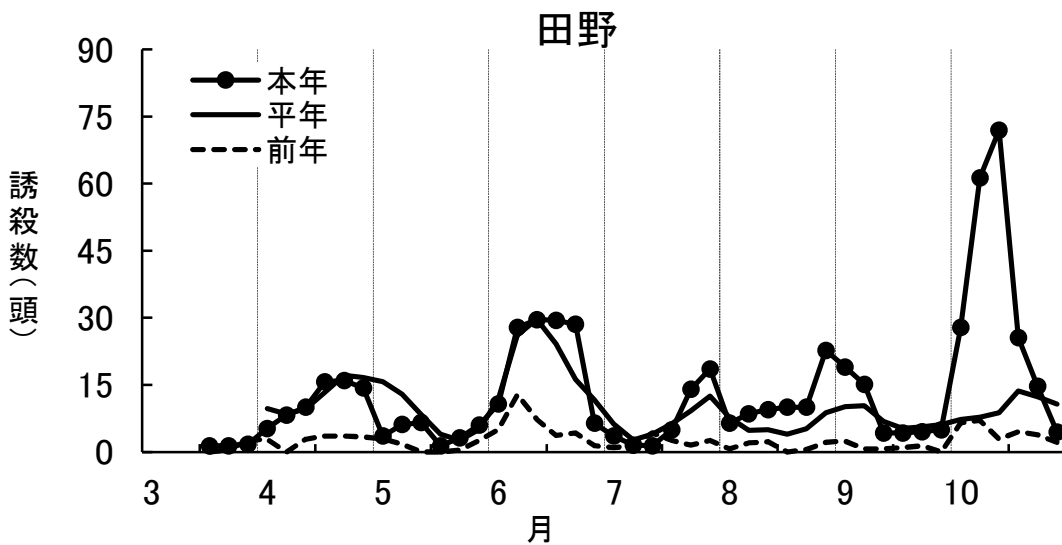
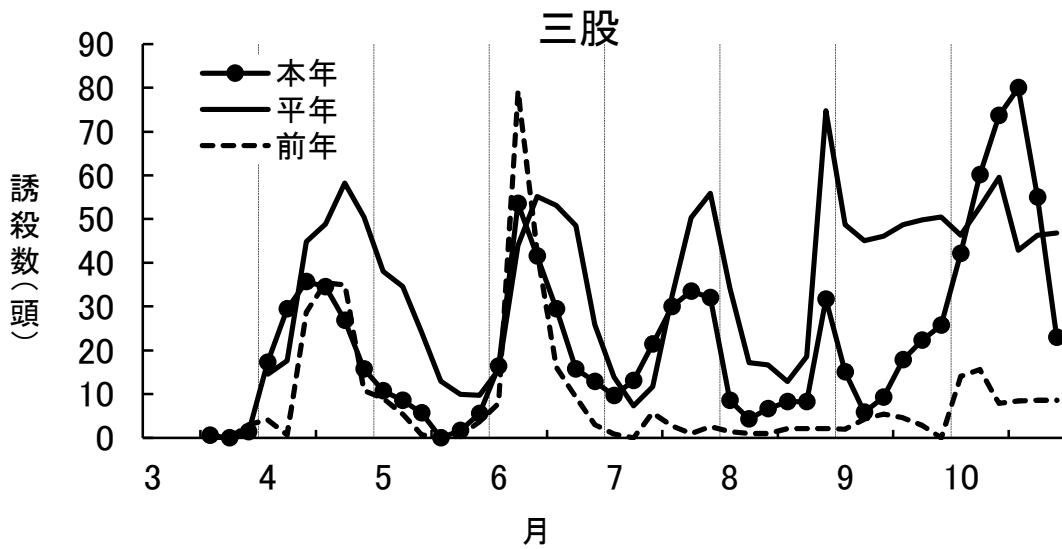
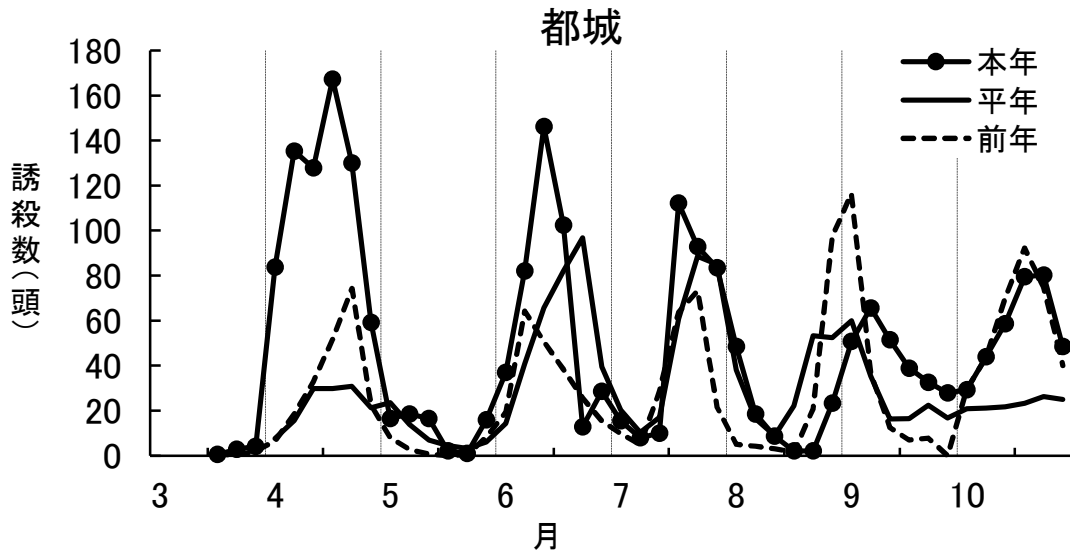


チャハマキのフェロモントラップ誘殺状況(2019年)

(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3									
	4	1		1	1		0	1		0
	5	3		0	0		0	1		1
	6	4		2	1		3	2		3
4	1	84	8	7	17	15	4	5	10	3
	2	135	16	19	29	18	1	8	9	0
	3	128	30	33	36	45	29	10	10	3
	4	167	30	52	35	49	35	16	13	4
	5	130	31	74	27	58	35	16	17	4
	6	59	21	23	16	50	11	14	17	3
5	1	16	24	8	11	38	9	4	16	3
	2	19	14	3	9	35	5	6	13	2
	3	16	7	1	6	24	1	7	8	0
	4	2	5	0	0	13	0	1	4	0
	5	1	3	0	2	10	0	3	3	0
	6	16	6	8	6	10	4	6	5	3
6	1	37	14	19	16	16	8	11	12	5
	2	82	41	64	54	44	79	28	26	13
	3	146	66	51	42	55	42	30	30	7
	4	102	82	38	29	53	16	29	24	4
	5	13	97	26	16	49	9	29	16	4
	6	29	40	15	13	26	3	6	12	1
7	1	15	20	10	10	14	1	4	6	1
	2	8	10	5	13	7	0	2	3	1
	3	10	17	29	21	12	6	1	4	4
	4	112	61	64	30	33	3	5	6	3
	5	93	89	73	33	50	1	14	9	2
	6	83	85	21	32	56	3	19	12	3
8	1	49	38	5	9	34	1	6	8	1
	2	19	16	4	4	17	1	9	5	2
	3	9	9	3	7	17	1	9	5	2
	4	2	22	1	8	13	2	10	4	0
	5	2	53	21	8	19	2	10	5	1
	6	23	52	97	32	75	2	23	9	2
9	1	51	60	116	15	49	2	19	10	2
	2	66	35	36	6	45	4	15	10	1
	3	51	16	12	9	46	5	4	7	1
	4	39	16	7	18	49	5	4	5	1
	5	33	23	8	22	50	3	5	6	1
	6	28	17	0	26	50	0	5	6	0
10	1	29	21	30	42	46	14	28	7	7
	2	44	21	44	60	53	16	61	8	7
	3	59	22	70	74	60	8	72	9	3
	4	79	23	92	80	43	8	26	14	5
	5	80	26	75	55	46	9	15	12	4
	6	49	25	40	23	47	9	5	11	2

※「-」は欠測

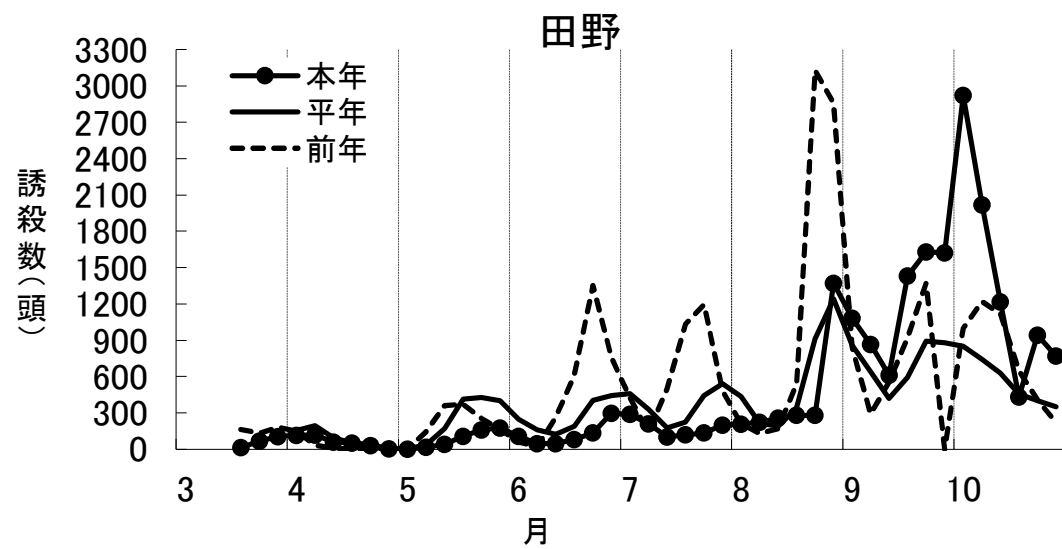
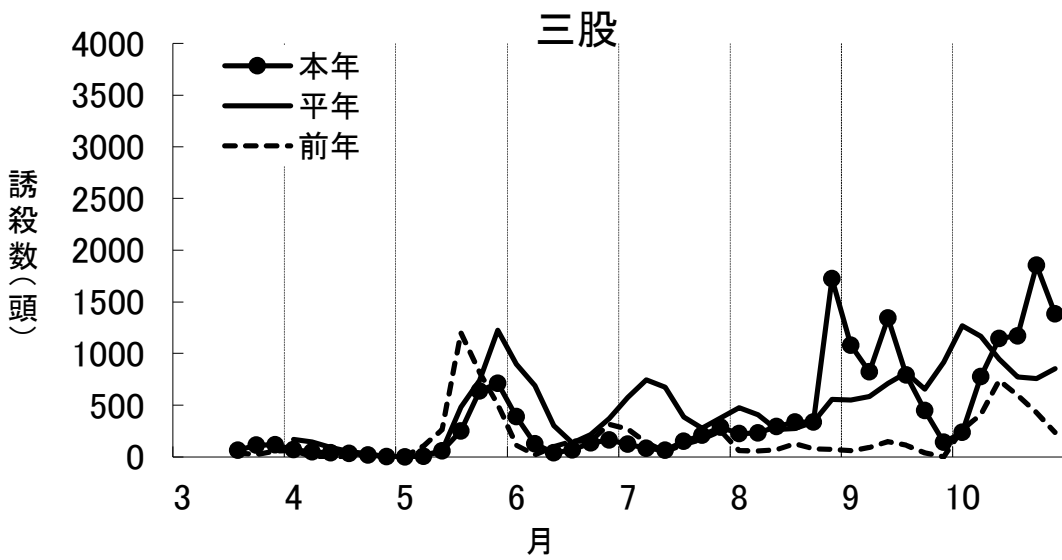
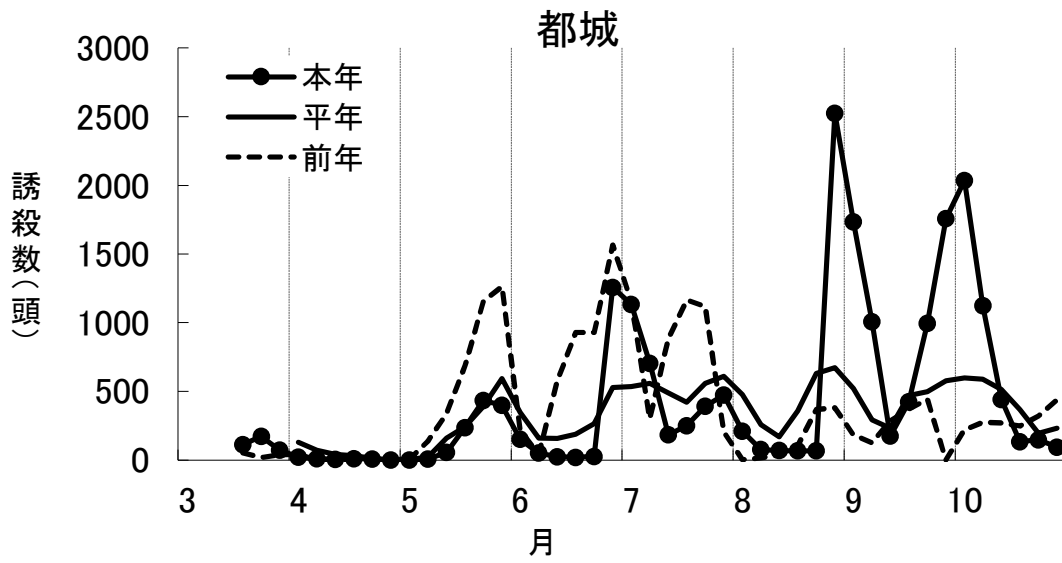


チャノコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺状況(2019年)

(3) チャノホソガの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3									
	4	112		54	64		39	14		162
	5	173		18	116		23	66		132
	6	72		37	118		57	103		181
4	1	22	130	43	69	169	62	115	156	149
	2	10	71	1	50	147	1	117	193	33
	3	5	41	0	39	91	0	60	94	8
	4	10	31	0	32	52	1	51	52	2
	5	7	13	0	19	31	3	31	38	1
	6	0	2	0	1	4	0	4	5	0
5	1	0	2	5	0	2	2	1	3	3
	2	7	21	138	5	14	107	15	37	146
	3	57	160	337	57	62	264	41	172	361
	4	237	241	686	252	481	1,200	106	414	371
	5	435	391	1,157	636	741	823	161	428	254
	6	397	593	1,264	712	1,225	502	177	402	165
6	1	153	347	216	389	896	111	106	246	59
	2	51	160	42	126	688	22	48	160	20
	3	23	159	574	40	304	98	46	124	262
	4	20	187	928	65	136	150	81	189	609
	5	26	266	927	136	215	155	136	404	1,354
	6	1,257	528	1,565	165	370	317	299	442	758
7	1	1,133	535	1,155	123	576	270	288	459	421
	2	704	559	299	82	745	139	209	329	141
	3	184	488	883	64	672	50	102	177	497
	4	251	421	1,166	151	385	118	119	223	1,035
	5	392	558	1,117	208	278	172	136	442	1,195
	6	473	610	204	287	375	252	200	542	482
8	1	211	476	4	226	476	60	206	436	213
	2	76	257	14	230	405	57	222	216	131
	3	70	170	38	295	267	70	256	189	168
	4	66	356	106	338	277	127	279	340	538
	5	66	632	369	338	338	79	279	912	3,130
	6	2,524	673	380	1,725	555	72	1,370	1,242	2,854
9	1	1,734	521	184	1,079	550	61	1,083	858	841
	2	1,008	294	126	823	586	91	865	641	290
	3	175	232	284	1,343	710	148	611	419	558
	4	422	468	371	791	813	112	1,431	592	924
	5	993	498	442	449	655	38	1,630	891	1,371
	6	1,757	577	0	143	916	0	1,621	879	0
10	1	2,036	598	221	235	1,268	263	2,921	851	998
	2	1,125	587	275	775	1,164	410	2,017	740	1,221
	3	441	516	271	1,143	947	739	1,218	627	1,118
	4	133	367	248	1,172	775	593	432	456	647
	5	147	196	320	1,854	759	429	943	401	406
	6	94	231	438	1,385	853	237	770	349	222

※「-」は欠測

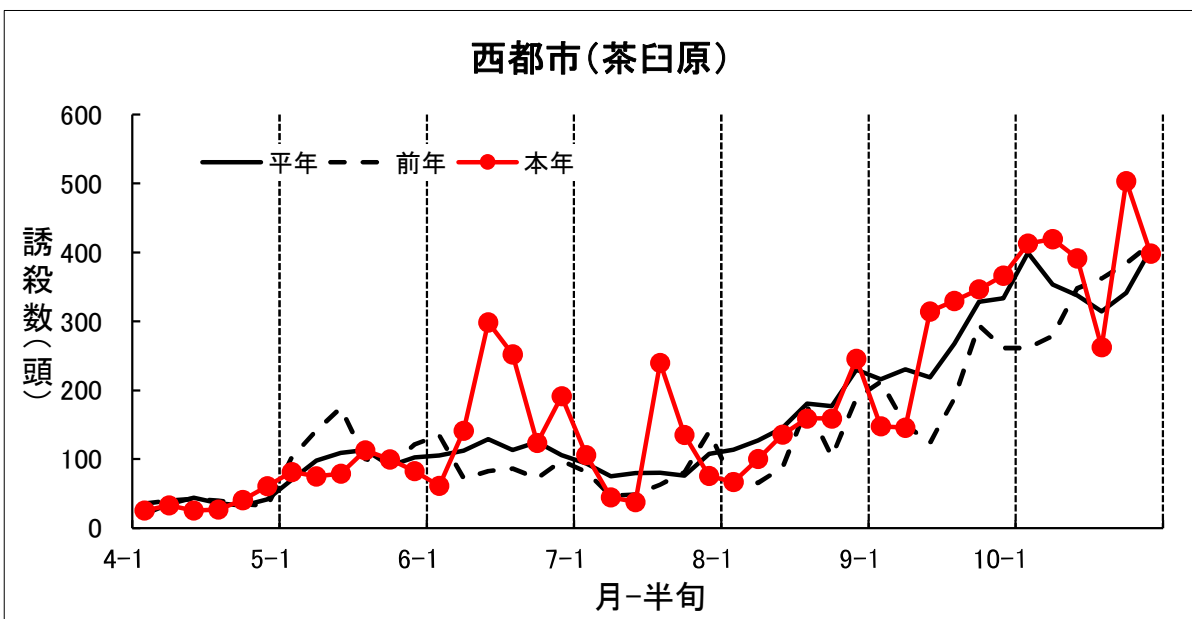
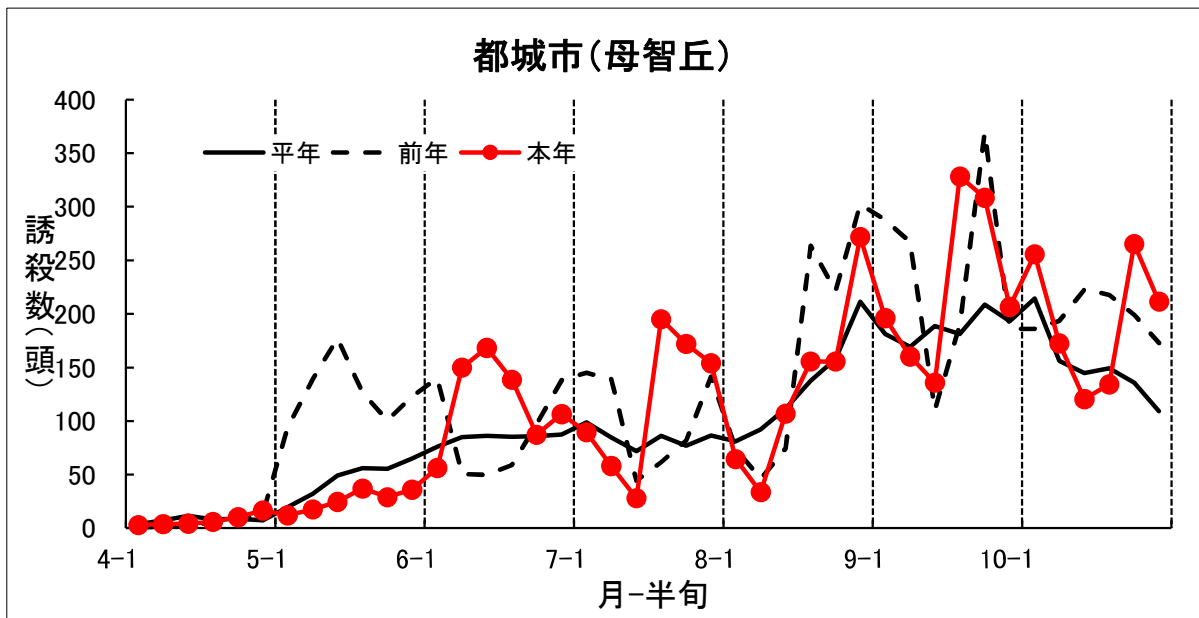
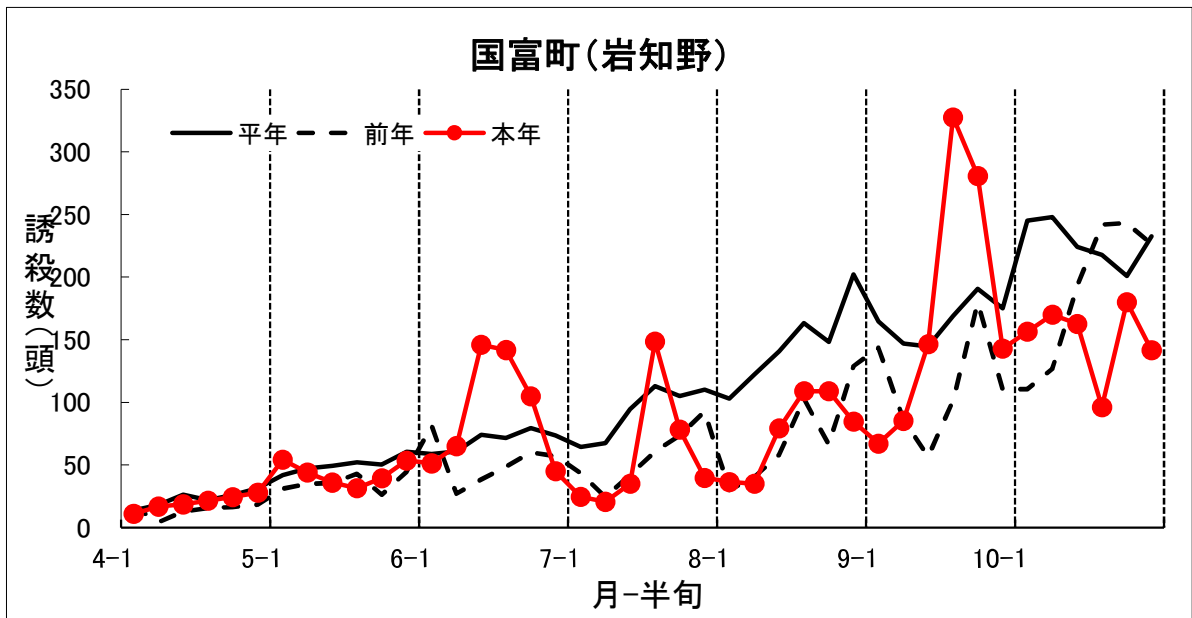


チャノホソガのフェロモントラップ誘殺状況(2019年)

(4) ハスモンヨトウ（雄成虫）の誘殺状況

月	半旬	国富町（岩知野）			都城市（母智丘）			西都市（茶臼原）		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	11.0	13.9	16.9	3.0	3.7	0.9	25.9	20.3	35.4
	2	16.9	18.1	4.3	3.7	7.3	1.4	33.1	35.0	40.0
	3	18.6	26.4	12.9	4.3	11.6	3.1	25.7	44.4	42.3
	4	21.4	22.0	15.6	6.0	8.2	5.0	26.9	36.3	39.7
	5	24.4	26.0	16.4	10.4	8.8	7.1	40.6	32.6	35.0
	6	27.9	31.5	18.3	16.4	7.5	14.2	60.7	42.1	32.5
5	1	54.3	41.9	31.1	12.1	19.7	93.7	81.4	70.4	102.5
	2	44.0	47.2	34.9	17.7	32.0	139.0	75.0	98.0	141.7
	3	36.0	49.4	35.7	24.6	49.0	177.1	79.1	109.2	174.3
	4	31.4	52.2	42.9	37.1	56.0	126.4	112.9	113.4	100.0
	5	39.4	50.4	26.1	29.1	55.4	100.7	99.7	90.2	90.6
	6	53.6	60.4	44.6	36.0	64.8	122.9	82.7	102.4	121.4
6	1	51.3	58.7	81.4	56.3	76.1	140.0	61.4	105.4	135.0
	2	65.0	60.9	27.1	150.0	85.0	50.7	141.4	112.2	72.1
	3	146.1	74.2	38.3	168.3	86.3	49.9	298.6	129.0	82.9
	4	141.9	71.5	48.6	138.6	85.5	58.9	252.1	113.4	86.4
	5	105.0	79.5	60.0	87.1	85.9	97.1	123.6	124.6	72.1
	6	45.0	73.6	57.1	106.4	87.3	138.3	191.4	105.9	97.9
7	1	24.5	64.4	43.6	89.6	98.5	144.9	106.1	94.0	81.4
	2	20.5	67.5	24.3	58.1	84.6	139.3	44.6	75.0	47.1
	3	35.0	94.5	42.1	27.9	71.9	44.3	37.9	80.1	48.6
	4	148.6	112.9	60.6	195.0	86.1	61.4	240.0	80.3	62.7
	5	78.3	104.8	73.7	171.9	76.9	81.9	135.4	76.1	81.0
	6	39.8	110.1	92.6	154.1	86.4	141.4	75.9	107.6	139.7
8	1	36.3	102.9	30.0	64.8	81.0	74.3	66.8	113.9	65.7
	2	35.0	122.3	40.3	33.8	92.2	46.0	100.6	127.0	65.7
	3	79.4	140.9	58.3	106.9	111.7	74.4	135.8	145.4	87.9
	4	108.9	163.3	102.9	155.7	137.6	263.6	159.3	180.6	176.4
	5	108.9	148.2	66.3	155.7	158.0	221.3	159.3	176.7	103.9
	6	84.6	202.0	129.0	271.9	211.3	302.1	245.4	229.9	188.1
9	1	67.1	164.6	143.6	196.1	181.4	287.7	147.6	216.2	212.3
	2	85.3	147.0	86.4	160.3	169.3	267.1	145.7	230.1	150.0
	3	146.4	144.8	56.7	135.7	188.6	110.0	314.3	218.7	123.7
	4	327.6	169.0	101.3	328.3	181.3	190.1	329.7	267.4	188.0
	5	280.9	190.8	179.3	308.4	208.5	369.3	346.7	328.5	294.3
	6	142.9	175.0	110.4	206.4	193.2	186.1	366.4	333.4	261.4
10	1	156.4	245.3	110.4	255.7	214.4	186.1	412.9	399.7	261.4
	2	170.1	247.8	126.9	172.6	156.2	193.4	419.3	353.6	278.7
	3	162.7	224.1	192.9	120.6	144.7	222.9	391.4	337.6	347.9
	4	96.3	217.8	242.0	134.4	149.4	217.7	262.5	314.3	362.1
	5	180.0	201.0	243.1	265.3	135.9	199.0	503.5	341.5	384.3
	6	141.5	232.6	226.4	211.5	109.4	172.9	398.5	403.9	412.1

※ 「-」は欠測

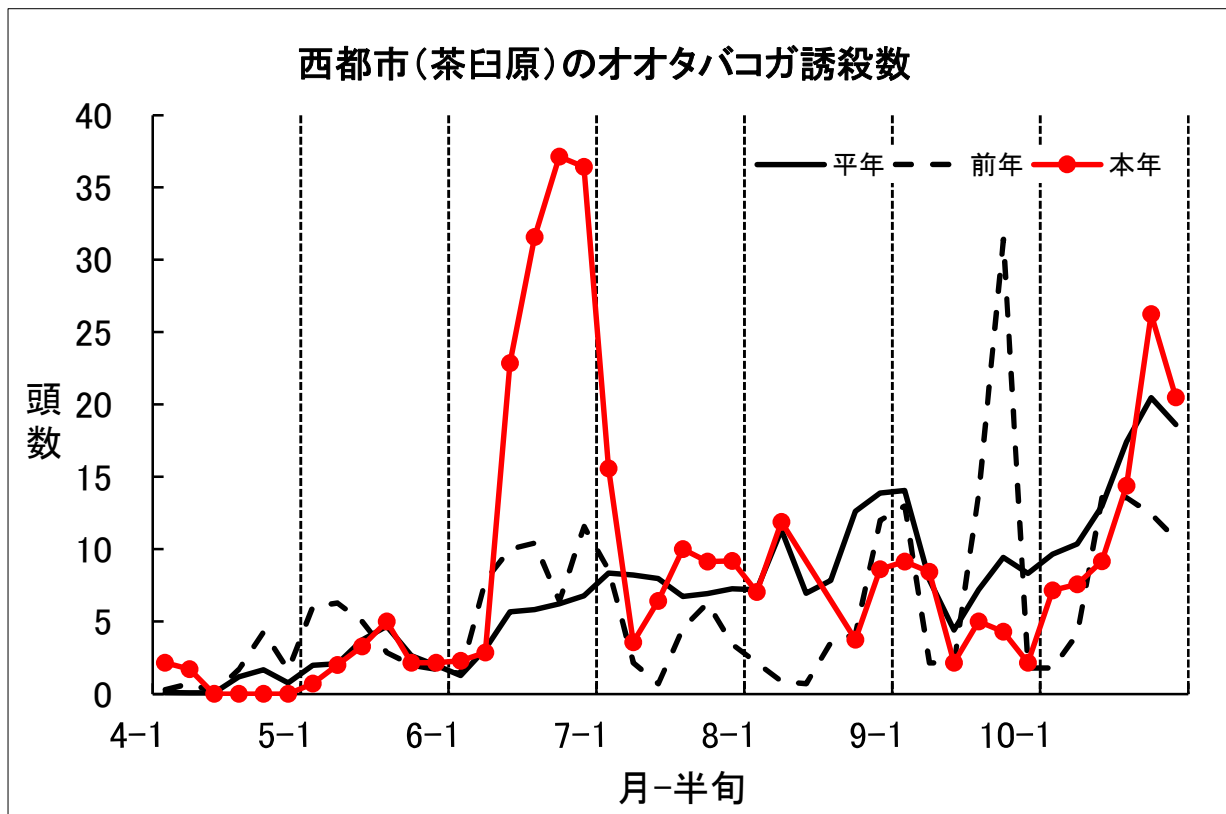
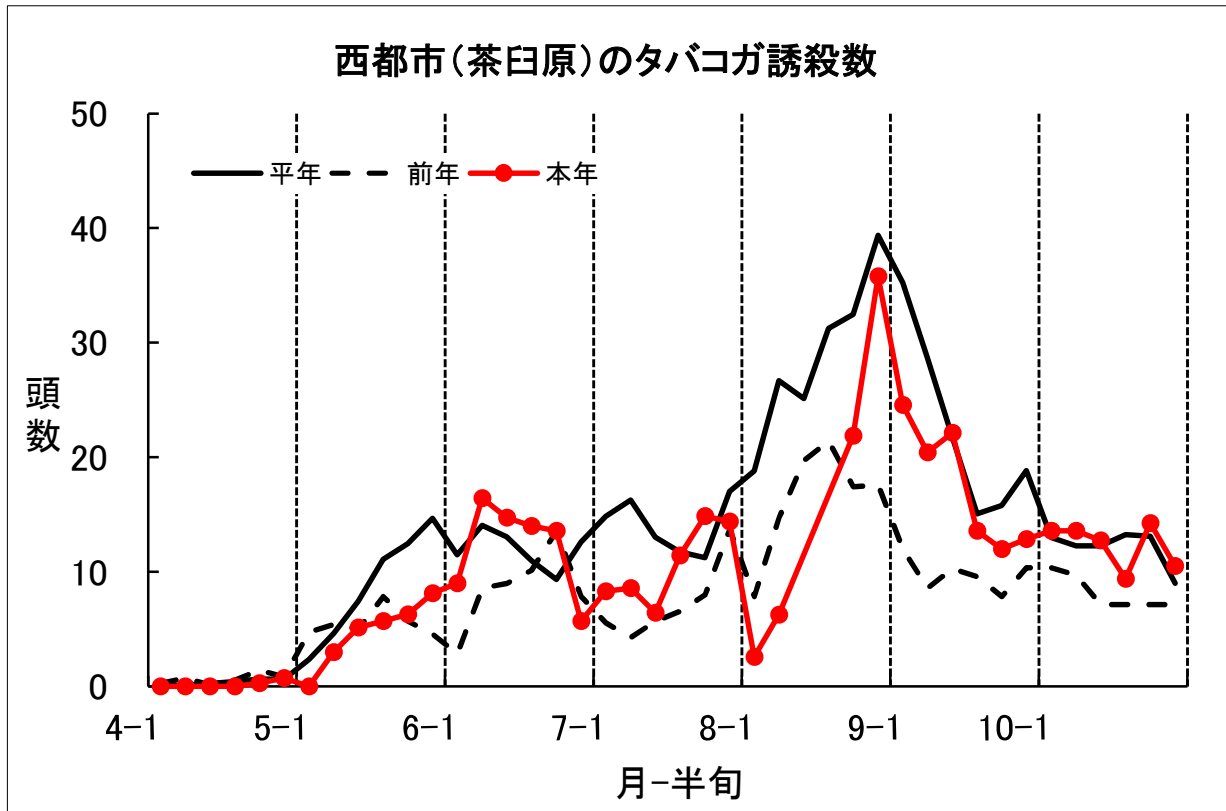


ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺状況 (2019年)

(5) タバコガ・オオタバコガ（雄成虫）の誘殺状況

月	半旬	タバコガ			オオタバコガ		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0	0	2	0	0
	2	0	0	1	2	0	1
	3	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	1	0	1	2
	5	0	1	1	0	2	4
	6	1	1	1	0	1	2
5	1	0	2	5	1	2	6
	2	3	5	5	2	2	6
	3	5	7	5	3	4	5
	4	6	11	8	5	5	3
	5	6	12	6	2	3	2
	6	8	15	5	2	2	2
6	1	9	11	3	2	1	1
	2	16	14	9	3	3	8
	3	15	13	9	23	6	10
	4	14	11	10	32	6	10
	5	14	9	14	37	6	6
	6	6	13	8	36	7	12
7	1	8	15	6	16	8	9
	2	9	16	4	4	8	2
	3	6	13	6	6	8	1
	4	11	12	7	10	7	5
	5	15	11	8	9	7	6
	6	14	17	14	9	7	3
8	1	3	19	8	7	7	2
	2	6	27	15	12	11	1
	3	-	25	20	-	7	1
	4	-	31	21	-	8	4
	5	22	32	17	4	13	4
	6	36	39	18	9	14	12
9	1	25	35	12	9	14	13
	2	20	29	9	8	8	2
	3	22	22	10	2	4	2
	4	14	15	10	5	7	14
	5	12	16	8	4	9	31
	6	13	19	10	2	8	2
10	1	14	13	10	7	10	2
	2	14	12	10	8	10	4
	3	13	12	7	9	13	14
	4	9	13	7	14	17	14
	5	14	13	7	26	20	12
	6	11	9	7	21	19	11

※ 「-」は欠測
フェロモントラップ設置地点：西都市茶臼原



タバコガ、オオタバコガのフェロモントラップ誘殺状況 (2019年)

(6) コブノメイガの誘殺状況

	6 月			7 月			8 月		
	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原
1	0	0	0	0	0	0	2	0	0
2	0	0	0	0	0	0	6	4	0
3	0	0	0	0	0	0	4	0	0
4	0	0	0	0	0	0	1	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	13	4	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	1	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	1	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	2	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0	12	0
15	0	0	0	0	0	0	0	9	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	23	0
16	1	0	0	0	0	0	6	0	0
17	0	0	0	0	0	0	21	0	0
18	0	0	0	0	3	0	6	0	0
19	0	0	1	0	0	0	12	0	0
20	0	0	0	0	0	0	15	2	0
半旬計	1	0	1	0	3	0	60	2	0
21	0	0	0	0	0	0	/	/	0
22	0	0	0	0	0	0	/	/	0
23	0	0	0	0	0	0	/	/	0
24	0	0	0	0	0	0	/	/	0
25	0	0	0	0	0	0	/	/	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	/	/	0
26	0	0	0	0	0	0	/	/	0
27	0	0	0	0	0	0	/	/	0
28	0	0	0	0	0	0	/	/	0
29	0	0	0	0	0	0	/	/	0
30	0	0	0	0	1	0	/	/	0
31	/	/	/	0	2	0	/	/	0
半旬計	0	0	0	0	3	0	/	/	0
月計	0	0	0	0	6	1	0	29	0

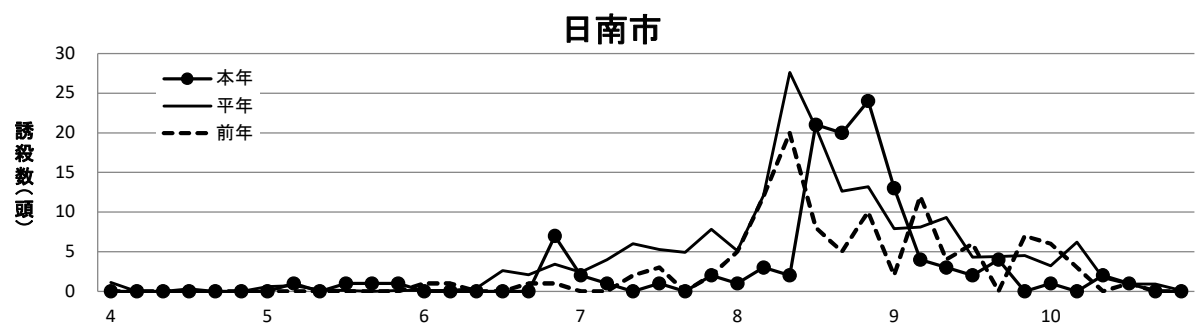
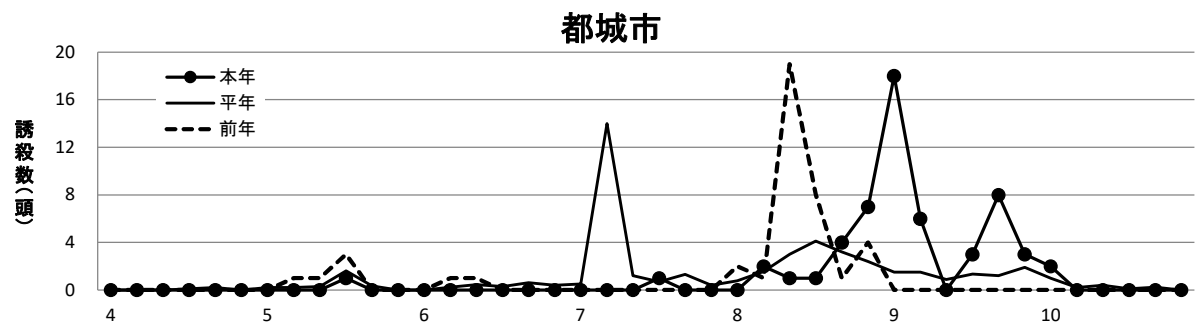
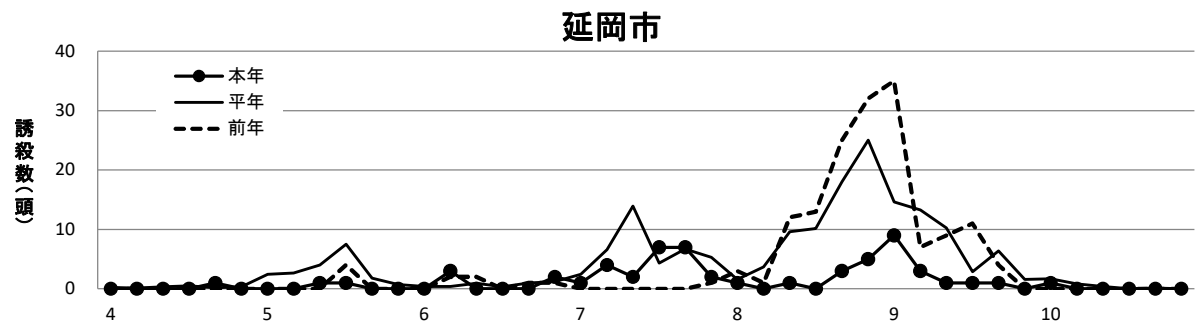
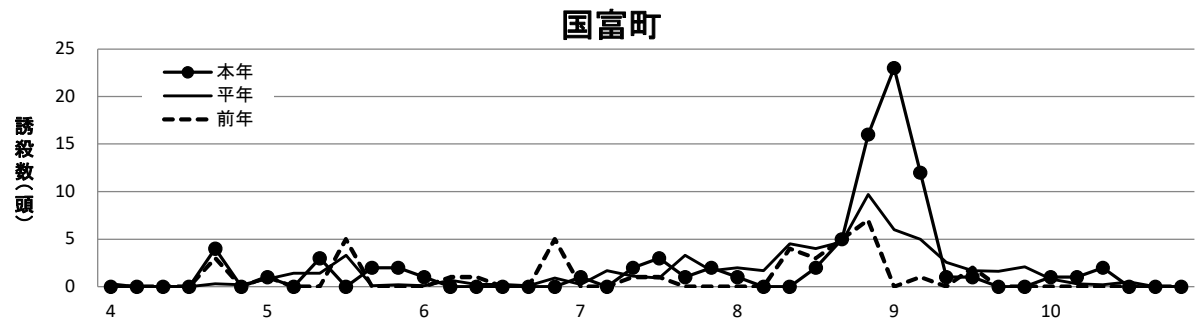
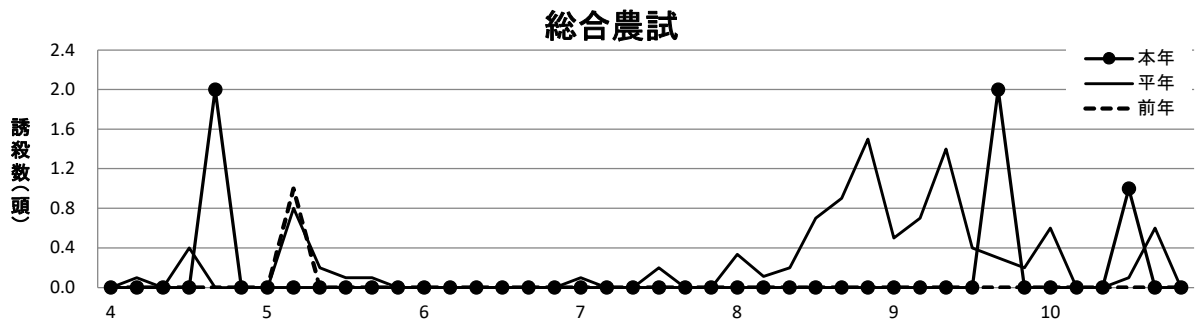
6)果樹カメムシ類の誘殺状況

(1)予察灯における誘殺状況

①チャバネアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0	0	0	0.3	0	0	0.2		0	0	0	0	1.1	0
	2	0	0.1	0	0	0	0	0	0.1		0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0.3		0	0	0	0	0	0
	4	0	0.4	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0.1	0	0	0.3	0
	5	2	0	0	4	0.3	3	1	0.2	0	0	0.2	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0.2	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	1	0.8	1	0	2.4	0	0	0.2	0	0	0.6	0
	2	0	0.8	1	0	1.4	0	0	2.7	0	0	0.2	1	1	0.7	0
	3	0	0.2	0	3	1.4	0	1	4.0	0	0	0.3	1	0	0.2	0
	4	0	0.1	0	0	3.3	5	1	7.5	4	1	1.6	3	1	0.1	0
	5	0	0.1	0	2	0.1	0	0	1.8	0	0	0.3	0	1	0	0
	6	0	0	0	2	0.2	0	0	0.7	0	0	0	0	1	0.1	0
6	1	0	0	0	1	0.1	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0.1	1
	2	0	0	0	0	0.7	1	3	0.4	2	0	0.2	1	0	0.1	1
	3	0	0	0	0	0	1	0	0.9	2	0	0.4	1	0	0.4	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.3	0	0	2.6	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	1.0	1	0	0.6	0	0	2.1	1
	6	0	0	0	0	1	5	2	1.2	1	0	0.4	0	7	3.4	1
7	1	0	0.1	0	1	0	0	1	2.4	0	0	0.5	0	2	2.4	0
	2	0	0	0	0	1.7	0	4	6.6	0	0	14.0	0	1	4.0	0
	3	0	0	0	2	1.1	1	2	13.9	0	0	1.2	0	0	6.0	2
	4	0	0.2	0	3	0.9	1	7	4.3	0	1	0.7	0	1	5.3	3
	5	0	0	0	1	3.3	0	7	6.7	0	0	1.3	0	0	4.9	0
	6	0	0	0	2	1.7	0	2	5.3	1	0	0.4	0	2	7.8	2
8	1	0	0.3	0	1	2.0	0	1	1.6	3	0	0.8	2	1	5.1	5
	2	0	0.1	0	0	1.7	0	0	3.7	1	2	1.6	1	3	12.1	12
	3	0	0.2	0	0	4.5	4	1	9.6	12	1	3.0	19	2	27.6	20
	4	0	0.7	0	2	4.0	3	0	10.1	13	1	4.1	8	21	20.7	8
	5	0	0.9	0	5	4.7	5	3	18.0	25	4	3.2	1	20	12.6	5
	6	0	1.5	0	16	9.7	7	5	25.0	32	7	2.4	4	24	13.2	10
9	1	0	0.5	0	23	6.0	0	9	14.6	35	18	1.5	0	13	7.9	2
	2	0	0.7	0	12	5.0	1	3	13.3	7	6	1.5	0	4	8.1	12
	3	0	1.4	0	1	2.6	0	1	10.2	9	0	0.9	0	3	9.3	4
	4	0	0.4	0	1	1.7	2	1	2.9	11	3	1.3	0	2	4.3	6
	5	2	0.3	0	0	1.6	0	1	6.4	4	8	1.2	0	4	4.4	0
	6	0	0.2	0	0	2.1	0	0	1.6	0	3	1.9	0	0	4.5	7
10	1	0	0.6	0	1	0.8	0	1	1.7	0	2	1.0	0	1	3.2	6
	2	0	0	0	1	0.3	0	0	0.8	0	0	0.2	0	0	6.2	3
	3	0	0	0	2	0.2	0	0	0.4	0	0	0.4	0	2	1.7	0
	4	1	0.1	0	0	0.5	0	0	0	0	0	0.1	0	1	0.9	1
	5	0	0.6	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.2	0	0	0.9	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0
合計		5	10.5	1	87	66.4	40	57	184.1	163	57	48.3	42	118	185.0	112

※「-」は欠測



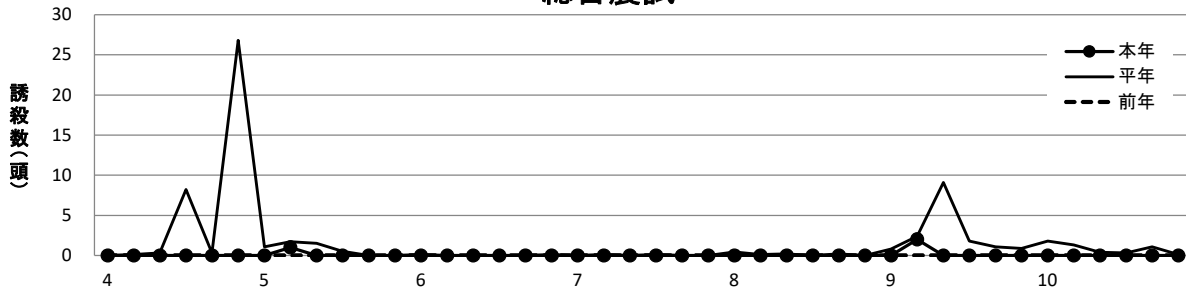
チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺状況(2019年)

②ツヤアオカメムシの誘殺状況

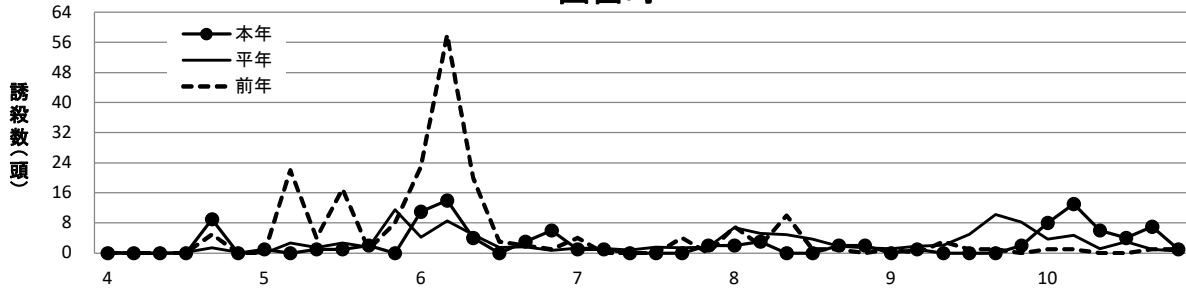
月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0	0	0	0.3	0	0	0.444		0	0	0	0	3.3	4
	2	0	0.1	0	0	0	0	0	0		0	0.1	0	0	0.6	1
	3	0	0.3	0	0	0	0	0	0.1		0	0	0	0	5.1	42
	4	0	8.2	0	0	0.2	0	0	0.4	0	0	0	0	1	6.6	1
	5	0	0.3	0	9	1.4	5	11	0	0	0	0	0	18	9.1	37
	6	0	26.8	0	0	0.2	0	0	0.6	0	0	0	0.1	0	8	4.8
5	1	0	1.1	0	1	0	0	1	1.8	5	0	0	0	1	15.8	33
	2	1	1.7	0	0	2.7	22	0	3.0	7	0	0	0	7	45.3	167
	3	0	1.5	0	1	1.5	4	1	4.7	10	0	0.1	0	1	25.4	89
	4	0	0.5	0	1	2.7	17	1	4.3	24	0	0.6	6	14	34.4	121
	5	0	0	0	2	1.6	1	6	3.8	2	0	0.1	0	36	4.9	2
	6	0	0	0	0	11.5	8	3	1.2	0	0	0.1	0	22	9.1	0
6	1	0	0.1	0	11	4.2	23	5	2.1	7	0	1.2	5	131	6.1	5
	2	0	0	0	14	8.6	58	4	3.6	14	0	0.7	3	45	13.3	73
	3	0	0	0	4	4.9	20	0	1.2	1	0	1.3	2	1	26.7	13
	4	0	0	0	0	1.4	3	0	1.2	1	0	0.6	2	12	19.9	17
	5	0	0	0	3	1.7	2	0	2.3	3	0	0.9	0	6	24.6	3
	6	0	0.1	0	6	0.8	1	0	1.4	0	1	0.3	3	88	14.3	22
7	1	0	0	0	1	1.3	4	0	1.3	3	1	0.4	1	36	8.4	12
	2	0	0.1	0	1	1.2	0	3	1.3	1	0	2.8	4	11	6.6	3
	3	0	0	0	0	0.8	0	0	1.1	1	0	0.9	2	1	11.2	31
	4	0	0.1	0	0	1.6	0	0	0.3	0	0	0.1	0	1	8.4	16
	5	0	0	0	0	1.4	4	0	0.4	0	1	0.5	0	1	6.9	11
	6	0	0	0	2	1.6	0	0	1.6	2	0	0.4	0	0	14.4	1
8	1	0	0.4	0	2	6.8	7	3	10.0	26	1	0.7	1	5	31.9	20
	2	0	0.1	0	3	5.2	2	0	11.3	20	1	1.2	4	4	12.3	15
	3	0	0.2	0	0	4.9	10	0	14.6	13	1	2.2	16	3	13.4	17
	4	0	0	0	0	3.7	1	1	12.1	10	0	1.1	2	2	11.9	5
	5	0	0.2	0	2	1.8	1	2	8.4	2	0	2	2	4	14.5	7
	6	0	0	0	2	1.4	0	1	8.2	3	4	0.6	4	16	8.8	11
9	1	0	0.8	0	0	1.1	1	0	4.7	2	21	0.9	0	13	8.2	9
	2	2	2.4	0	1	1.8	0	0	5.1	5	3	4.6	0	2	16.1	79
	3	0	9.1	0	0	2.1	3	0	3.2	3	10	2.2	1	2	39.6	110
	4	0	1.8	0	0	5.0	1	0	7.9	9	6	3.8	2	5	36.1	50
	5	0	1.1	0	0	10.2	1	6	29.1	3	13	13.5	0	55	104.7	0
	6	0	0.9	0	2	8.2	0	10	18.2	0	23	15.1	0	17	91.0	18
10	1	0	1.8	0	8	3.7	1	14	20.4	7	39	11.8	0	113	42.2	23
	2	0	1.3	0	13	4.7	1	22	9.2	4	16	0.7	0	27	28.3	10
	3	0	0.4	0	6	1.1	0	1	4.3	3	2	0.4	0	3	25.9	2
	4	0	0.3	0	4	3.0	0	10	2.0	1	2	0.6	0	34	24.8	1
	5	0	1.1	0	7	1.0	1	4	3.1	0	1	0.9	1	19	12.4	0
	6	0	0.1	0	1	0.6	1	2	2.2	0	0	0.4	1	4	9.9	0
合計		3	63.0	0	107	117.8	203	111	212.3	192	146	73.9	62	769	857.2	1085

※「-」は欠測

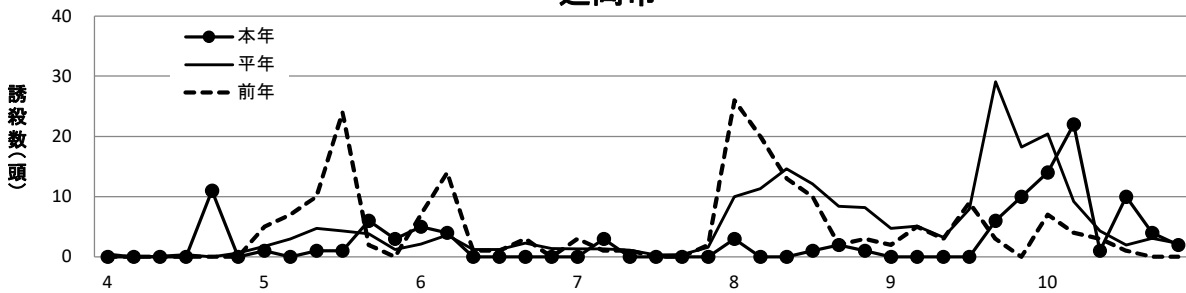
総合農試



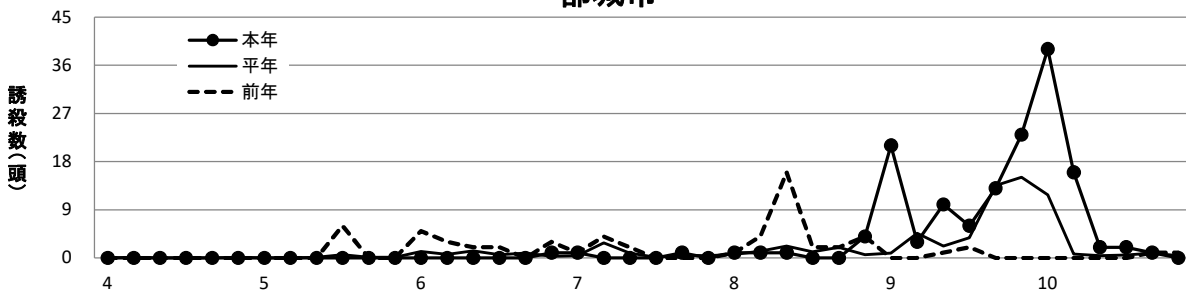
国富町



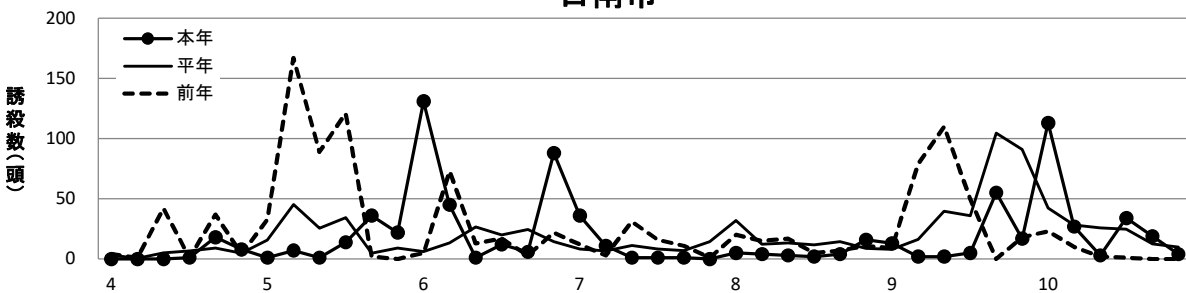
延岡市



都城市



日南市



ツヤアオカメムシの予察灯における誘殺状況(2019年)

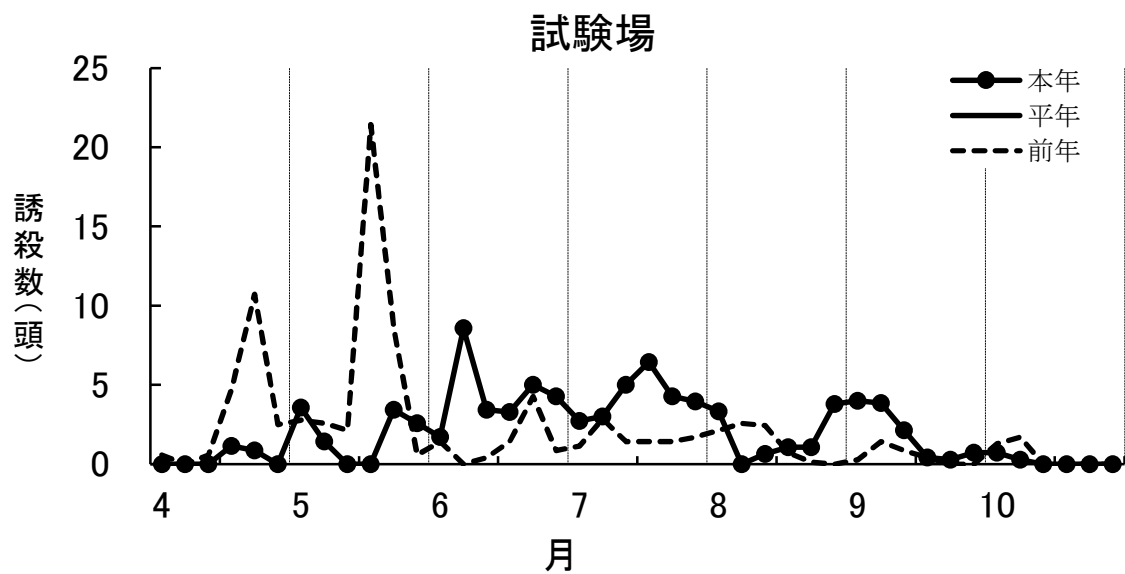
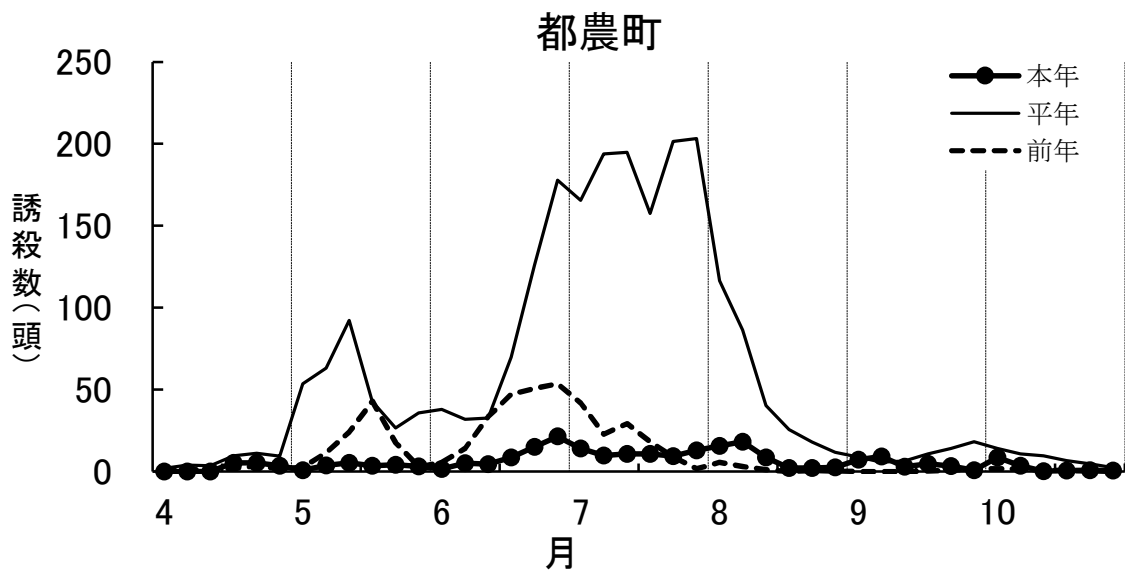
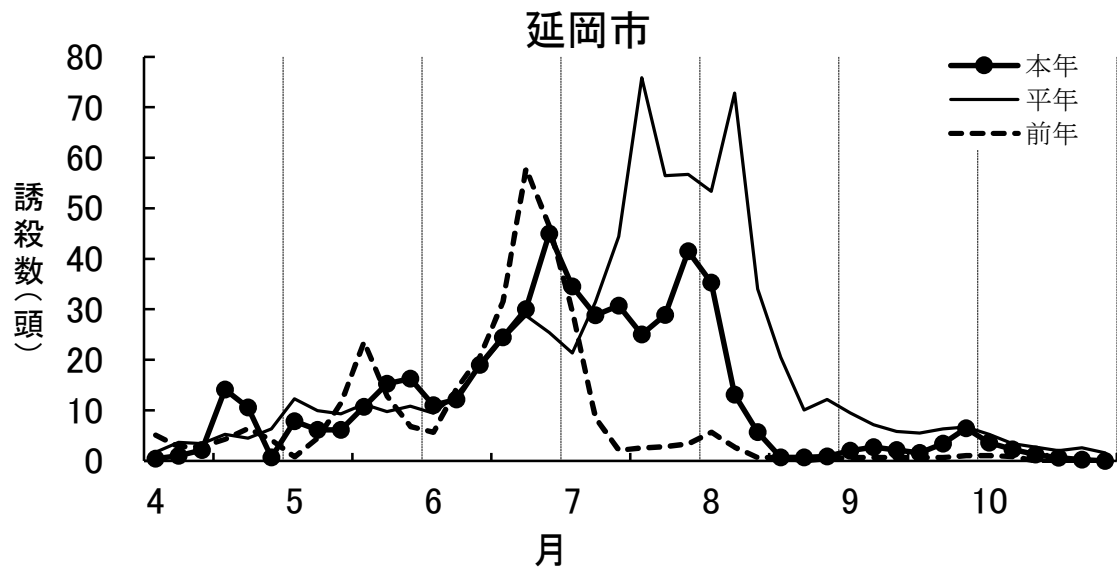
(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況

① チャバネアオカメムシ

※試験場はH28から開始

月	半旬	延 岡			都 農			試験場		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	1.7	5	0	2.1	0	0		1
	2	1	3.7	3	0	3.8	1	0		0
	3	2	3.4	3	0	3.5	1	0		1
	4	14	5.2	4	5	9.5	2	1		5
	5	11	4.5	6	5	11.2	4	1		11
	6	1	6.3	4	4	9.3	2	0		3
5	1	8	12.2	1	1	53.5	3	4		3
	2	6	9.9	5	4	63.0	11	1		3
	3	6	9.3	11	5	92.3	24	0		2
	4	11	11.2	24	4	42.8	43	0		21
	5	15	9.7	13	4	26.5	18	3		9
	6	16	10.8	7	3	35.7	3	3		1
6	1	11	9.4	6	2	37.8	6	2		1
	2	12	13.1	14	5	31.8	14	9		0
	3	19	18.5	21	4	32.6	34	3		0
	4	24	24.0	32	9	69.8	47	3		1
	5	30	28.7	58	15	125.9	51	5		4
	6	45	25.4	46	21	177.8	54	4		1
7	1	35	21.4	30	14	165.5	42	3		1
	2	29	31.4	9	10	193.7	23	3		3
	3	31	44.4	2	11	194.8	29	5		1
	4	25	75.9	3	11	157.5	18	6		1
	5	29	56.4	3	9	201.3	9	4		1
	6	41	56.7	3	13	203.3	2	4		2
8	1	35	53.3	6	16	116.3	6	3		2
	2	13	72.8	3	18	86.3	3	0		3
	3	6	34.0	1	9	40.2	1	1		2
	4	1	20.5	1	2	25.5	0	1		1
	5	1	10.0	0	2	17.9	1	1		0
	6	1	12.1	0	3	11.6	0	4		0
9	1	2	9.5	1	7	8.7	0	4		0
	2	3	7.1	1	9	5.6	0	4		1
	3	2	5.8	1	3	6.5	0	2		1
	4	2	5.5	1	5	10.7	0	0		0
	5	3	6.3	1	3	14.0	1	0		0
	6	6	6.7	1	1	18.2	2	1		0
10	1	4	5.2	1	9	14.0	2	1		1
	2	2	3.4	1	3	10.7	2	0		2
	3	1	2.7	0	0	9.6	1	0		0
	4	1	2.0	0	1	6.7	1	0		0
	5	0	2.6	0	1	4.6	0	0		0
	6	0	1.6	0	1	2.3	0	0		0
計		505	754.9	329	249	2354.5	458	87		90

※「-」は欠測



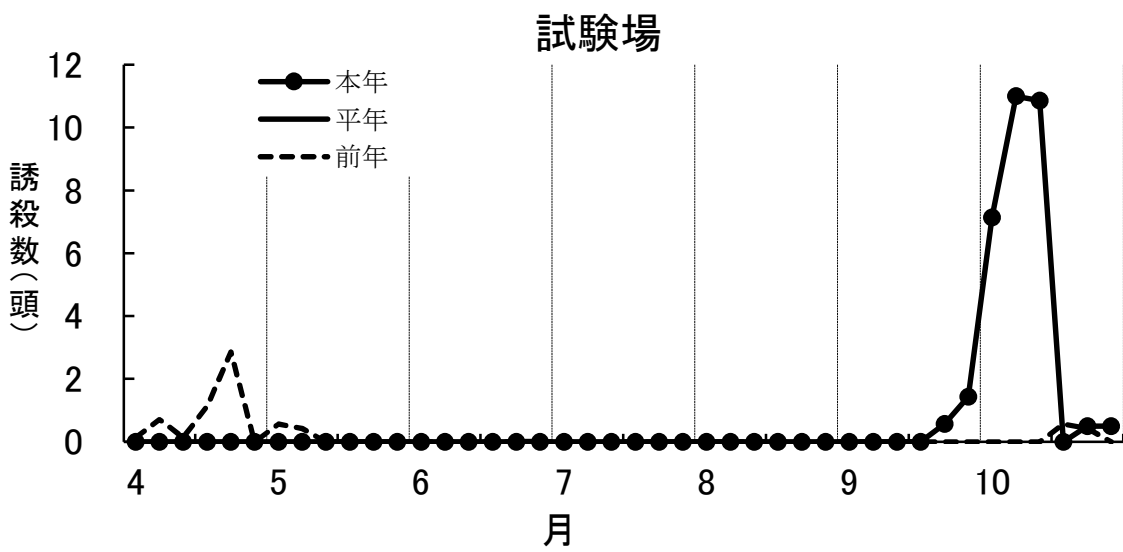
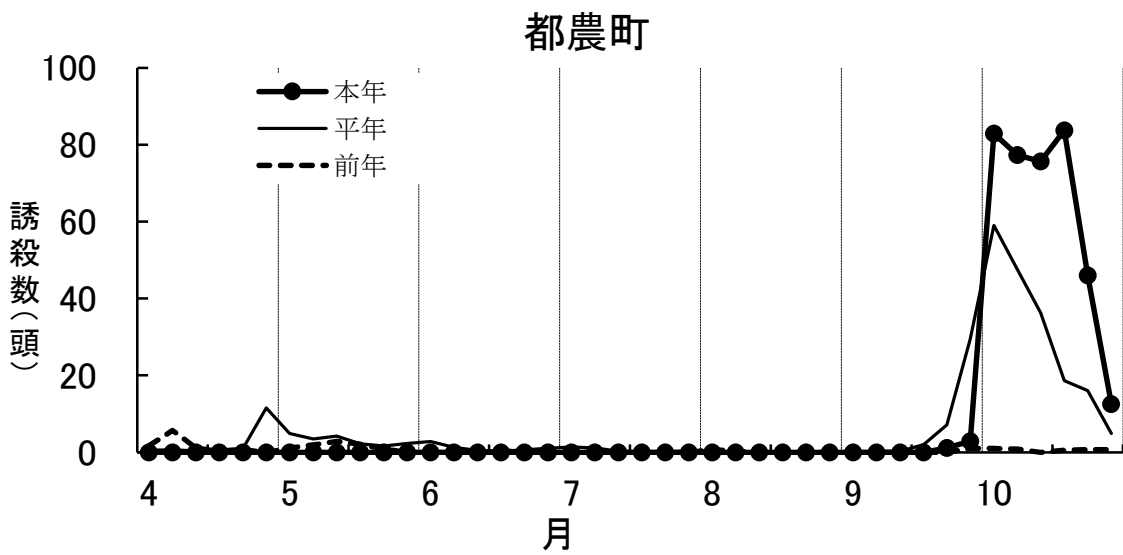
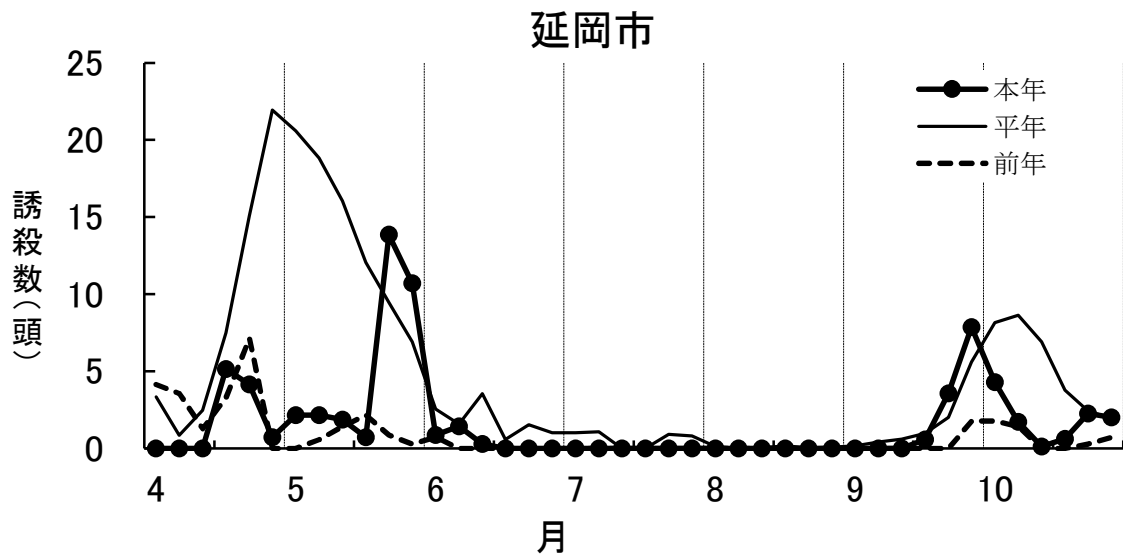
チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺状況(2019年)

② ツヤアオカメムシ

※試験場はH28から開始

月	半旬	延 岡			都 農			試験場		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	3.3	4	0	0.6	2	0		0
	2	0	0.8	4	0	0.6	6	0		1
	3	0	2.5	1	0	0.4	1	0		0
	4	5	7.5	3	0	0.6	0	0		1
	5	4	15.1	7	0	1.0	1	0		3
	6	1	21.9	0	0	11.5	0	0		0
5	1	2	20.6	0	0	4.9	1	0		1
	2	2	18.8	1	0	3.5	2	0		0
	3	2	16.0	1	0	4.2	3	0		0
	4	1	12.0	2	0	2.2	2	0		0
	5	14	9.5	1	0	1.6	1	0		0
	6	11	6.9	0	0	2.3	0	0		0
6	1	1	2.5	1	0	2.8	0	0		0
	2	1	1.6	0	0	1.3	0	0		0
	3	0	3.5	0	0	0.4	0	0		0
	4	0	0.6	0	0	0.3	0	0		0
	5	0	1.5	0	0	0.6	1	0		0
	6	0	1.0	0	0	1.1	0	0		0
7	1	0	1.0	0	0	1.4	0	0		0
	2	0	1.1	0	0	1.1	0	0		0
	3	0	0.0	0	0	0.3	0	0		0
	4	0	0.0	0	0	0.1	0	0		0
	5	0	0.9	0	0	0.1	0	0		0
	6	0	0.8	0	0	0.3	0	0		0
8	1	0	0.1	0	0	0.3	1	0		0
	2	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	3	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	4	0	0.2	0	0	0.0	0	0		0
	5	0	0.0	0	0	0.0	0	0		0
	6	0	0.1	0	0	0.0	0	0		0
9	1	0	0.2	0	0	0.1	0	0		0
	2	0	0.4	0	0	0.2	0	0		0
	3	0	0.6	0	0	0.3	0	0		0
	4	1	1.0	0	0	2.0	0	0		0
	5	4	2.0	0	1	7.1	0	1		0
	6	8	5.6	2	3	29.4	1	1		0
10	1	4	8.1	2	83	59.0	1	7		0
	2	2	8.6	1	77	47.6	1	11		0
	3	0	6.9	0	76	36.2	0	11		0
	4	1	3.8	0	84	18.6	1	0		1
	5	2	2.4	0	46	16.1	1	1		0
	6	2	1.9	1	13	4.9	1	1		0
計		67	191.4	31	382	264.9	26	32		7

※「-」は欠測



ツヤアオカメムシのフェロモントラップ誘殺状況(2019年)

7) 農作物有害動植物の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: 並 前年: 並	189ha	初確認は6月13日(平年: 5月24日、前年5月30日)。発生面積率、発病度、発病株率のいずれも平年並らやや少の発生であった。	発生に好適な条件は散見されたが、好適条件が連続することは少なく、平年よりやや少ない発生になったと考えられる。	育苗箱施肥、初発前の粒剤散布及び初発時の液剤散布。
		平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	762ha	7月中旬の発生面積率、発生程度(発病度)は平年並の発生であった。		
	紋枯病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	1,336ha	7月中旬の発生面積率、発生程度(発病度)は平年並の発生であった。	—	穂揃い期に防除。
	イネミズゾウムシ	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	5,153ha	4月中旬の発生面積率は平年並、被害度はやや多であった。5月中旬の発生面積率及び被害度は平年比やや少であった。	—	育苗箱施肥、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: 並 前年: 並	平年: 多 前年: やや多	3,629ha	4月中旬の発生面積率はやや多、発生程度は多の発生であったため、注意報1号(4月19日付け)を发出。5月中旬の発生面積率、発生程度はともに平年比多の発生であった。	冬期の気温が高く、越冬中のスクミリンゴガイが低温により死亡しにくい条件であった。	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起。 注意報第1号(H31.4.20)
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	2,866ha	6月中旬の本田調査では、発生面積率は平年並、発生程度(20回振すくい取り虫数)は多の発生であったため、注意報2号(6月20日付け)を发出。7月中旬の本田調査においては、発生面積率、発生程度ともに平年並の発生であった。	作期の異なる稲が混在。	穂揃い期とその7~10日後の2回防除を徹底。 注意報第2号(R1.6.20)発表。
	葉いもち	平年: やや少 前年: やや少	平年: やや少 前年: やや少	1,908ha	本田での発生は7月中旬から確認された。発生面積率と発生程度はいずれも平年に比べ並からやや少ない発生で推移した。	平年より梅雨空けが遅かったものの、葉いもちの発生は少なく、7~8月の高温により発生が抑制された。	育苗箱施肥、初発前の粒剤散布及び初発時の液剤散布。
		平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	5,501ha	9月中旬の発生面積率、発生程度(発病率)は平年並の発生であった。		
	紋枯病	平年: やや多 前年: やや少	平年: 並 前年: やや少	5,009ha	8月中旬から確認され、9月中旬の発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並であった。	気温は平年並~やや高めで推移し発生が助長された。	穂ばらみ期の防除。
		平年: ー 前年: ー	平年: やや少 前年: やや少	0ha	発生未確認。		
内穎褐変病	平年: 少 前年: 少	平年: 少 前年: 少	0.0ha	微発生であり、平年より少ない。	—	—	
	平年: 少 前年: 少	平年: 少 前年: 少	0.0ha	—			—

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
大豆	セジロウンカ	平年: やや早い 前年: 早い	平年: 少 前年: 少	8,110ha	予察灯初飛来は6月6日(平年6月7日、前年6月21日)であった。本田では6月中旬の巡回調査から確認され、8月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年よりやや少ない発生であった。	初飛来以降、断続的に飛来はあったが誘殺頭数は少ない状況で推移した。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。
	トビイロウンカ	平年: 早い 前年: 早い	平年: 多 前年: 多	9,781ha	初飛来は、6月中旬から発生が確認され、8月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(株当たり虫数)は平年より多の発生であった。	飛来量、飛来回数ともに多かった。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。防除情報第4号(R1.7.23)発表。注意報第4号(R1.8.1)発表。警報第1号(R1.8.19)発表。防除情報第5号(R1.8.30)発表。
	ヒメトビウンカ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: やや少	8,826ha	7月中旬の発生面積率は平年比少、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年比やや少の発生であった。8月中旬の発生面積率、発生程度は平年より少の発生であった。9月中旬の発生面積率、発生程度はやや少であった。	—	育苗箱施薬。出穂期のウンカ類防除。
	ツマグロヨコバイ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 並	7,157ha	8月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年よりやや少であった。9月中旬の発生面積率はやや少、発生程度は少発生であった。	—	育苗箱施薬。
	コブノメイガ	平年: 早い 前年: 早い	平年: やや多 前年: やや多	4,771ha	フェロモントラップでの初飛来は、6月16日(前年6月24日、平年6月29日)で遅かった。8月中旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度(被害葉率)のいずれもは平年に比べやや多の発生であった。	飛来量、飛来回数ともにやや多かった。	育苗箱施薬。発蛾最盛期の粒剤防除及びウンカ類との同時防除の粉剤・液剤防除。
	イネミズゾウムシ	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	421ha	6月中旬の発生面積率及び発生程度(被害度)は平年より少発生であった。	—	育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: 並 前年: 並	平年: 多 前年: やや多	3,395ha	6月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(m ² 当貝数)は平年よりやや多の発生であった。	—	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	6,202ha	8月下旬の巡回調査では、発生面積率は平年より多、発生程度(20回振すくい取り虫数)はやや多であった。9月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度はいずれも平年並であった。	出穂期、穂ぞろい期防除の徹底。	穂揃い期とそその7～10日後の防除。
	べと病	平年: 遅い 前年: やや遅い	平年: 少 前年: 少	188ha	9～10月の巡回調査における発生面積率と発生程度(発病度)はいずれも平年並から少の発生であった。	—	種子消毒の徹底。
	葉焼病	平年: 一 前年: 一	平年: 並 前年: 並	0ha	発生未確認。	—	—
	ハスモンヨトウ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	219ha	8月中旬の発生面積率は平年比少、9月中旬の巡回調査における発生面積率は平年並であった。	—	若齢期の防除。
	カメムシ類	平年: 並 前年: やや早い	平年: 並 前年: やや少	31ha	調査開始の8月中旬から発生が見られ、8月中旬における発生面積率と発生程度(25株虫数)はいずれも平年比多の発生であったがその後は平年比やや少に落ち着いた。	—	さやの肥大期の防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かんしよ	イモキバガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	2,240ha	8月中旬の発生面積率及び発生程度(被害率)は平年並であった。9月中旬の巡回調査においては、発生面積率はやや多、発生程度はやや少の発生であった。	—	被害初期の防除。
	ナカシロシタハ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	3,360ha	8月中旬の発生面積率と発生程度(被害率)は平年並であった。その後、9月中旬の発生面積率は平年並よりやや少の発生であった。	—	つる先の1~3葉に食害痕が見られる被害初期の防除。
ジャガイモ	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	3,360ha	8月中旬の発生面積率はやや少、発生程度(被害率)は平年並であった。その後、9月中旬の発生面積率、発生程度はともに平年並であった。	—	他の害虫との同時防除。
	疫病	平年：— 前年：—	平年：並 前年：並	0ha	発生未確認。	—	種芋の更新。初発前の予防防除。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	80ha	4月中旬の発生面積率はやや少、発生程度(寄生度)は平年並の発生であった。	—	初発時の防除。
	ニジュウヤホシテントウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	292ha	5月中旬の発生面積、発生程度(株虫数)は平年並であった。	—	幼虫分散前の防除。
	ハスモンヨトウ	平年：— 前年：—	平年：やや少 前年：並	0ha	発生未確認。	—	若齢期の防除。
かんぎつ	そうか病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：—	75ha	葉では平年比やや多、果実では平年並の発生であった。初発は、葉で4月25日(平年比±0日)、果実で5月10日(平年比±0日)であった。	適期防除と病害除去の不徹底	春梢発芽期、落弁期、幼果期の農業防除。
	黒点病	平年：やや遅い 前年：並	平年：やや少 前年：—	672ha	9月までは平年並～やや少で推移した(9月中旬の果実における発生面積率50%、発病度6.7)。初発は、葉で5月22日(平年比+12日)、果実で6月13日(平年比+6日)であった。	8~9月の降水量が平年並であった。	落花期以降の定期的な防除。 枯れ枝の除去。剪定くずの適切な処理。
	かいよう病	平年：並 前年：遅い	平年：多 前年：—	374ha	葉での発生は平年並、果実では8月以降に増加した。(果実における9月の発生面積率は28%、発病度は0.4)初発は、葉で6月10日(平年比+26日)、果実で7月5日(平年比-5日)であった。	新梢の剪定が不徹底の園地で発生が多かった。ミカンハモグリガは平年並の発生であった。	発芽直前、開花直前、落花期の防除。 強風対策として防風垣、防風ネットを設置する。
	ミカンハダニ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：—	300ha	発生面積及び発生程度は、平年並またはそれ以下、特に8月以降はやや少で推移した。9月の発生面積率は22%、寄生率は1.2%。	7~8月の多雨 適期防除の不徹底 夏期マシンの油の散布不徹底	発生初期の防除徹底。 同一系統薬剤の連用を避ける。 冬季、夏期にマシン油乳剤を利用する。
	チャノキイロアザミウマ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：—	75ha	9月中旬に一部のほ場で発生が確認された(発生面積率6%、寄生率0.1%)が、それ以外の時期での発生は認められなかった。	適期防除の不徹底	落花期から9月までの防除。
アブラムシ類	ミカンハモグリガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：—	300ha	新梢発生が早引いた園地での発生が6~7月に確認されたが、発生量は平年並であった。7月の発生面積率22%、寄生率3.4%。	適期防除の不徹底	適期防除の徹底 新梢をだたらと発生させないような肥培管理
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：—	0ha	5~7月の調査において、いずれも発生が認められなかった。	5月下旬以降梅雨時期の長雨で発生が抑制された。	防除の徹底

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
茶	カメムシ類	平年：並 前年：やや遅い	平年：並 前年：一	404ha	予察灯調査では、ツヤアオカメムシは4月中旬、チャハバネアオカメムシは4月下旬から誘殺され、日南市ではツヤアオが6月上、チャハバネが8月下旬に誘殺ピークがみられた。フェロモントラップ調査では、ツヤアオが5月下旬、チャハバネが6月下旬にピークがみられた。誘殺数は、面積とも平年並で推移している。果樹園への飛来が確認されている地域もあるが、被害は確認されていない。	ヒノキ毬果の量は平年よりやや少ない傾向。	園内の発生状況の把握に努め、飛来を確認したら直ちに防除を行う。
	炭疽病	平年：やや遅い 前年：やや遅い	平年：並 前年：一	735ha	9月の発生量(発生面積率53%)が最も高かったが、期間を通して少～並の発生で推移した。	5～6月の降水量は、7月を除き平年並であった。気温は7月が低かった。	二番茶・秋芽生育期の防除
	もち病	平年：遅い 前年：遅い	平年：多 前年：一	327ha	山間部を主体に9月に比較的多く発生(発生面積率24%)がみられ、平年比多となったが、それ以前まではやや少～並の発生であった。	7月は、雨が多く、気温は低めに推移した。	二番茶・秋芽の萌芽期から二・三葉期に、炭疽病との同時防除
	輪斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：一	164ha	8～9月の発生(発生面積率12%)が最も多かったが、発生量は並～やや少で推移した。	8月以降、気温が高めに推移した。	摘採直後の防除 摘採機の洗浄
	チャノコカクモンハマキ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：一	107ha	5月に一部地域で発生を確認(発生面積率8%)したが、全般的には並～やや多の発生であった。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	チャハマキとの同時防除
	チャハマキ	平年：並 前年：並	平年：多 前年：一	164ha	巡回調査で6月と8月に発生を確認(発生面積率6～12%)し、平年比多となったが、それ以外の月は平年並であった。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	チャノコカクモンハマキとの同時防除
	チャノホソガ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：一	817ha	5月以降に発生を確認し、発生ピークは9月(発生面積率59%)にみられたが、期間を通して平年並みで推移した。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	三角葉巻前の防除
	カンザワハダニ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：一	327ha	越冬後の寄生密度は平年並であった。 5月の発生(発生面積率46%)が多かったが平年並であり、それ以外の時期は並～少の発生であった。	5月と7月に雨が多く、気温は8月まで平年並～やや低めに推移した。 適期防除の実施	適期防除
	チャノミドリヒメヨコバ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：一	409ha	7月の発生が最も多かった(発生面積率71%)が、それ以外の時期は平年並以下で推移した。	梅雨明け(7月24日)以降に雨が多く、比較的低温で推移した。 初期防除、適期防除の不徹底	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：一	491ha	6月の発生が最も多かった(発生面積率35%)が、それ以外の時期は平年並～少の発生で推移した。	梅雨明け(7月24日)以降に雨が多く、比較的低温で推移した。 適期防除により発生が抑えられた。	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	クワシロカイガラムシ	平年：やや遅い 前年：並	平年：並 前年：一	164ha	一部園地で7月に発生が増加した時期もあったが(発生面積率12%)、全体的にやや少～少の発生で推移した。	梅雨明け(7月24日)以降に雨が多く、比較的低温で推移した。 適期防除により発生が抑えられた。	孵化最盛期に合わせた防除の徹底

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
平成31年産 冬春キュウリ H30.9～R1.6 (栽培期間)	べと病	平年：やや早い 前年：やや早い	平年：多 前年：多	222ha	発生面積率、発病率ともに期間を通して平年より多の発生であった。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 草勢管理	薬剤による防除 注意報第4号(H30.12.25)発表
	灰色かび病	平年：— 前年：—	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	114ha	栽培当初、発生面積は平年よりやや少なく12月以降は平年並～やや多の発生であったが、発生程度は期間を通しておおむね平年並であった。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 草勢管理	薬剤による防除
	褐斑病	平年：やや遅い 前年：やや早い	平年：やや少 前年：やや少	21ha	栽培期間を通して平年並以下の発生であった。	湿度管理の不徹底 窒素質肥料の多用 発生初期の防除が不徹底	初期防除の徹底 薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年：やや遅い 前年：並	平年：少 前年：やや少	80ha	黄化えそ病等ウイルス病の媒介虫対策として、定植時の粒剤施用等が徹底されてきたことから、栽培期間を通して少ない発生で推移した。それに伴いMYSVの発生も抑えられていた。	定植時～定植初期の薬剤防除の不徹底 薬剤感受性の低下	定植時の粒剤施用 薬剤のローテーション散布 防虫ネットの設置
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：やや早い	平年：やや少 前年：並	10ha	栽培期間を通して平年並以下の発生であった。	施設開放時の侵入防止対策等の不備	防虫ネットの設置 若齢期防除の実施
	モザイク病	平年：— 前年：—	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	早期拔根等の実施	土壌消毒の実施 抵抗性品種の導入 媒介昆虫の防除
	斑点病	平年：遅い 前年：遅い	平年：並 前年：やや多	41ha	11月まで発生が確認されず、12月以降も平年並以下の発生であった。	施設内湿度管理の不徹底 発生初期の防除の不徹底 罹病果の除去が不徹底	薬剤による防除 施設内湿度の適正管理 罹病果の持ち出し
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	56ha	栽培期間を通して平年並以下の発生であった。	初期防除の不徹底 窒素質肥料の多用	薬剤による防除
	灰色かび病	平年：— 前年：—	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	薬剤による防除
平成31年産 冬春トマト H30.9～R1.6 (栽培期間)	ミナミキイロアザミウマ	平年：やや遅い 前年：並	平年：少 前年：並	16ha	栽培期間を通して、平年よりもやや少～少の発生であった。	効果の高い化学薬剤の散布 天敵利用	防虫ネットの設置 薬剤による防除 生物農薬等の活用
	灰色かび病	平年：遅い 前年：遅い	平年：少 前年：やや少	2ha	期間を通して平年並以下の発生であった。	施設内管理の徹底 草勢管理の徹底	薬剤による防除
	葉かび病	平年：遅い 前年：遅い	平年：やや多 前年：並	29ha	12月まで発生はほとんど確認されなかったが、1～2月に平年より多の発生になり、3月以降は平年並の発生となった。	発生初期の対応の遅れ 作業遅れによる栽培環境の悪化	薬剤による防除 抵抗性品種の導入 罹病果の持ち出し 注意報第6号(H31.2.27)発表

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
平成31年産 いちご H30.9～R1.5 (栽培期間)	黄化葉巻病	平年：やや遅い 前年：やや遅い	平年：並 前年：並	4ha	12月と4月に発生が確認されたが、早期抜根処理を行っているため、その後の発生は確認されず、おおむね平年並の発生となった。	タバココナジラミ類防除の不徹底	媒介昆虫の防除 罹病株の除去及び適正処分
	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	56ha	定植直後から発生がみられたが、栽培期間を通して平年並の発生であった。	育苗～定植初期における防除の不徹底 進入防止対策の不備	防虫ネットの設置 薬剤による防除 薬剤のローテーション散布
	ハモグリハエ類	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は確認されなかった。	効果の高い化学薬剤の散布	初期防除の徹底 薬剤による防除
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや少	8ha	定植直後から葉で発生がみられたが、栽培期間を通して平年並～少の発生であった。	夏季の高温による越夏量の減少 親株床での防除の不徹底 初期防除の不徹底	薬剤による防除 初期防除の徹底 古葉、罹病葉の持ち出し
	灰色かび病	平年：遅い 前年：やや早い	平年：やや少 前年：並	1ha	2月まで発生は確認されず、期間を通して平年並の発生であった。	初期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	炭疽病	平年：並 前年：やや遅い	平年：やや少 前年：並	1ha	親株床の潜在感染株調査で平年よりやや多であったが、本ほでの発生は平年並～やや少の発生であった。	育苗期間の防除が不徹底、健全株の選抜の不備	健全苗の選抜の徹底 罹病株及び周辺株の除去
	ハダニ類	平年：やや遅い 前年：やや遅い	平年：やや少 前年：並	22ha	期間を通して平年よりやや少～少の発生であった。	効果の高い薬剤が少ない	薬剤による防除 早期発見によるスポット防除
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：少 前年：やや少	1ha	期間を通して平年並～やや少の発生となった。	侵入防止対策の不備	薬剤による防除 防虫ネットの設置
	萎黄病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底	高温期の播種を避ける 連作を避ける
	軟腐病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	57ha	栽培期間を通して平年並の発生であった。	初期防除の不徹底 発病株の放置	排水を良くする
コナガ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	57ha	11月以降被害が見られたが、平年よりやや少の発生であった。	初期防除の不徹底 薬剤感受性の低下	薬剤による防除	
ダイコンサルハムシ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	228ha	生育初期から被害が見られたが、平年よりやや少の発生であった。	初期防除の不徹底	薬剤による防除	

(2) 発生面積及び防除面積等

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考		
			甚	多	中	少		実	延					
早期水稲	6,300	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同)	6,237	(同)	6,237	0	0	
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同)	5,796	(同)	5,796	0	0	
		葉いもち	0	0	0	189	189	(同)	5,796	(同)	11,592	0	2,624	
		穂いもち	0	0	0	762	762	(同)	5,796	(同)	11,592	0	2,084	
		紋枯病	0	0	0	1,336	1,336	(同)	2,835	(同)	2,835	0	2,333	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ばか苗病	0	0	0	0	0	0	(同)	5,670	(同)	5,670	0	0
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		" (種)	0	0	0	0	0	0	(同)	6,237	(同)	6,237	0	
		ごま葉枯病	0	0	0	762	762	0	0	0	0	0	0	352
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		縮葉枯病	0	0	0	0	0	0	504	504	504	0	0	0
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		もみ枯細菌病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,903
		" (種)	0	0	0	0	0	0	(同)	6,237	(同)	6,237	0	
		内穎褐変病	0	0	0	189	189	-	-	-	-	-	0	4,455
稲こらじ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
セジロウンカ	0	0	0	2,482	2,482	504	(同)	504	(同)	504	0	4,424		
トビイロウンカ	0	0	0	384	384	504	(同)	504	(同)	504	0	116		
ヒメトビウンカ	0	0	0	1,909	4,965	504	(同)	504	(同)	504	1,909	6,552		
ツマグロヨコバイ	0	0	0	189	2,671	504	(同)	504	(同)	504	189	5,033		

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同)	1,071	1,071		
		イネゾウムシ	0	0	0	189	189	(同)	1,071	1,071	529	
		斑点米カメムシ類	0	0	384	2,482	2,866	(同)	1,071	3,780	3,306	
		イネツトムシ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		フタオビコヤガ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		コブノメイガ	0	0	0	958	958	0	0	0	876	
		イネミズゾウムシ	0	0	0	5,153	5,153	(同)	1,071	1,071	5,275	
		スクミリンゴガイ	0	189	2,482	958	3,629	(同)	504	504	2,820	
普通期水稻	9,870	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同)	9,682	9,682	0	
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同)	8,998	8,998	0	
		葉いもち	0	0	0	1,908	1,908	(同)	8,998	17,995	5,973	
		穂いもち	0	0	611	4,890	5,501	(同)	8,998	611	6,950	
		紋枯病	0	0	0	5,009	5,009	(同)	6,846	0	4,960	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同)	8,802	8,802	0	
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		" (種)	0	0	0	0	0	(同)	8,802	8,802	0	
		ごま葉枯病	0	0	0	1,223	1,223	(同)	0	0	3,569	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)			計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中		少	実			
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	
		もみ枯細菌病	0	0	0	0	(同)	0	0	3,145	
		”((種)	0	0	0	0	(同)	9,682	(同)	9,682	0
		内穎褐変病	0	0	0	0	-	-	0	7,249	
		稲こらじ病	1223	611	0	2,445	(同)	6,846	(同)	6,846	1,834
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	(同)	4,792	(同)	4,792	0
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	(同)	0	(同)	0	0
		セジロウンカ	0	0	0	8,110	(同)	9,682	(同)	19,169	0
		トビイロウンカ	0	0	1,223	8,558	(同)	9,682	(同)	19,169	1,223
		ヒメトビウンカ	0	716	2,385	5,725	(同)	9,682	(同)	19,169	3,101
		ツマグロヨコバイ	0	0	239	6,918	(同)	9,682	(同)	19,169	239
		イネハモク*リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		イネヒメハモク*リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	(同)	1,663	(同)	1,663	0
		イネゾウムシ	0	0	0	0	(同)	1,663	(同)	1,663	0
		斑点米カメムシ類	0	1,908	1,670	2,624	(同)	4,988	(同)	5,868	3,578
		イネツトムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		フタオビコヤガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		コブノメイガ	0	0	0	4,771	(同)	7,824	(同)	7,824	0
		イネミズゾウムシ	0	0	0	421	(同)	1,663	(同)	1,663	0
		スクミリンゴガイ	0	421	421	2,553	(同)	782	(同)	782	842
大豆	219	紫斑病	0	0	0	0	0	0	0	54	
		さび病	0	0	0	0	0	0	0	15	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
		立枯性病害	0	0	0	0	0	0	0	0			
		べと病	0	0	0	188	188	0	0	0	206		
		葉焼病	0	0	0	0	0	0	0	0	12		
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
		アブラムシ病	0	0	0	31	31	153 (同)	153	0	21		
		コガネムシ類	0	31	0	0	31	153 (同)	153	31	161		
		ハスモンヨトウ	0	0	125	94	219	153 (同)	153	125	269		
		ハダニ類	0	0	0	0	0	0	0	0			
		タノイサヤタマハエ	0	0	0	0	0	0	0	0			
		マメヒメサヤムシカ	0	0	0	0	0	0	0	0			
		マメシクイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	18		
		シロイモシマタラメイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	22		
		カメムシ類	0	0	63	0	63	153 (同)	153	63	133		
		ウコンノメイガ	0	0	0	0	0	0	0	0			
さつまいも	3,360	ナカジロシタバ	1400	0	1,120	840	3,360	2,822 (同)	5,578	2,520	3,247		
		ハスモンヨトウ	1400	0	1,120	840	3,360	2,822 (同)	5,578	2,520	3,247		
		イモコガ	0	0	0	2,240	2,240	2,822 (同)	5,578	0	2,068		
		疫病	0	0	0	0	0	0	238 (同)	478	165		
じゃがいも	398	アブラムシ類	0	0	0	80	80	238 (同)	478	0	322		
		ニシユウヤホシテントウ	0	0	0	0	0	238 (同)	478	0	139		
かんきつ	1,345 温州 685 晚柑 660	そうか病(春葉)	0	0	0	75	75	942	942	0	55		
		そうか病(果実)	0	0	0	75	75	942	1,884	0	111		
		黒点病(果実)	0	0	0	822	822	942	2,826	0	931		
		かいよう病(春葉)	0	0	0	225	225	942	942	0	160		
		かいよう病(果実)	0	0	0	374	374	942	942	0	127		
日焼け炭疽病	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		ミカンハダニ	0	0	75	225	300	1,345	4,708	75	643	
		ミカンサビダニ	0	0	0	0	0	1,345	4,708	0	0	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	75	75	1,211	3,633	0	46	
		ミカンハモグリガ	0	75	0	225	300	300	450	75	543	
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	0	0	0	279	
		カメムシ類	0	0	0	404	404	404	808	0	490	
茶	1,390	炭疽病	0	0	0	735	735	1,390	4,865	0	925	
		もち	0	0	0	327	327	1,390	4,865	0	189	
		網もち	0	0	0	0	0	1,390	4,865	0	0	
		輪斑	0	0	0	164	164	1,390	2,780	0	289	
		チャノココクモンハマキ	0	0	0	107	107	1,390	4,865	0	63	
		チャハマキ	0	0	0	164	164	1,390	4,865	0	66	
		チャノホソガ	0	0	0	817	817	1,390	4,865	0	986	
		カンザワハダニ	0	0	82	245	327	1,390	3,475	82	722	
		チャノミドリヒメヨコハイ	0	0	409	573	982	1,390	4,865	409	0	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	491	491	1,390	4,865	0	885	
		クワシロカイカラムシ	0	0	82	82	164	487	731	82	551	
		カスミカメ類	0	0	0	0	0	209	209	0	626	
冬春キュウリ	361	べと病	14	65	73	69	222	343	1,713	152	148	
(H30.9		炭そ	0	0	0	0	0	151	303	0	0	
~R元.6)		疫	0	0	0	0	0	144	144	0	0	
		灰色かび病	0	0	0	0	0	144	144	0	5	
		うどんこ病	0	0	3	111	114	361	1,442	3	105	
		褐斑	0	0	5	18	23	346	1,039	5	49	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	90	180	0	0	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ミナミキイロアザミウマ	0	6	5	69	80	343	2,055	11	152	
		アブラムシ	0	0	0	0	0	144	144	0	2	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
冬春ピーマン (H30.9 ～R元.6)	192	疫病	0	0	0	0	0	80	80	0	0	
		斑点病	0	0	14	27	41	153	613	14	57	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	38	38	0	0	
		うどんこ病	0	0	5	51	56	169	506	5	71	
		灰色かび病	0	0	0	0	0	48	96	0	0	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	96	192	0	7	
		タバコガ	0	0	0	0	0	105	211	0	1	
		ミナミキロアザミウマ	0	0	2	14	16	186	1,301	2	76	
		ヒラズハナアザミウマ	12	21	42	46	120	186	1,301	74	81	
冬春トマト (H30.9 ～R元.6)	154	疫病	0	0	0	0	0	115	461	0	4	
		灰色かび病	0	0	0	2	2	138	276	0	17	
		葉かび病	0	0	13	15	29	108	323	13	18	
		コナジラミ類	0	0	4	52	56	154	1,075	4	57	
		ハモグリバエ類	0	0	0	0	0	126	252	0	8	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	69	138	0	1	
		ハスモンヨトウ	0	0	0	2	2	69	138	0	13	
		灰色かび病	0	0	0	1	1	50	101	0	3	
		うどんこ病	0	1	1	6	8	57	114	2	22	
秋冬ダイコン (H30.9 ～R元.5)	57	炭そ病	0	0	1	0	1	14	29	1	6	
		アブラムシ類	0	1	1	10	11	57	172	2	24	
		ハダニ類	0	0	2	21	22	57	229	2	41	
		ハスモンヨトウ	0	0	0	2	2	57	114	0	6.3	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	237	
		アブラムシ類	0	0	0	228	228	707	707	0	706	
キスジノミハムシ ～H30.12)			0	0	0	0	0	228	228	0	137	

8) 有害動植物発生予察事業実施状況

(1) 発表情報一覧(警報、注意報、特殊報、防除情報)

情報の種類	番号	発令月日	対象作物	対象病虫害	情報内容
警報	1号	8月19日	普通期水稲	トビイロウンカ	次ページ以降を参照
注意報	1号	4月19日	早期水稲	スクミリンゴガイ	
	2号	6月20日	早期水稲	斑点米カメムシ類	
	3号	7月18日	野菜・花き類	ハスモンヨトウ	
	4号	8月1日	普通期水稲	トビイロウンカ	
	5号	11月25日	冬春ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	
	6号	12月24日	冬春きゅうり	キュウリ黄化えそ病	
	7号	12月24日	冬春トマト	トマト黄化葉巻病	
防除情報	1号	5月29日	施設野菜(きゅうり、ピーマン、トマト、イチゴ)	施設野菜の病虫害(アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類)	
	2号	6月25日	サツマイモ	サツマイモ腐敗対策	
	3号	7月2日	サトイモ	サトイモ疫病初発情報	
	4号	7月23日	普通期水稲	海外飛来性害虫の動向	
	5号	8月30日	普通期水稲	トビイロウンカ	
	6号	10月28日	冬春果菜類(きゅうり、ピーマン、トマト他)	ウリ類黄化えそ病、トマト黄化葉巻病、ウリ類退緑黄化病	
	7号	1月27日	冬春ピーマン	タバココナジラミ	
	8号	3月24日	早期水稲	スクミリンゴガイ	
	9号	3月24日	冬春ピーマン	ヒラズハナアザミウマ	
	10号	3月24日	冬春きゅうり	キュウリべと病	
特殊報	1号	7月12日	飼料用トウモロコシ	ツマジロサクヨトウ	
	2号	7月26日	ソルガム	ツマジロクサヨトウ	

警報 警報 警報 警報 警報 警報 警報 警報 警報

26150-1434
令和元年8月19日

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県農政水産部長

令和元年度病虫害発生予察警報第1号について

令和元年度病虫害発生予察警報第1号を発表したので送付します。

令和元年度病虫害発生予察警報第1号

令和元年8月19日
宮崎県

病虫害名 トビイロウンカ

作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域

2. 発生時期 ー

3. 発生程度 多

4. 警報発令の根拠

(1) 県では注意報第4号(令和元年8月1日付け)を発表し、トビイロウンカに対する防除徹底を啓発したところである。しかし、8月中旬に実施した巡回調査の結果、依然として発生地域は拡大し、生息密度も高まっている(図1、2)。

(2) 8月中旬の巡回調査における発生面積率75.6%は過去10年間で最も高く、坪枯れ等の被害が発生した平成25年度(トビイロウンカに対する警報を発表)よりも高い。株当たり虫数1.36頭は過去10年間で平成25年度に次いで多い(図3、4)。特に西諸県における生息密度は急激に高まっており、発生面積率100%、株当たり虫数5.81頭となっている(表1)。

(3) 産卵数の多い短翅型雌成虫の株当たり虫数0.14頭は過去10年間で最も多い(図5)。特に西諸県では、短翅型雌成虫の株当たり虫数が0.47頭となっており、要防除水準を大きく上回っている(表1、要防除水準:8月上旬~9月中旬の短翅型雌成虫株当たり0.2頭)。

(4) 鹿児島地方气象台が8月8日に発表した向こう1か月の気温(8月10日~)は高い確率が70%、降水量は平年並または少ない確率が70%と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況が続くと考えられる。

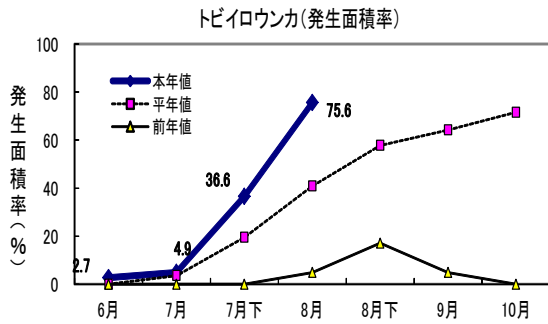


図1. 発生面積率

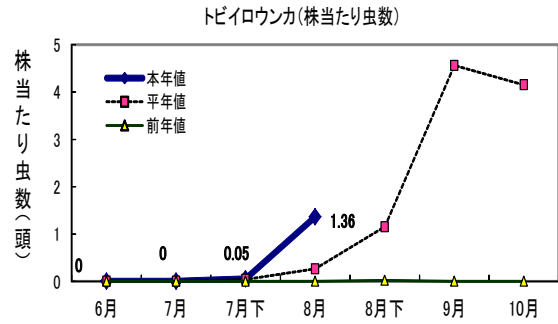


図2. 株当たり虫数

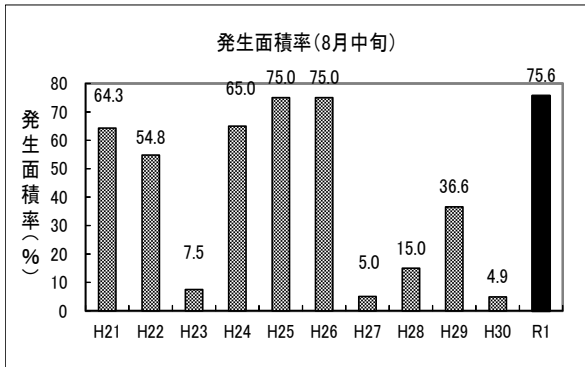


図3. 発生面積率の年次推移推移

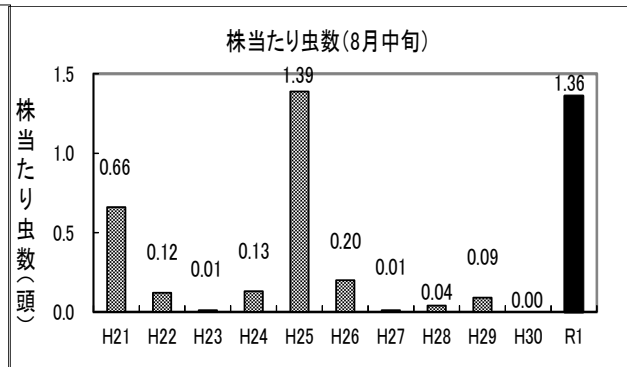


図4. 株当たり虫数の年次推移

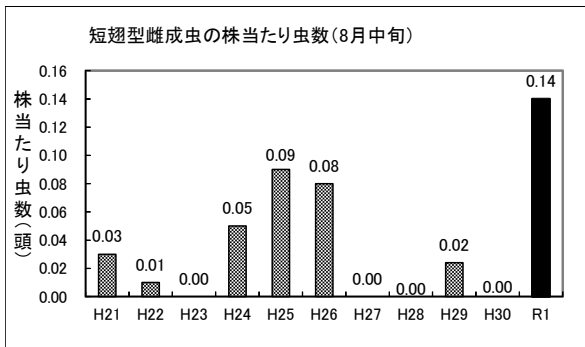


図5. 短翅型雌成虫の株当たり虫数

表1. 地域ごとのトビイロウンカ発生状況

	調査地点数	発生面積率 (%)	株当虫数 (頭)	短翅型雌成虫の株当虫数 (頭)	トビイロウンカ成虫短翅雌率 (%)
県北	18	61.1	0.17	0.04	74.1
東諸	5	100.0	0.55	0.14	81.8
北諸	10	70.0	0.35	0.05	54.5
西諸	8	100.0	5.81	0.47	89.4
県全体	41	75.6	1.36	0.14	81.7

要防除水準：短翅型雌成虫0.2頭／株

4. 防除上の注意

(1) トビイロウンカは水田に定着後2～3世代増殖を繰り返す、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼす。防除適期は幼虫期前半であるが、地域やほ場によって発生状況にばらつきがあるので、ほ場をよく観察し、水稻の株元に成虫及び幼虫を確認した場合は速やかに防除を行う（写真2参照）。ただし、注意報

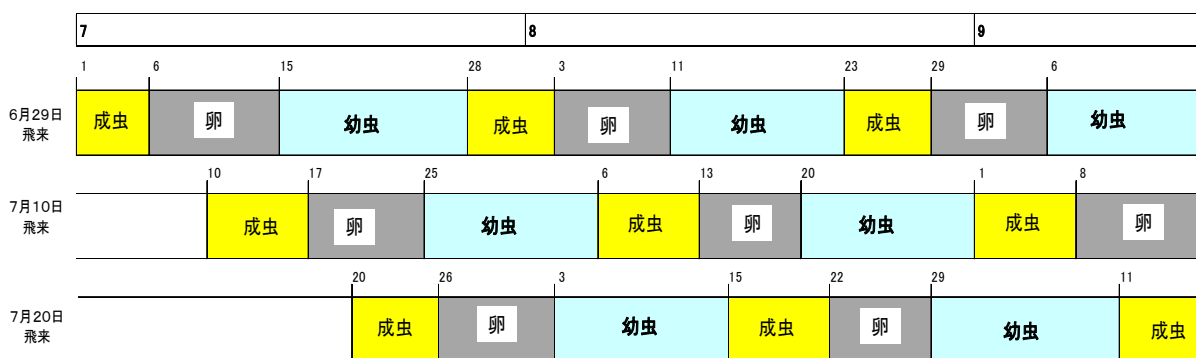
4号の発表以降に本田防除を行っていないほ場については、直ちに防除を行う（図6参照）。

(2) 本年は複数回の飛来が確認されているため、様々な生育ステージのトビイロウンカが混在している。既に本田防除を行ったほ場においても、その後の発生状況を確認し、密度が高ければ直ちに追加防除を行うなど、防除の徹底を図る。

(3) 薬剤が本種の生息する株元まで十分到達しない場合には、十分な防除効果が得られない恐れがあるので丁寧な散布を行う。

(4) 飼料用稲の防除に当たっては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（平成26年12月第6版、平成30年12月19日一部改正）及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」（平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成30年12月19日一部改正）、「飼料の有害物質の指導基準及び管理基準について」（昭和63年1月14日付け63畜B第2050号畜産局長通知、平成30年12月19日一部改正）に沿って、適期防除に努める。

図6. トビイロウンカの発生世代予測図（2019年8月6日作成）



1. 6月29日、7月10日、7月20日頃に飛来したウンカを起点とし、有効積算温度と宮崎市のアメダスデータ（8月5日まで実測値、それ以降は平年値）を用いて作成した。
 2. 各飛来波に対する防除の重要度は、移植時期によって異なる。
 3. 本虫に対しては幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。
 4. 気象経過に応じて、実際のトビイロウンカの生育ステージと異なる場合がある。
- ※発生世代予測は「有効積算温度による海外飛来性害虫の発生予測支援システム Ver. 600 (S. Teramoto)」により算出。

- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- ・6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。ラベル表示の内容を十分に確認し、農薬使用基準を守って農薬散布を行い、危害防止に努めましょう。

＜連絡先＞
 宮崎県農業経営支援課 戸高、田村
 TEL: 0 9 8 5 - 2 6 - 0 0 6 8
 FAX: 0 9 8 5 - 2 6 - 7 3 2 5
 メールアドレス: nogyokeieishien@pref. miyazaki. lg. jp

過去のトビイロウンカによる被害状況



写真1. トビイロウンカによる坪枯れ (H25)
(※被害がほ場全体に拡がり、反枯れ状態となっている)



写真2. 株元を集中加害するトビイロウンカの成幼虫

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

平成31年度病虫害発生予察注意報第1号について

平成31年度病虫害発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

平成31年度病虫害発生予察注意報第1号

**スクミリンゴガイの発生が多くなっています。
ほ場を観察し、適期防除に努めましょう。**

- 1 病虫害名 スクミリンゴガイ
- 2 作物名 早期水稲（飼料用稲を含む）
- 3 発生地域 県下全域
- 4 発生量 多

5 注意報の根拠

- (1) 4月中旬に巡回調査を行った県内33ほ場の見とり調査では、スクミリンゴガイの発生面積率は42.4%（前年32.2%、平年25.5%）と平年に比べやや多、発生程度（ m^2 当貝数）は1.7頭（前年1.4頭、平年0.4頭）と平年比多の発生であった。
- (2) 本年の発生面積率は過去10年と比較して2番目に高く、発生程度は最も高かった。
- (3) 平成30年12月から平成31年2月の平均気温は10.2℃と過去10年（平均8.5℃）と比較して最も高く、越冬中のスクミリンゴガイが低温により死亡しにくい条件であった。

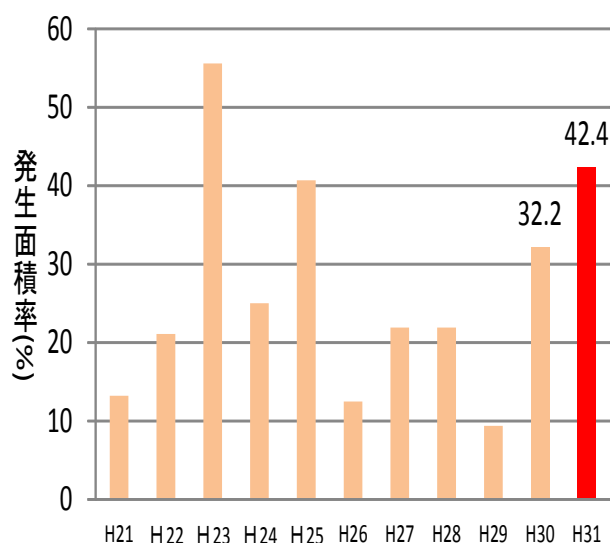


図1 スクミリンゴガイの年次別発生面積率

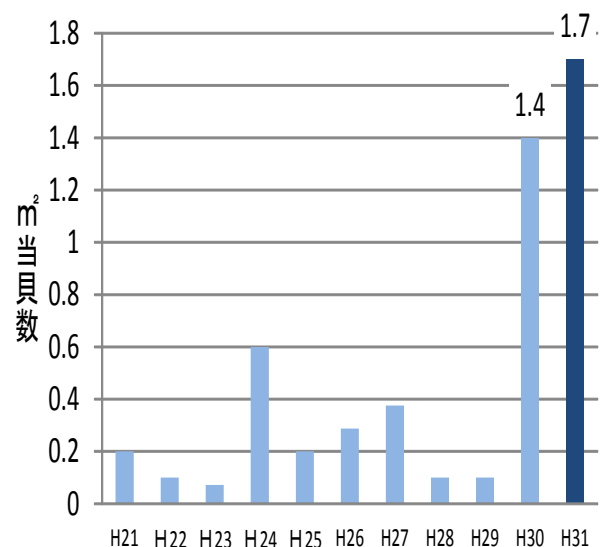


図2 スクミリンゴガイの年次別 m^2 当貝数

4 防除上の注意

- (1) スクミリンゴガイによる水稻の被害は深水状態であるほど食害が激しいので、活着後はできるだけ浅水管理する。
 - (2) 水田や水路の貝は捕殺し、卵は捕殺または水中に落とす。貝に寄生虫が感染している可能性があるため、ゴム又はビニール手袋を使用する。
 - (3) 水路からの侵入を防止するため、水口にネットを設置する。
 - (4) 貝の生息が多い場合は、薬剤の水面施用を実施する。施用にあたっては、灌排水に十分注意して、水深が3cm位になるようにし、止水状態とする。
- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 黒木

Tel:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127

ホームページ: <http://www.jpnn.ne.jp/miyazaki>

E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成31年度病害虫発生予察注意報第2号について

平成31年度病害虫発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

平成31年度病害虫発生予察注意報第2号

令和元年6月20日
宮崎県

斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。 防除対策の徹底を図りましょう。

病害虫名 斑点米カメムシ類

作物名 早期水稲

1. 発生地域 : 早期水稲栽培地帯
2. 発生時期 : 穂ばらみ期
3. 発生程度 : やや多
4. 注意報の根拠

(1) 6月中旬の巡回調査における水田ほ場でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類の発生面積率は15.1%（前年33.4%、平年18.6%）で平年並、発生程度（20回振りすくい取り虫数）は1.2頭（前年0.8頭、平年0.5頭）で平年に比べてやや多の発生であった（図1、2）。

(2) 斑点米カメムシ類の発生程度は、斑点米の発生により過去10年で最も1等米比率が低かった平成29年産に次いで、多い状況である（図2）。

(3) 6月中旬の巡回調査におけるイタリアンほ場でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類の発生程度（20回振りすくい取り虫数）は49.1頭（前年43.1頭、平年42.5頭）で平年に比べてやや多の発生であった（図3）。

早期水稲ほ場でのカメムシ類
(発生面積率)

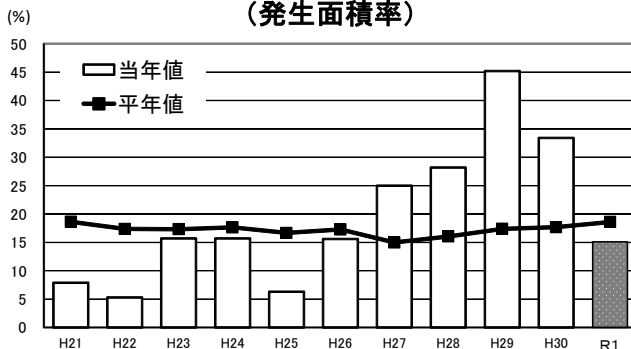


図1 発生面積率の推移

早期水稲ほ場でのカメムシ類
(発生程度)

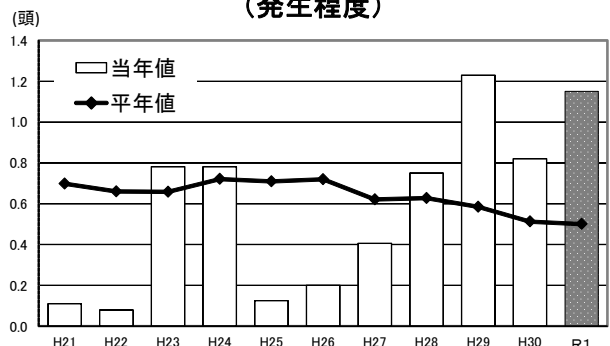


図2 発生程度(20回振りすくい取り虫数)の推移

イタリアンほ場でのすくい取り調査

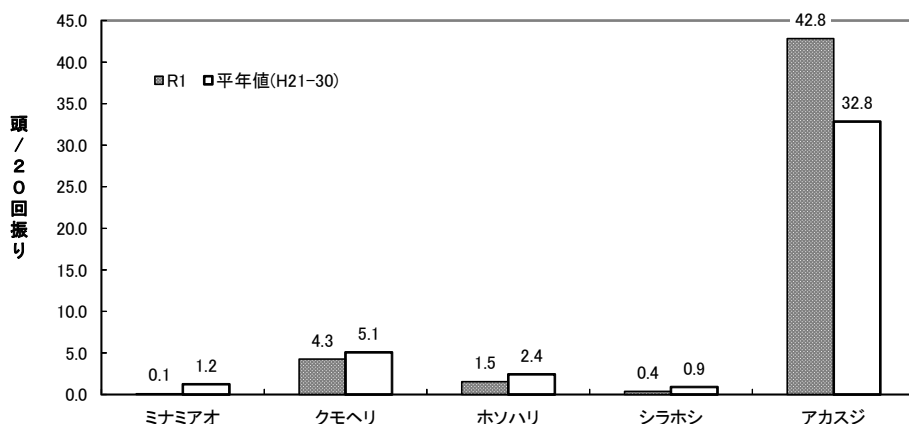


図3 イタリアンほ場での斑点米カメムシ類すくい取り調査結果

5. 防除上の注意

- (1) 防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本である。高密度の場合はさらに追加防除が必要である。
- (2) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので、広域の集団一斉防除に努め防除効率を高める。
- (3) 薬剤等その他の詳細については関係機関に照会すること。
 なお、ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払うことが必要である（ラベル表示を確認すること）。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努める。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

●6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 黒木

TEL：0985-73-6670

Fax：0985-73-7499

E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

令和元年度病虫害発生予察注意報第3号について

令和元年度病虫害発生予察注意報第3号を発表したので送付します。

令和元年度病虫害発生予察注意報第3号

令和元年7月18日
宮崎県

ハスモンヨトウが多発傾向です

病虫害名 ハスモンヨトウ

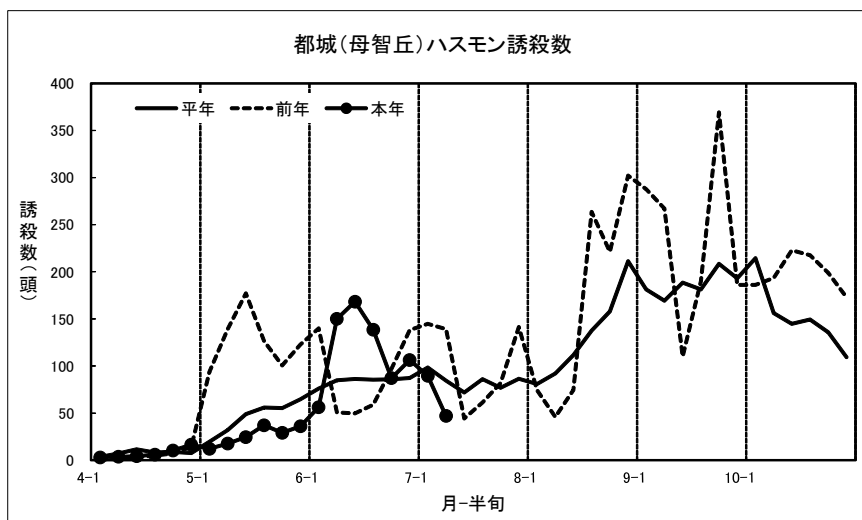
作物名 野菜・花き類

1. 発生地域 : 県内全域
2. 発生時期 : 6月～11月
3. 発生程度 : やや多

4. 注意報の根拠

(1) 宮崎市、都城市、西都市及び国富町に設置しているフェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺虫数は6月第2半旬から平年を上回り、急激に増加している(図1)。

(2) 6月第1半旬～第6半旬の誘殺虫数は、宮崎市379頭(平年544頭)、都城市707頭(平年506頭)、西都市1,069頭(平年691頭)、国富町554頭(平年418頭)と、平年比やや少から多であり、4地点合計の誘殺頭数は平年比やや多である(表1)。



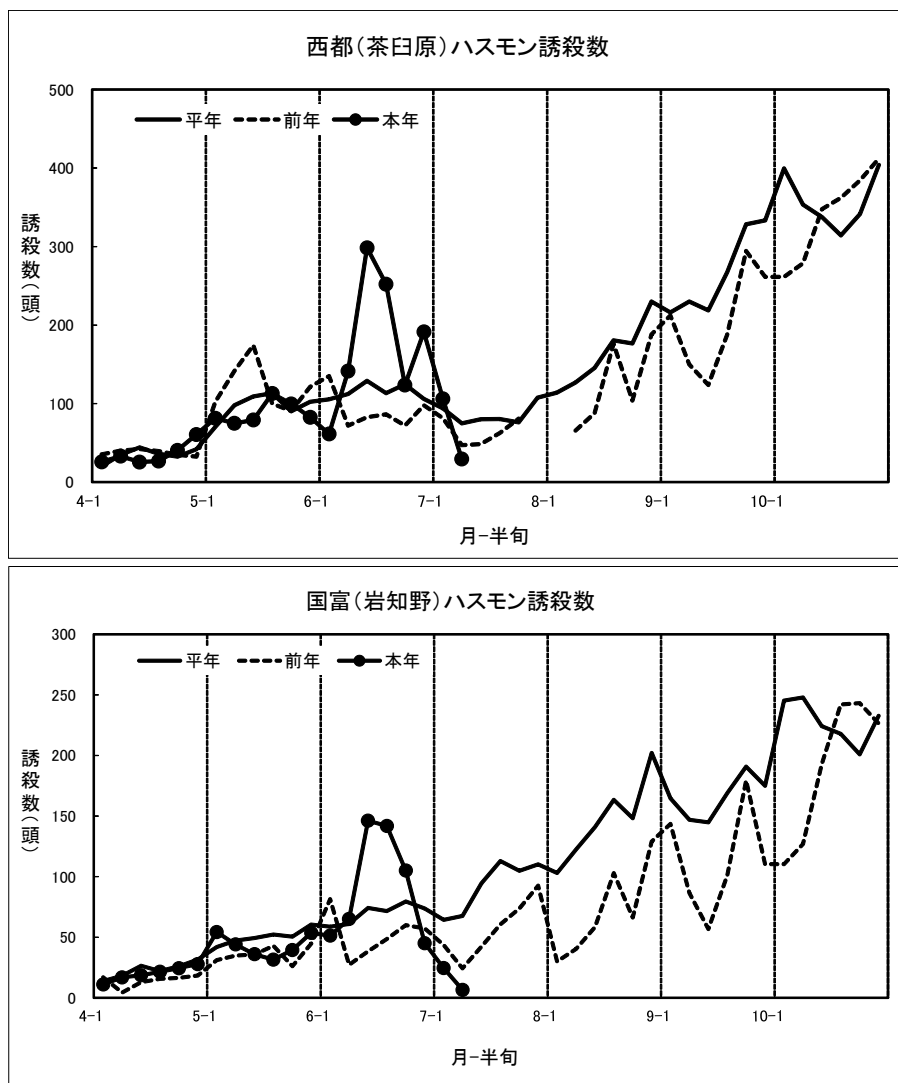


図1 フェロモントラップへのハスモンヨトウ誘殺虫数

表1 フェロモントラップへのハスモンヨトウ誘殺虫数及び平年値との比較 (6月)

	国富町	都城市	西都市	宮崎市(農試)	4地点合計
本年値	554	707	1,069	379	2,708
昨年値	313	535	546	259	1,653
平年値	418	506	691	544	2,159
平年比	多	やや多	多	やや少	やや多

5. 防除上の注意

- (1) ほ場を見回り、若齢幼虫分散前の白変葉の早期発見・除去に努める。
- (2) 齢が進んだ幼虫では薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が重要である。若齢幼虫は葉裏に群生することが多いので、葉裏まで薬液がかかるように散布する。なお、薬剤抵抗性の発達を防止するため、使用薬剤は異なる系統のものを使い、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (3) 施設栽培で、入り口やサイド等開口部に防虫ネット(4mm目合い以下)を展張し、成虫の飛来・侵入を防止する。なお、防虫ネット上に産卵し、孵化した幼虫が施設内に侵入することがあるため注意する。
- (4) ほ場内や周辺の雑草は増殖源となるので除草を行う。

- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 黒木

TEL：0985-73-6670

Fax：0985-73-7499

E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

注意報 注意報 注意報 注意報 注意報 注意報 注意報

6011-1458
令和元年8月1日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫発生予察注意報第4号について

令和元年度病害虫発生予察注意報第4号を発表したので送付します。

令和元年度病害虫発生予察注意報第4号

令和元年8月1日
宮崎県

病害虫名 トビイロウンカ

作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域

2. 発生程度 やや多

3. 発生状況と注意報の根拠

(1) 7月下旬の巡回調査(41地点)における発生面積率36.6%(平年19.5%、前年0%)、株当たり虫数0.05頭(平年0.04頭、前年0頭)であった。発生面積率、株当たり虫数いずれも平年よりやや多で、過去10年間で3番目に多い(図1、図2)。

(2) トビイロウンカの本年度の初飛来は6月6日であった。その後、7月2~3半旬にかけ、まとまった飛来が認められた。6月1半旬から7月3半旬における予察灯のトビイロウンカの累積誘殺数は70頭(平年26.6頭、前年2頭)で平年より多い(図3)。

(3) 鹿児島地方气象台が7月25日に発表した向こう1か月の気温(7月27日~)は高い確率が40%、降水量は平年並または少ない確率ともに40%と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況が続くと考えられる。

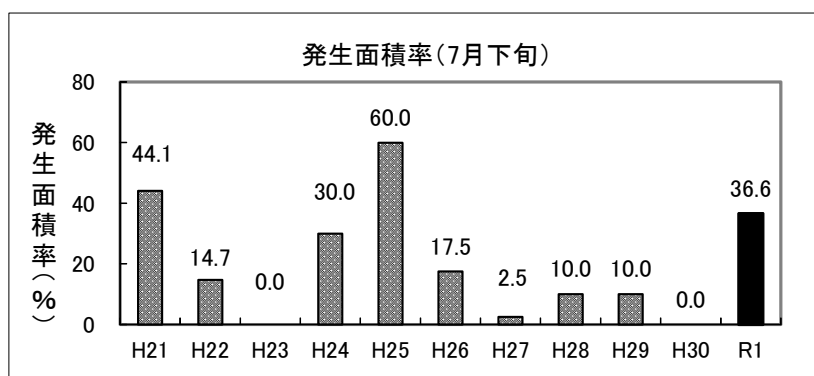


図1. 発生面積率の推移

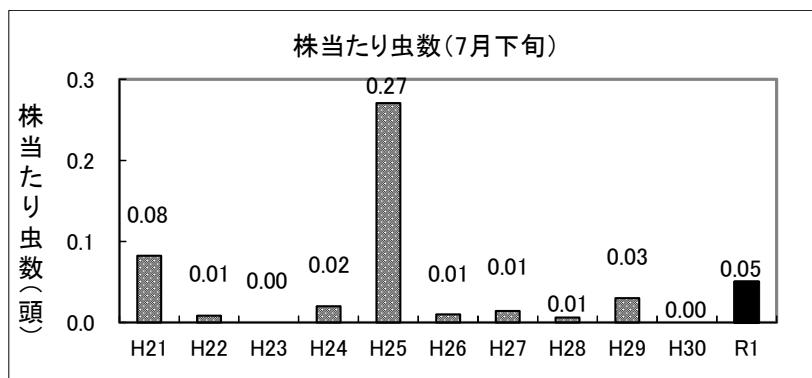


図2. 株当たり虫数の推移

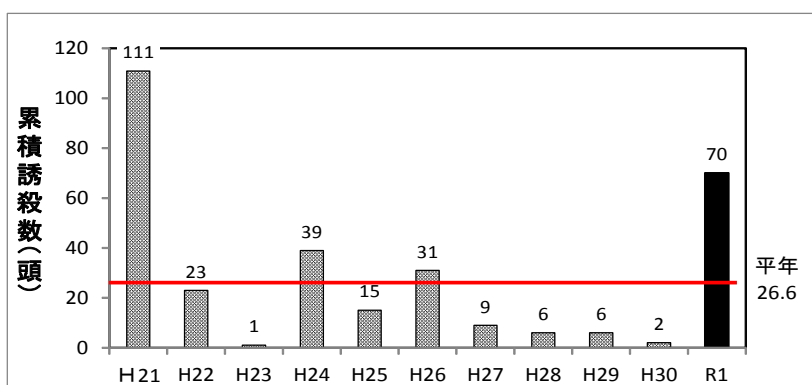


図3. 予察灯におけるトビイロウンカの累積誘殺数 (6月1半旬～7月3半旬)

4. 防除上の注意

(1) 複数回の飛来が認められるが、日別の誘殺状況及び箱施薬剤の残効を考慮し、7月10日頃を重点防除が必要な飛来波とした。7月10日飛来分を主要飛来と想定した場合の防除適期(幼虫期前半)は8月4半旬～8月6半旬頃(高千穂は8月5半旬～9月1半旬)と予想される(別紙参照)。防除を行う際は地域毎の防除適期内に行うことが望ましい。ただし、ほ場によって発生状況にばらつきがあることから、ほ場内をよく観察し、幼虫を多数確認した場合は速やかに防除を行う。

(2) トビイロウンカは株元に生息し、低密度であっても、その後の増殖率が高く坪枯れを引き起こすので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。ただし、薬剤ごとの総使用回数や使用時期(収穫前日数)には十分に注意する。

(3) 飼料用稲の防除に当たっては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」(平成26年12月第6版、平成30年12月19日一部改正)及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」(平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成30年12月19日一部改正)、「飼料の有害物質の指導基準及び管理基準について」(昭和63年1月14日付け63畜B第2050号畜産局長通知、平成30年12月19日一部改正)に沿って、適期防除に努める。

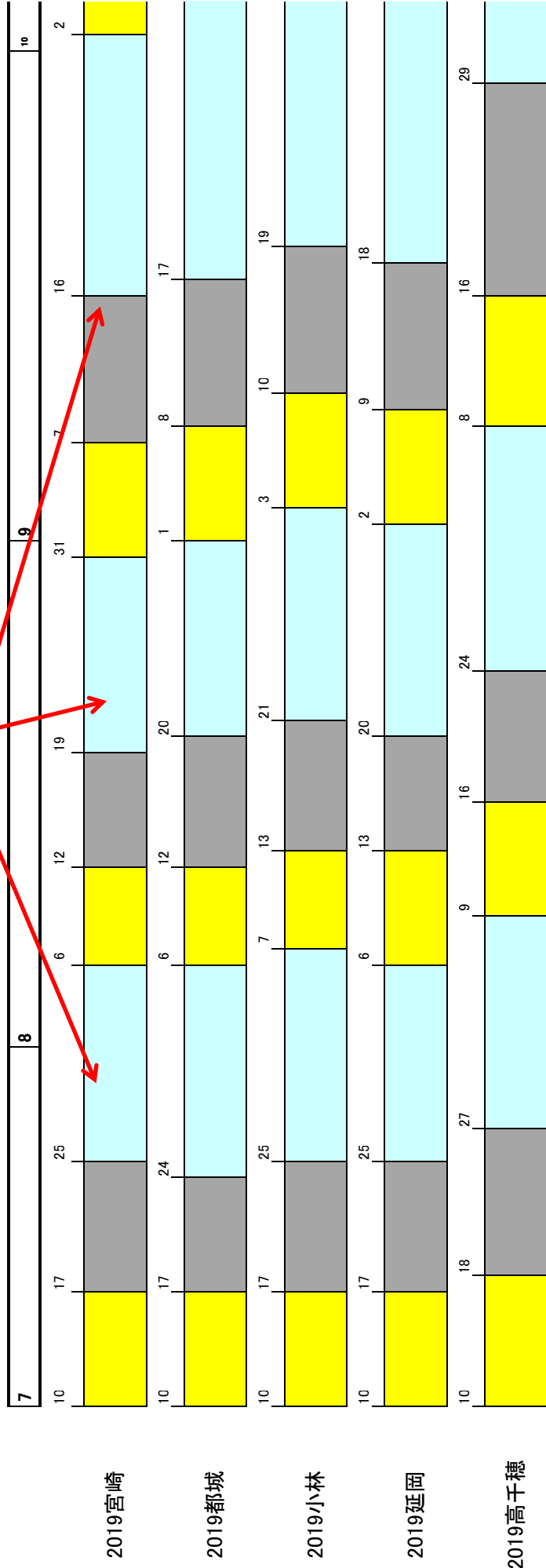
- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- ・6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。ラベル表示の内容を十分に確認し、農薬使用基準を守って農薬散布を行い、危害防止に努めましょう。

<連絡先>
 宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 黒木
 TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-2127
 ホームページ: <http://www.jpjn.ne.jp/miyazaki>
 E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

2019 トビイロウンカの発生世代予測(7月10日飛来分)

別紙

防除適期



各発生世代別の防除適期は次のように予測されます

地域	飛来時期	第1世代の防除適期	第2世代の防除適期	第3世代の防除適期
2019宮崎	7月10日	7月26日 ~ 8月2日	8月21日 ~ 8月28日	9月18日 ~ 9月28日
2019都城	7月10日	7月26日 ~ 8月3日	8月21日 ~ 8月29日	9月19日 ~ 9月29日
2019小林	7月10日	7月27日 ~ 8月4日	8月22日 ~ 8月30日	9月21日 ~ 10月1日
2019延岡	7月10日	7月26日 ~ 8月3日	8月22日 ~ 8月29日	9月20日 ~ 9月30日
2019高千穂	7月10日	7月28日 ~ 8月5日	8月26日 ~ 9月4日	10月3日 ~ 10月24日

各世代発生始期予測

世代	Stage	地域別発生始期		
		2019宮崎	2019都城	2019高千穂
初期侵入世代	成虫	7月10日	7月10日	7月10日
第1世代	卵	7月17日	7月17日	7月17日
	幼虫	7月25日	7月24日	7月25日
	成虫	8月6日	8月6日	8月7日
第2世代	卵	8月12日	8月12日	8月13日
	幼虫	8月19日	8月20日	8月21日
	成虫	8月31日	9月1日	9月2日
第3世代	卵	9月7日	9月8日	9月9日
	幼虫	9月16日	9月17日	9月18日
	成虫	10月2日	10月4日	10月5日

※7月10日飛来を起算日とした。気温は7月28日までは本年値、それ以降は各地域の平年値を参考にした。

なお、実際の世代交代は今後の気温の推移や今後の飛来状況等により異なる場合がある。

※発生世代予測は「有効積算温度による海外飛来性害虫の発生予測支援システムVer. 6.00 (S.TERAMOTO)」より算出。

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫発生予察注意報第5号について

令和元年度病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

令和元年度病害虫発生予察注意報第5号

発生量の増加により被害果の発生が懸念されます。
防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 病害虫名 : ヒラズハナアザミウマ
- 2 作物名 : 冬春ピーマン
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : 多
- 5 注意報の根拠

1) 11月中旬の巡回調査における発生面積率は81.9%（前年83.3%、平年46.3%）（図1）で平年比やや多、10花当たり虫数は25.8頭（前年6.4頭、平年6.1頭）（図2）で平年比多、寄生花率は38.9%（前年24.3%、平年15.3%）（図3）で平年比多の発生であった。

10花当たり虫数と寄生花率については過去10年で最も高くなっている。

2) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年に比べ高い傾向であると予想されており、ヒラズハナアザミウマの増殖に好適な条件が続くと考えられる。（鹿児島地方気象台11月21日発表1ヶ月予報）。

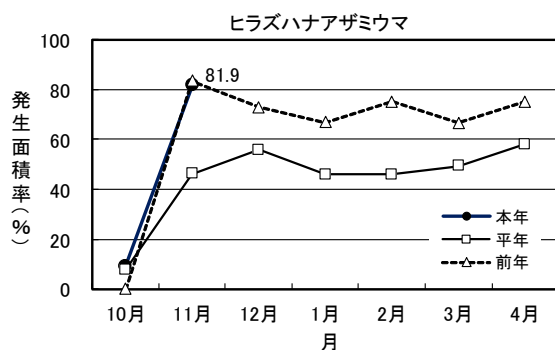


図1 発生面積率の推移

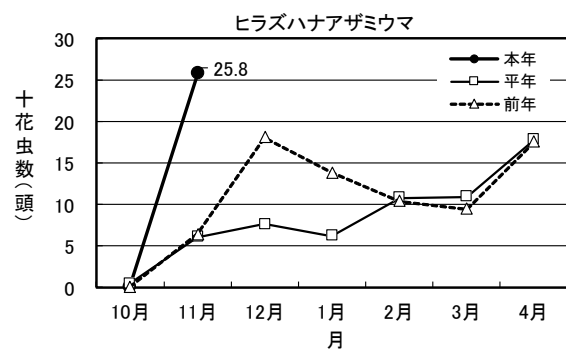


図2 10花当たり虫数の推移

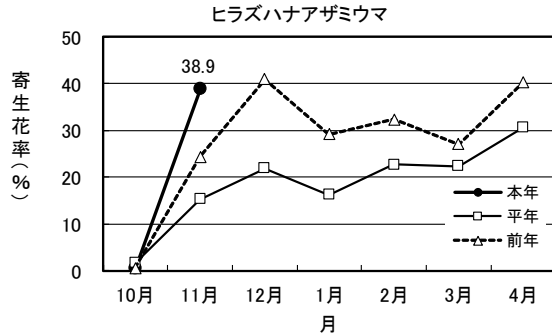


図3 寄生花率の推移

6 防除上の注意

- 1) 多発すると果実への被害が見られる場合がある。特にミナミキイロアザミウマに対し天敵スワルスキーカブリダニを導入しているほ場において、ヒラズハナアザミウマの発生が多い傾向にある。高密度での防除は困難であるため、低密度のうちに防除を行う。
- 2) 施設内では、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、特に卵と蛹には薬剤がかかりにくい。そのため最少でも7日間隔で3回の連続防除を行い、多発時は更に連続した防除を徹底する。
- 3) ヒラズハナアザミウマは、主に花の内部に生息することから、薬剤防除は、薬液が花の内部にしっかり付着するように行う。また、薬剤の付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。
- 4) ミナミキイロアザミウマとは薬剤に対する感受性が異なるので、薬剤の選択は注意するとともに、天敵を導入している施設では、天敵に対して影響の少ない薬剤・展着剤を選択する。
- 5) ピーマンの花数が減少する時期が防除適期となるので、この時期を逃さず、防除の徹底を図る。
- 6) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- 7) 青色粘着トラップを生長点付近に200枚以上/10a設置し、誘殺による密度低下を図る。
ただし、株が繁茂する前に設置しないと効果が十分に得られない場合があるので、早めに設置する。

7 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
 （病害虫防除・肥料検査センター） 黒木、松浦
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長 殿
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫発生予察注意報第6号について

令和元年度病害虫発生予察注意報第6号を発表したので送付します。

令和元年度病害虫発生予察注意報第6号

きゅうりの黄化えそ病の発生が見られます。適切なほ場管理と適期防除に努めましょう。

- 1 病害虫名 キュウリ黄化えそ病
病原ウイルス：*Melon yellow spot virus* (MYSV)
媒介虫：ミナミキイロアザミウマ
- 2 作物名 冬春きゅうり
- 3 発生地域 県下全域
- 4 発生程度 多
- 5 注意報の根拠

(1) 12月中旬の巡回調査(15地点)における発生面積率26.7%(平年10.8%、前年5.9%)、発病株率0.8%(平年0.1%、前年0.1%)であった。発生面積率、発病株率いずれも平年比多で、本年を含む過去10年間で最も多い(図1、図2)。

(2) 本病を媒介するミナミキイロアザミウマの12月中旬の巡回調査(15地点)における発生面積率6.7%(平年23.1%、前年0%)は平年比やや少、百葉当たり虫数0.1頭(平年1.7頭、前年0頭)は平年比少である。

(3) 鹿児島地方気象台が12月19日に発表した向こう1か月の気温(12月21日～)は高い確率が70%で、ミナミキイロアザミウマの増殖及び活動に好適な状況が続くと考えられる。

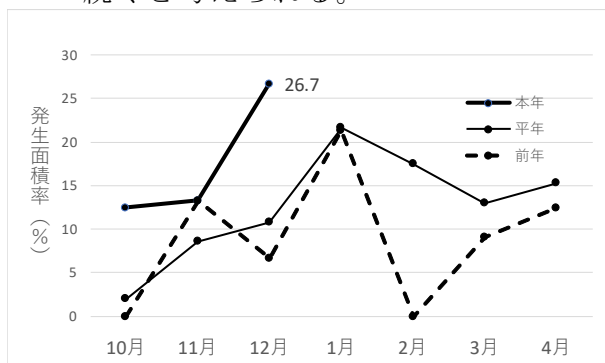


図1. 発生面積率の推移

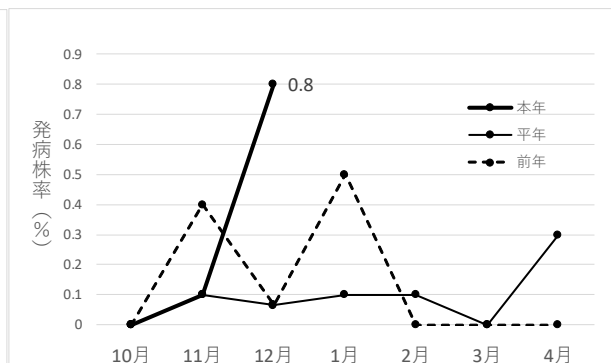


図2. 発病株率の推移

6 防除上の注意

- (1) 栽培期間中は定期的な薬剤散布、天敵や微生物殺虫剤の活用等によりミナミキイロアザミウマの徹底防除を行う。
- (2) 施設内に粘着板を設置し、ミナミキイロアザミウマを物理的に防除する。

- (3) 雑草は、ミナミキイロアザミウマの生息・増殖場所となるため、施設内及びほ場周囲の除草を徹底する。
- (4) 発病株を確認した場合は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し埋却処分するか、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。
- (5) 改植時の留意点
- ① 前作きゅうりの栽培を終了する前に、殺虫剤散布や蒸し込みを行いミナミキイロアザミウマの密度低下に努める。栽培を終えたらハウス内の除草を徹底するとともにきゅうりを完全に抜根する。蒸し込み期間中は粘着板を設置し成虫を捕殺する。
 - ② 後作きゅうりの定植時には必ず粒剤もしくは灌注剤を施用する。
 - ③ 苗の購入の際は、病虫害の発生状況を十分確認する。ミナミキイロアザミウマが寄生していたり被害痕が多い苗は避けるとともに、ウイルス病の発生が疑われるときは直ちに株を廃棄する。
また、農薬の散布履歴を確認し、育苗期に粒剤の使用がない場合は直ちに施用する。

7 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

<連絡先>

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 黒木、松浦
TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-2127
ホームページ : <http://www.jpjn.ne.jp/miyazaki>
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長殿
各病害虫防除員殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫発生予察注意報第7号について

令和元年度病害虫発生予察注意報第7号を発表したので送付します。

令和元年度病害虫発生予察注意報第7号

トマトの黄化葉巻病の発生が見られます。適切なほ場管理と適期防除に努めましょう。

- 1 病害虫名 : トマト黄化葉巻病
病原ウイルス: *Tomato yellow leaf curl virus* ; TYLCV
媒介虫: タバココナジラミ
- 2 作物名 : 冬春トマト (ミニトマトを含む)
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : やや多
- 5 注意報の根拠

- (1) 12月中旬に実施した巡回調査(10地点)において、黄化葉巻病の発生面積率は、10.0%(前年10.0%、平年4.3%)で平年よりやや多、発病株率は、0.9%(前年0.1%、平年0.1%)で平年より多の発生であった(図1)。
- (2) 本病を媒介するタバココナジラミの12月中旬の巡回調査(10地点)における発生面積率60.0%(前年30.0%、平年44.7%)で平年よりやや多、百葉当たり虫数0.6頭(前年0.4頭、平年1.7頭)で平年よりやや少の発生である。
- (3) 鹿児島県地方気象台が12月19日に発表した向こう1か月の気温(12月21日～)は高い確率が70%で、タバココナジラミの増殖及び活動に好適な状況が続くと考えられる。

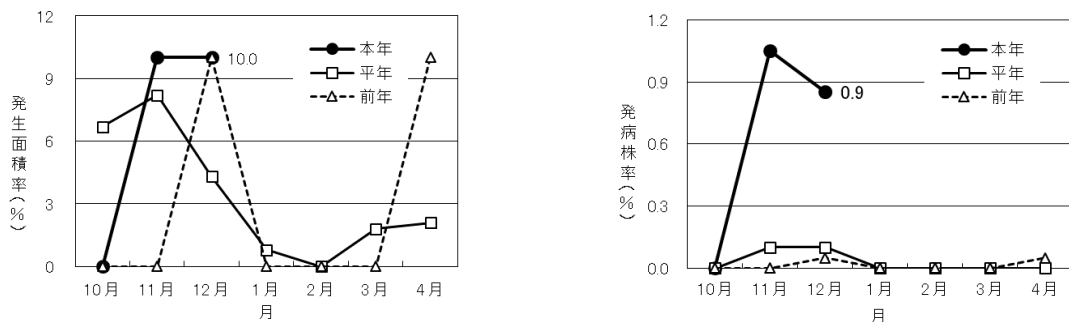


図1. 黄化葉巻病の発生面積率(左)と発病株率(右)の推移

6 防除上の注意

- (1) ハウスの開口部(サイド、谷部など)には目合い0.4mm以下の防虫ネットを設置する。すでに設置しているハウスについては、隙間等がないか再度点検し、必要に応じて補修する。
- (2) ハウス内に黄色粘着板トラップを設置し、コナジラミ類の早期防除に努める。
- (3) ハウス内の発病株は伝染源となる。見つけ次第直ちに抜き取り、施設外に持ち出し適切に処分する。
- (4) 抵抗性品種であっても伝染源となるため、感受性品種と同様に防除を行う。
- (5) ハウス周辺及び内部の雑草は、タバココナジラミの生殖・増殖場所となる。栽培期間中は定期的に除草する。
- (6) 野良生えトマトは、重要な伝染源となるので、抜き取り土中に埋める等適切に処分する。
- (7) タバココナジラミの有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を心がける。

7 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 松浦・黒木

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成31年度病害虫防除情報第1号

施設野菜の病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

栽培終了時の蒸し込みと残さ処理を適切に行い、次期作付けのための病害虫対策を徹底しましょう。

- 1 作物名 施設野菜（きゅうり、ピーマン、トマト、イチゴ）
- 2 病害虫名 施設野菜の病害虫（主にアザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類、
土壌病害虫）
- 3 発生状況（経過）

施設野菜の4月の巡回調査結果は以下の通りであった。

(1) 冬春きゅうり

・ミナミキイロアザミウマ

発生面積率：62.5%（前年45.5%、平年67.5%） 平年並
100葉当たり虫数：48.3頭（前年10.7頭、平年203.4頭） 平年よりやや少

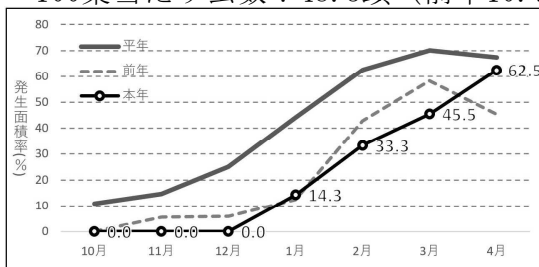


図1 発生面積率の推移

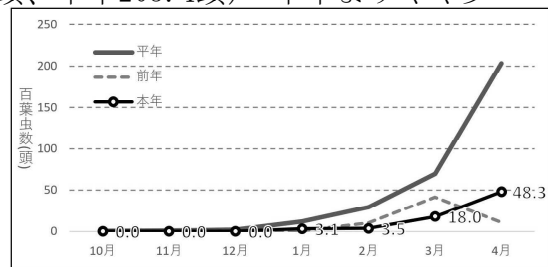


図2 100葉当たり虫数の推移

・黄化えそ病 (MYSV)

発生面積率：12.5%（前年0.0%、前々年33.3%） 過去9カ年間で5番目に多い
発病株率：0.001%（前年0.0%、前々年0.2%） 過去9カ年間で5番目に多い

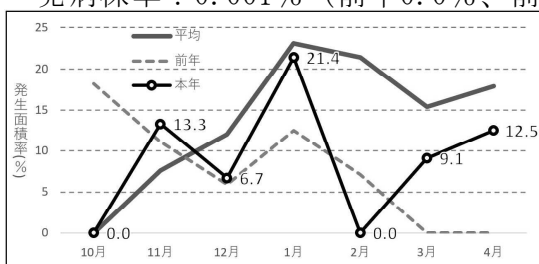


図3 発生面積率の推移

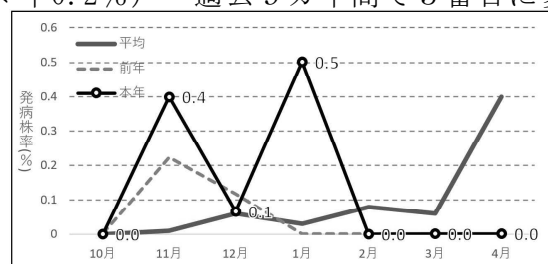


図4 発病株率の推移

(2) 冬春ピーマン

・ミナキイロアザミウマ

発生面積率：8.3%（前年0.0%、平年48.8%）

平年より少

10花当たり虫数：0.3頭（前年0.0頭、平年2.2頭）

平年より少

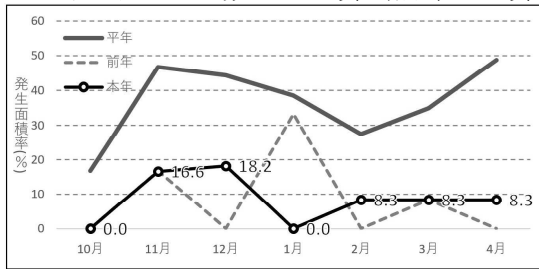


図5 発生面積率の推移

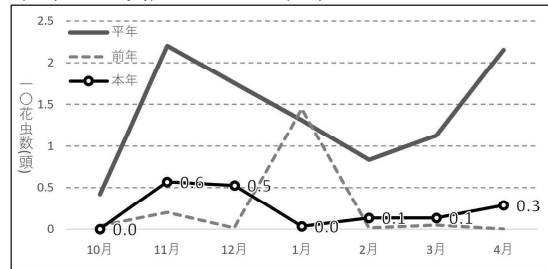


図6 10花当たり虫数の推移

・ヒラズハナアザミウマ

発生面積率：75.0%（前年66.6%、平年53.7%）

平年より多

10花当たり虫数：17.5頭（前年19.8頭、平年16.4頭）

平年並

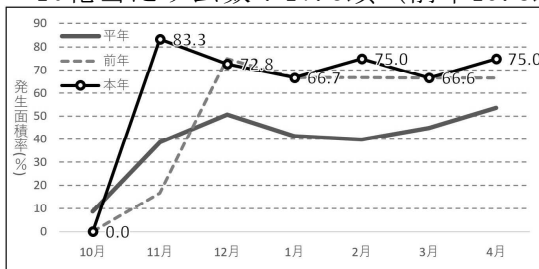


図7 発生面積率の推移

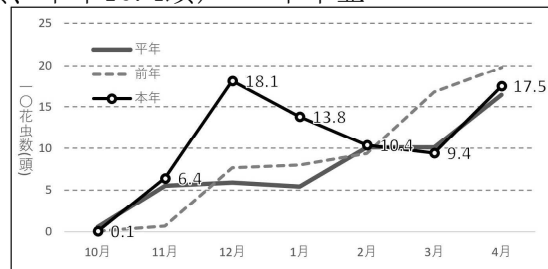


図8 10花当たり虫数の推移

(3) 冬春トマト

・タバココナジラミ

発生面積率：30.0%（前年20.0%、平年41.8%）

平年よりやや少

100葉当たり虫数：2.9頭（前年0.8頭、平年7.6頭）

平年並

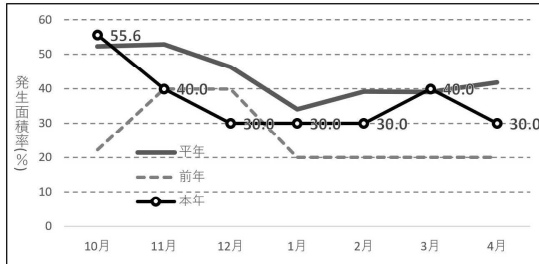


図9 発生面積率の推移

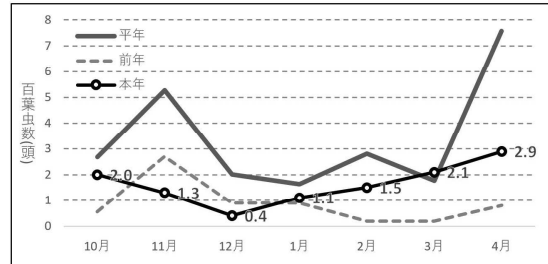


図10 100葉当たり虫数の推移

(4) イチゴ（3月調査）

・ハダニ類

発生面積率：58.3%（前年83.4%、平年78.2%）

平年よりやや少

寄生株率：15.6%（前年24.0%、平年26.0%）

平年よりやや少

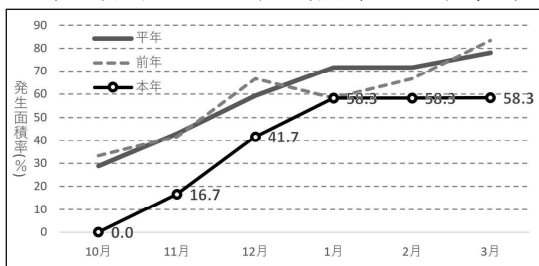


図11 発生面積率の推移

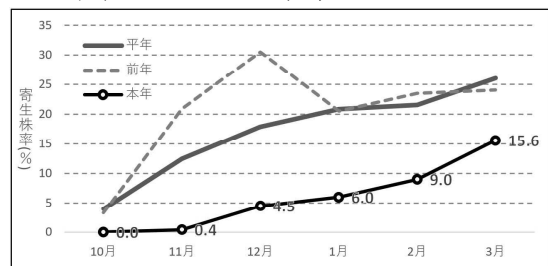


図12 寄生株率の推移

・ヒラズハナアザミウマ

発生面積率：58.3%（前年8.3%、平年19.2%）

寄生花率：8.7%（前年0.2%、平年3.3%）

平年より多
平年より多

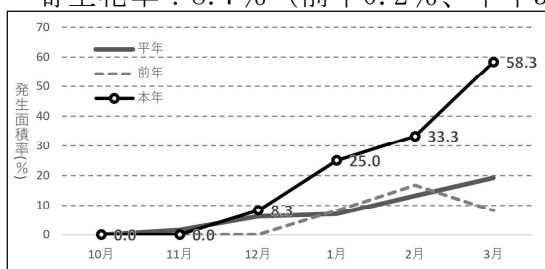


図13 発生面積率の推移

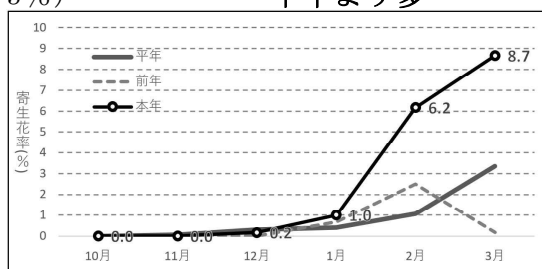


図14 寄生花率の推移

4 防除上の注意

1) アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類

- ① いずれの害虫も薬剤感受性の低下が報告されるなど、栽培期間中の防除が困難となってきている。次作での発生を抑制するためには、栽培終了時の施設外への飛散を防止し、感受性低下個体群の野外への定着を防ぐことが重要である。
- ② 栽培終了時には、作物及び雑草は株を抜根し、すぐに施設を密閉して蒸し込みを行う。蒸し込み期間はアザミウマ類の蛹が羽化する期間を考慮して、少なくとも10日間以上を確保し、病虫害の拡散防止を徹底する。
- ③ ほ場周辺やほ場内の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、ハウス内外、栽培地周辺の除草を徹底する。
- ④ ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）の防除対策では特に、周辺へのウイルス拡散防止を目的に、栽培終了時には必ず防除と蒸し込みを行い、生き残ったミナミキイロアザミウマを死滅させる。具体的には、ミナミキイロアザミウマの防除を行ってから株を抜根した上で、施設を密閉して20日間蒸し込む。

2) 土壌病虫害

- ① 作物残さは施設外に持ち出し適切に処分する。残さ処理の終わったほ場は、改良太陽熱消毒法などによりほ場の隅々まで土壌消毒を行う。天候不順などで、改良太陽熱消毒法の防除効果が十分に望めない時は、薬剤による土壌消毒を実施する。
 - ② 土壌病害が発生したほ場で、くん蒸剤などの土壌消毒剤を使用する場合は、残さを分解させた後に処理することで高い防除効果が得られる。
 - ③ 施設内で使用した資材・農機具などについても消毒を行うなど、徹底して病原菌や線虫など土壌病虫害の密度を減らすことが重要である。
- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。
 - 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 森下 吉留(雅)
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
 ホームページ : http://www.jppn.ne.jp/miyazaki

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成31年度病害虫防除情報第2号

サツマイモ茎・根腐敗症状対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

本年産サツマイモ栽培において、サツマイモつる割病や基腐病などの茎や塊根の腐敗症状に関与する病害の発生が確認されています。

地域の発生状況を踏まえて、適切な防除対策を実施しましょう。

- 1 作物名 サツマイモ
- 2 病害虫名 つる割病、基腐病、乾腐病、茎根腐細菌病
- 3 発生状況
 - 1) 県内の平成30年産サツマイモにおいて、地際の茎や塊根が腐敗するほ場が散見され問題となった(図1, 2)。
 - 2) その原因の一つとして、既知のつる割病や茎根腐細菌病に加え、県内初確認の基腐病と乾腐病(平成30年度病害虫発生予察特殊報第4号)などの病原菌の関与が疑われている。
 - 3) 令和元年産のサツマイモでは、当センター巡回調査ほ場において、6月6日に基腐病の発生が確認された(図3)。また、他のほ場においてもつる割病や基腐病などの発生が確認され、今後の発生拡大が懸念される(図4, 5)。
 - 4) 向こう1か月(6月20日~)の九州南部の季節予報(鹿児島地方気象台6月13日発表)では、平年と比べ曇りや雨の日が多い見通しであり、各種病害の発生に好適な環境が続くと考えられる。
- 4 防除上の注意
 - 1) 各種病害とも排水不良のほ場において多発すると考えられるので、各ほ場外への排水を促すため、排水用の溝を必ず設置する。
 - 2) 発病株(つるや塊根)は速やかに抜き取り、ほ場や周辺に残さないようにする。

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 黒木・松浦
TEL: 0985-73-6670 FAX: 0985-73-2127
E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp



図1 サツマイモ地上部の茎枯症状
(平成30年産)



図2 サツマイモ塊根腐敗
(平成30年産)



図3 当センター巡回ほ場における
サツマイモ基腐病による地際の黒変
(令和元年産)



図4 サツマイモ基腐病による地上部病徴
(令和元年産)

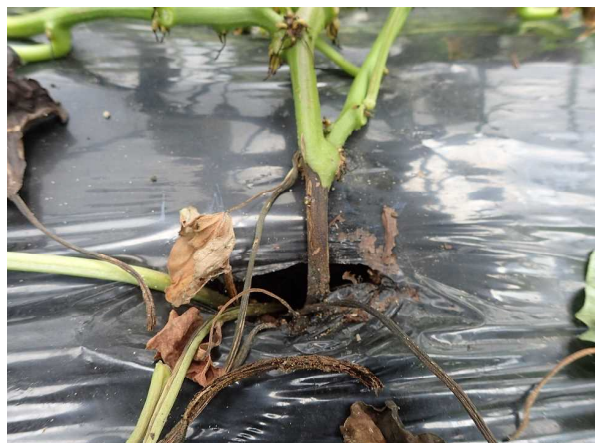


図5 サツマイモ基腐病による地際の黒変
(令和元年産)

各関係機関の長 殿
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫防除情報第3号

サトイモ疫病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

県内でサトイモ疫病の発生が確認されました。 地域の発生状況を踏まえて、適切な防除を実施しましょう。

1 作物名 サトイモ

2 病害虫名 疫病

3 発生状況(経過)

- (1) 6月6半旬に県西部のサトイモほ場において疫病の発生が今期初確認された(図1)。発生は1ほ場(品種:石川早生)でみられ、発病株率は低率であった。
- (2) 初確認の時期は、前年より2週間ほど遅く、前々年と同時期である。
(初発時期) 本年: 6月6半旬 前年: 6月3半旬 前々年: 6月6半旬
- (3) 向こう1か月(6月29日~7月28日)の九州南部の季節予報(鹿児島地方気象台6月27日発表1か月予報)では、平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されており、本病の発生に好適な条件となる可能性がある。
- (4) 発病後は、例年7月から8月にかけて急速に蔓延する(図2)ことから、今後の発生動向に注意が必要である。



図1 疫病的発病葉(上)と疫病菌の遊走子のう

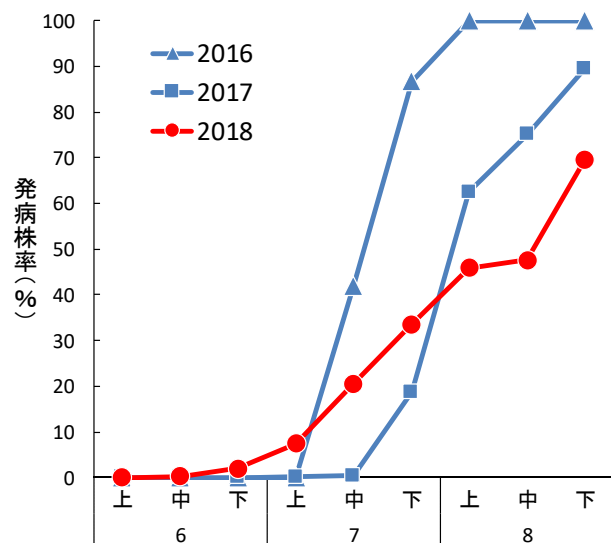


図2 巡回調査における発病株率の推移

4 本病の特徴

本病の病原菌である*Phytophthora colocasiae*は10～35℃で生育するが、27～30℃で最も良く増殖することから、夏期に曇雨天日が続くと急激に蔓延する。葉や葉柄上の病斑に形成した遊走子のうまたは遊走子が風雨により周囲へ飛散し、二次感染が起こる。

5 防除上の注意

1) 7月は、本病の感染に好適な時期である。地域の発生状況を踏まえて薬剤による防除を実施する（登録農薬は表1を参照）。

(1) 未発生ほ場

発生の有無をこまめに確認し、ジーファイン水和剤による予防散布を中心に継続した防除を行う。隣接ほ場で発生が確認された場合はアミスター20フロアブルの散布を行う。

(2) 既発生ほ場

①早生品種の場合は、直ちにアミスター20フロアブルを7日間隔で2回散布する。その後は、天候に留意しながらジーファイン水和剤の定期散布を実施する。アミスター20フロアブルについては、使用回数が3回以内、使用時期が収穫14日前までとなっているので、使用にあたっては十分注意する。

②中生～晩生品種の場合は、直ちにアミスター20フロアブルを1回散布し、その後はジーファイン水和剤を継続して散布する。病斑の上位伸展が続く場合は、再度アミスター20フロアブルを散布する。

2) 薬剤散布に当たっては、必ず展着剤を加用し、株元まで十分量散布する（表1参照）。また、高温時の薬剤散布により葉害を生じることが確認されているので、日中の気温が高い時間の散布はできるだけ避ける。

3) 防除法の詳細等については、「平成29年増補改訂版サトイモ疫病対策マニュアル」を参照（宮崎県農薬安全使用啓発ホームページ（<http://nouyaku-tekisei.pref.miyazaki.lg.jp/nouyaku/user/haishinfile/list/miyazaki>））。また、各地域の防除対策については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、JA、総合農業試験場病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会する。

表1 サトイモ疫病に対する登録農薬（令和元年6月現在）

薬剤名	希釈倍数	散布液量	使用回数	使用時期
ジーファイン水和剤	1,000倍	150～500L/10a	—	収穫前日まで
アミスター20フロアブル	2,000倍	100～300L/10a	3回以内	収穫14日前まで

《連絡先》 宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター） 寺本・松浦
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫防除情報第4号

海外飛来性害虫の飛来状況についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**トビイロウンカの飛来が平年より多く確認されました。
今後の発生状況に注意し、適期防除に努めましょう。**

1. 作物名 普通期水稻、飼料用イネ

2. 病害虫名 海外飛来性害虫
(トビイロウンカ、セジロウンカ、コブノメイガ)

3. 発生状況

(1) トビイロウンカ

トビイロウンカの本年度の初飛来は6月6日であった。その後、7月2～3半旬にトビイロウンカのまとまった飛来があり、6月1半旬から7月3半旬における予察灯のトビイロウンカの累積誘殺数は70頭(平年26.6頭、前年2頭)で平年より多い(表1、図1)。

(2) セジロウンカ

セジロウンカについては6月2半旬にまとまった飛来があり、その後も断続的に飛来が認められた(表2)。

(3) コブノメイガ

コブノメイガの本年度の初飛来は6月16日であった。7月中旬に行った巡回調査の結果、発生面積率は17.1%(平年9.5%、前年0%)、被害葉率0.04%(平年1.6%、前年0%)で平年比やや多の発生である(図2)。

4. 防除上の注意

(1) トビイロウンカ

ア 7月10日の飛来個体を対象とした各地域の予想される防除適期(幼虫ふ化)は、表3のとおりである。今後の飛来状況や気象条件によっては、防除適期がずれる可能性があるため、最新の防除適期については当センターのホームページで確認する。

イ 本虫は株元に生息し、現在、低密度であっても、増殖率が高く、その後坪枯れを引き起こす場合があるので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。

ウ 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意する。

(2) セジロウンカ

ア 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意するとともに、トビイロウンカと併せて防除を行う。

イ 株当たり虫数が4頭以上になると稲の生育が抑制される。6月上旬に飛来した個体群については既に第1世代(飛来次世代)が生まれている。

ウ 飼料用稲(インディカ種)は、本虫に対する抵抗性が弱く、坪枯れ等が発生し易

いので、発生状況に十分注意する。防除に当たっては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（平成26年12月第6版、平成29年12月1日一部改正）及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」（平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成30年12月19日一部改正）、「飼料の有害物質の指導基準及び管理基準について」（昭和63年10月14日付け63畜B第2050号畜産局長通知、平成30年12月19日一部改正）に沿って、適期防除に努める。

(3) コブノメイガ

コブノメイガの飛来状況から発蛾最盛期を6月16日を起点に算出した（表4）。コブノメイガの防除適期は粒剤が発蛾最盛期、粉剤・液剤は若齢幼虫期（発蛾最盛期の1週間後）である。水田における発生状況を確認し、防除を行う。

表1 本年のトビイロウンカ誘殺状況 (単位：頭数)

調査地点	月 半旬	6月						7月			計
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	
国富町 (予察灯)	本年値	0	0	0	0	0	1	3	1	4	9
	平年値	0	0	0	0.5	0	2	0.3	0.3	1.2	4.3
都城市 (予察灯)	本年値	0	1	0	0	0	1	1	0	20	23
	平年値	0	0	0	0.1	8.6	1.2	5	0.6	0.8	16.4
延岡市 (予察灯)	本年値	0	0	0	0	0	2	0	16	2	20
	平年値	0	0	0	1.3	0.2	0.2	0.9	0.6	1.7	5
農業試験場内 (予察灯)	本年値	0	0	0	0	5	0	1	0	6	12
	平年値	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.2	0.3
農業試験場内 (ネットラップ)	本年値	0	1	0	0	0	0	0	3	2	6
	平年値	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.6
計	本年値	0	2	0	0	5	4	5	20	34	70
	平年値	0	0	0	1.9	8.9	3.5	6.3	1.5	4	26.6

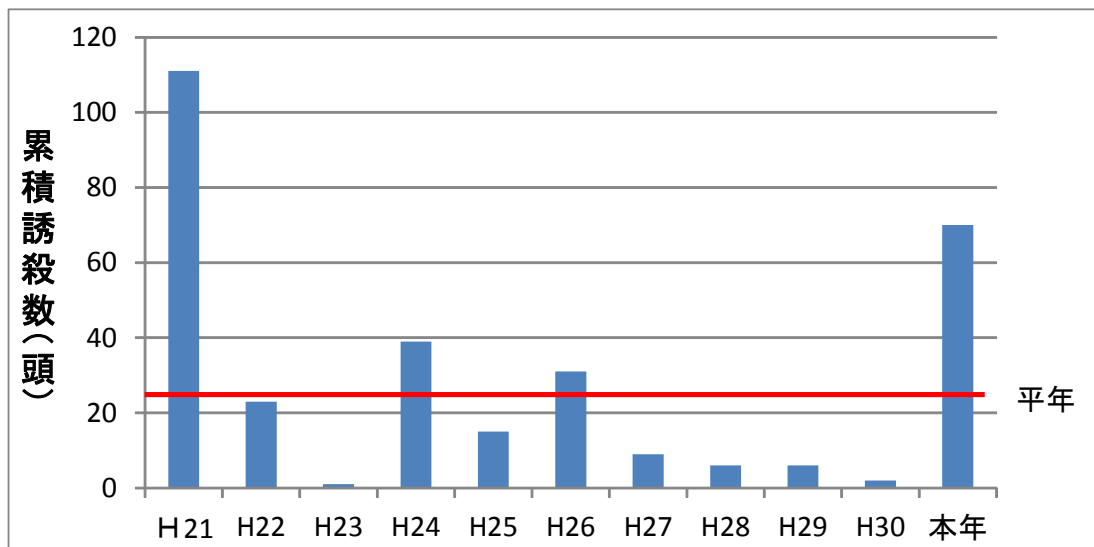


図1 予察灯におけるトビイロウンカの累積誘殺数 (6月1半旬から7月3半旬)

表2 本年のセジロウンカ誘殺状況

(単位：頭数)

調査地点	月 半旬	6月						7月			計
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	
国富町 (予察灯)	本年値	0	22	1	1	0	3	2	1	1	31
	平年値	0	0	0.2	6.1	27.6	2.9	16.7	7	3.1	63.8
都城市 (予察灯)	本年値	0	1	0	0	0	1	0	2	4	8
	平年値	0.2	14.2	3.9	18.4	73.4	15	466	10	20.4	621.5
延岡市 (予察灯)	本年値	0	0	0	0	0	4	6	6	1	17
	平年値	0.1	10.2	1.4	8.6	14	1.8	8.2	6.6	14.4	66.8
農業試験場内 (予察灯)	本年値	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
	平年値	0	0.7	0.1	1.9	2.3	4.7	4.5	3.8	0.7	19.1
農業試験場内 (ネットラップ)	本年値	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	平年値	0.4	0.3	0.1	1.5	1.8	3.8	2	7.1	0.4	18.1
計	本年値	0	23	1	1	0	8	9	9	8	59
	平年値	0.7	25.4	5.7	36.5	119	28.2	497	34.5	39	789.3

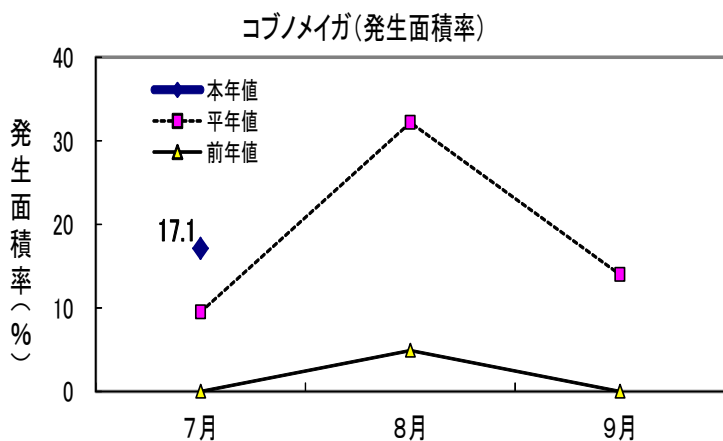


図2 普通期水稻調査ほ場でのコブノメイガ発生面積率

表3 予想されるトビイロウンカの防除適期
(7月10日飛来)

地域	第1世代防除適期	第2世代防除適期
宮崎	7月25日～8月1日	8月19日～8月27日
都城	7月25日～8月2日	8月20日～8月28日
小林	7月26日～8月2日	8月21日～8月29日
延岡	7月26日～8月2日	8月21日～8月29日
高千穂	7月28日～8月5日	8月26日～9月3日

表4 予想されるコブノメイガの防除適期
(6月16日飛来)

地域	粒剤	粉剤・液剤
宮崎	7月19日～7月25日	7月30日～8月4日
都城	7月20日～7月26日	7月31日～8月5日
小林	7月21日～7月27日	8月1日～8月6日
延岡	7月22日～7月28日	8月2日～8月7日
高千穂	7月25日～8月1日	8月6日～8月12日

- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- ・6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。ラベル表示の内容を十分に確認し、農薬使用基準を守って農薬散布を行い、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 黒木

TEL:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127

ホームページ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>

E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫防除情報第5号

トビイロウンカの発生状況についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

警報発表後もトビイロウンカの発生量が増加しており、一部地域に坪枯れが確認されています。

1. 作物名 普通期水稲
2. 病害虫名 トビイロウンカ
3. 発生状況

(1) 県では注意報第4号（令和元年8月1日付）、警報第1号（8月19日付）を発表し、トビイロウンカに対する防除徹底を啓発したところである。

しかし、8月下旬に実施した巡回調査の結果、8月中旬調査時より発生地域は拡大し、生息密度も急激に高まっている（図1、2）。

(2) 巡回調査における発生面積率100%は過去10年間で最も多く、株当たり虫数5.0頭は平成25年に次いで多い（図3、4）。特に西諸県地域では株当たり虫数が9.9頭と非常に多くなっており、一部地域では8月下旬から坪枯れが確認されている（表1、図6）。

(3) 産卵数の多い短翅型雌成虫の株当たり虫数は県全体平均で0.3頭であり、要防除水準に達している（表1）。

（要防除水準：8月上旬～9月中旬の短翅型雌成虫株当たり0.2頭）

(4) 鹿児島地方气象台が8月29日に発表した向こう1ヶ月の気温（8月31日～9月30日）は、平年並または高い確率ともに40%と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況がしばらく続くと考えられる。

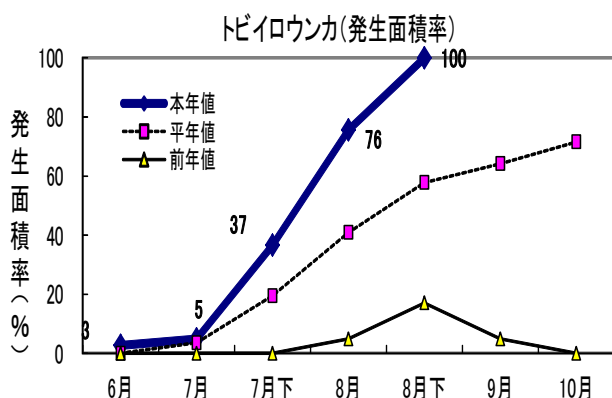


図1 発生面積率の月別推移

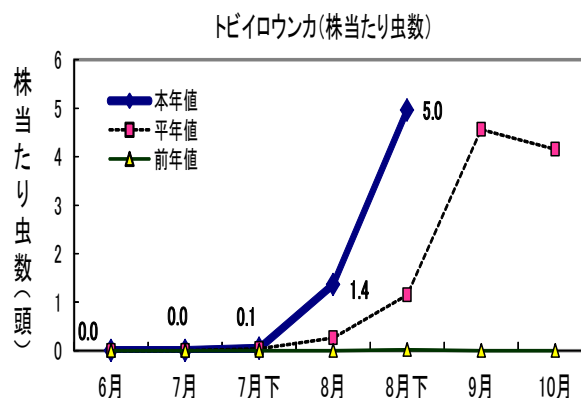


図2 株当たり虫数の月別推移

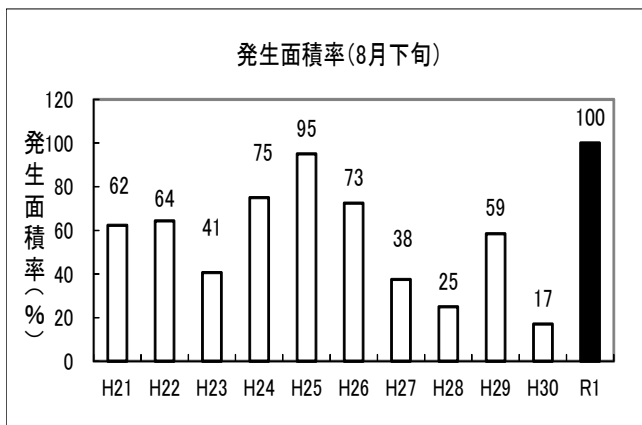


図3 発生面積率の年次推移

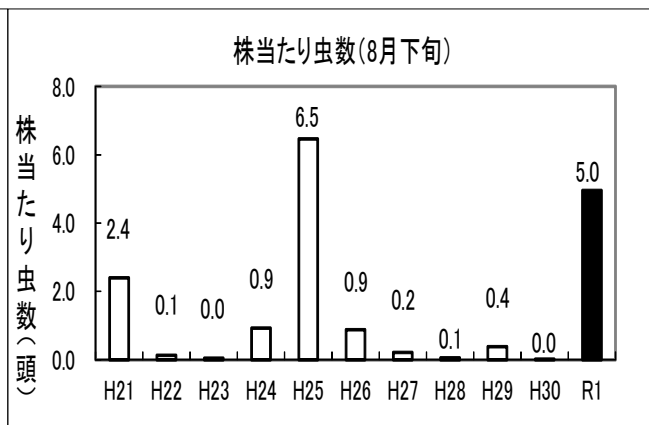


図4 株当たり虫数の年次推移

表1 地域ごとのトビイロウンカ発生状況

	調査地点数	発生面積率 (%)	株当虫数 (頭)	短翅型雌成虫の株当虫数 (頭)
県北	18	100	4.1	0.3
東諸	5	100	2.5	0.3
北諸	10	100	3.7	0.1
西諸	8	100	9.9	0.6
県全体	41	100	5.0	0.3

4. 防除上の注意

- (1) トビイロウンカは水田に侵入後2～3世代増殖を繰り返し、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼす。第3世代の防除適期（幼虫期前半）は9月中旬以降になると予想されるが、これまで世代交代が繰り返されたことにより、ほ場内に全ての世代（卵～成虫）が確認されている。本田防除を行っていないほ場については、防除適期にかかわらず直ちに防除を行う。
- (2) 本田防除を行ったほ場においても、ほ場内に入って水稻の株元を確認し、トビイロウンカの密度が高い場合は防除適期にかかわらず直ちに追加防除を行う。
- (3) トビイロウンカは株元付近に生息しているが、薬剤の種類や散布方法によっては薬剤が株元まで到達せずに十分な防除効果が得られない恐れがある。防除を行う際はほ場内に水をためてトビイロウンカを上を押し上げ、薬剤が本虫にかかるように丁寧な散布を行う（ただし、薬剤ごとの総使用回数や使用時期（収穫前日数）に注意すること）。
- (4) 粒剤の施用も効果的である。粒剤を施用する際は湛水状態で田面に均一に散布し、4～5日間は湛水状態を保つ。散布後7日間は落水やかけ流しをしない。粒剤の効果については図5を参照。

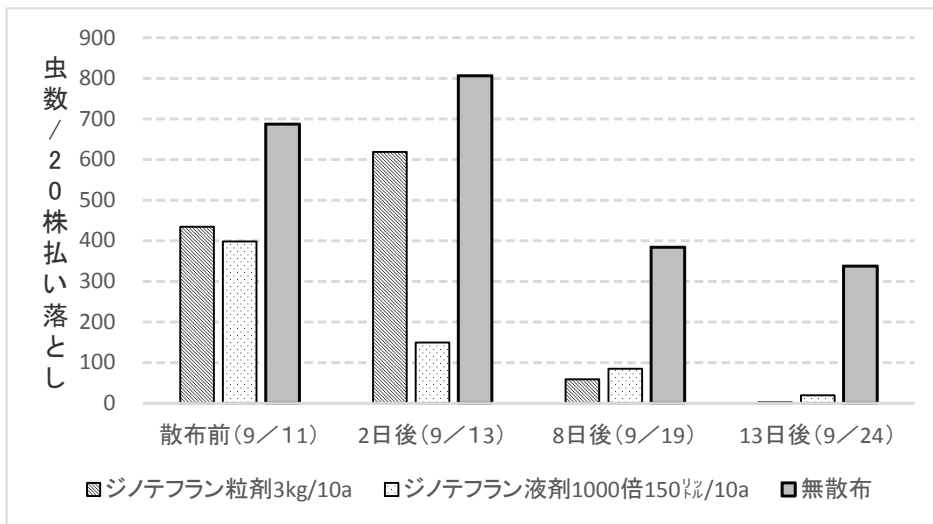


図5 トビイロウンカに対するジノテフラン粒剤および液剤の防除試験例

〔 品種：ヒノヒカリ、移植：平成25年6月13日、出穂：8月25日、各薬剤処理日：9月11日
 粒剤は手散布、液剤は鉄砲ノズルにより散布、宮崎県総合農試で実施 〕



図6 坪枯れの発生状況（8月29日撮影）



図7 株元を加害するトビイロウンカ（8月29日撮影）

- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。ラベル表示の内容を十分に確認し、農薬使用基準を守って農薬散布を行い、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター

担当 黒木、松浦

TEL:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127

ホームページ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>

E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫防除情報第 6 号

冬春果菜類の病害対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

冬春果菜類において、ウリ類黄化えそ病やトマト黄化葉巻病などのウイルス病の発生が見られます。初期防除を徹底しましょう。

- 1 作物名 冬春果菜類（キュウリ、ピーマン、トマト他）
- 2 病害虫名 ウリ類黄化えそ病（媒介虫：ミナミキイロアザミウマ）
トマト黄化葉巻病、ウリ類退緑黄化病（媒介虫：タバココナジラミ）

3 発生状況（経過）

- (1) ウリ類黄化えそ病（MYSV）
10月のキュウリの巡回調査において、ミナミキイロアザミウマの発生は確認されていないが、黄化えそ病の発生面積は本年を含む10年間で2番目、発病株率は本年を含む10年間で最も高い。
- (2) トマト黄化葉巻病（TYLCV）
10月の巡回調査において、タバココナジラミおよびトマト黄化葉巻病の発生は確認されていない。しかし、他の地域では黄化葉巻病の発生が目立つ地域が認められる。
- (3) ウリ類退緑黄化病（CCYV）
10月のキュウリの巡回調査において、本病の発生は認められていないが、タバココナジラミは発生面積率 37.5%（平年 61.4%）で平年よりやや少、百葉当たり虫数は 1.4 頭（平年 6.2 頭）で平年並となっている。
- (4) 向こう 1 か月の気温は、高い確率が 60%であり、野外での増殖に好適な条件が続くことや、換気等で施設サイドや谷部が開放される時期が今後も継続することにより、施設外からアザミウマおよびタバココナジラミが施設内に侵入してくることが予想される。

4 防除上の注意

- (1) 生育初期の各種ウイルス病への感染は、大きな被害をもたらす恐れが高い。野外における各種媒介虫の活動が終息する 11 月下旬頃まで、定期的に殺虫剤を処理し、媒介虫の密度低減に努める。
- (2) 施設サイド及び谷部への 0.4mm 目合いの防虫ネット設置や施設周囲に光反射資材（少なくとも 70cm 幅以上）や障壁作物を設置し、施設への媒介虫の侵入を抑制する。
- (3) 施設内に有色粘着板を設置し、ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類を捕殺する。
- (4) 雑草は、ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類の生息・増殖場所となるため、施設内及びほ場周囲の除草を徹底する。特に暖房機の下や内サイドビニルと外ビニルの間などは見落としがちなので必ず除草を行う。
- (5) 発病株を確認した場合は、速やかに抜き取り、ビニル袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。
- (6) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を心がける。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター）松浦・黒木
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

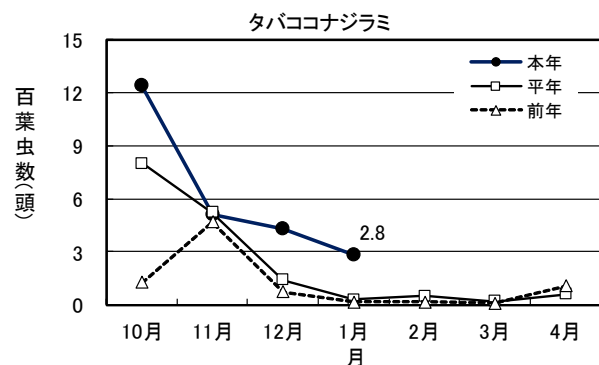
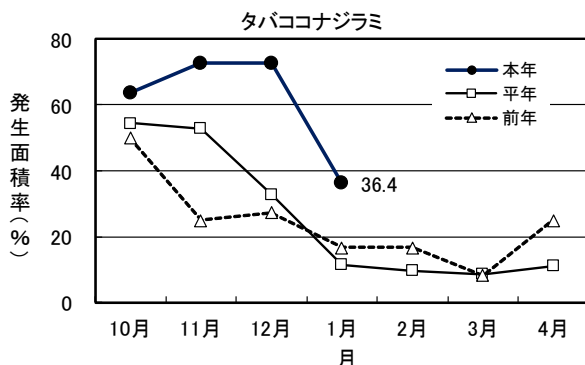
令和元年度病害虫防除情報第7号

各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

タバココナジラミの発生が平年より多い状況が続いています。

- 1 作物名 冬春ピーマン
- 2 病害虫名 タバココナジラミ
- 3 発生状況

- (1) 1月中旬の巡回調査において、タバココナジラミの発生面積率は36.4%（平年11.6%、前年16.7%）、百葉当虫数は2.8頭（平年0.3頭、前年0.2頭）でいずれも平年比多である。
- (2) 向こう1か月の気温は、高い確率が70%であり、本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられる（鹿児島地方気象台1月23日発表1か月予報）。



4 防除上の注意

- (1) 雑草はタバココナジラミの生息・増殖場所となるため、施設内及びほ場周囲の除草を徹底する。特に暖房機の下や内サイドビニルと外ビニルの間などは見落としがちなので注意する。
- (2) 効果のある殺虫剤が少ないことから発見したら早めに防除し、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。
- (3) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点から、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を心がける。また、抵抗性発現の可能性が低い微生物農薬やタバココナジラミを物理的に窒息死させる気門封鎖剤を利用する。

- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 黒木、松浦
TEL:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127
ホームページ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>
E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫防除情報第8号

各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

暖冬のためスクミリンゴガイの発生が平年より多くなると予想されます。

- 1 作物名 早期水稻
2 病害虫名 スクミリンゴガイ

3 春期の発生予想

- (1) スクミリンゴガイ (図1) は寒さに弱いため、越冬時に多くの個体が死亡する。暖冬の場合は生存率が高く、移植後に多発する傾向がある。
(2) 令和元年12月から翌2年2月の平均気温は過去10年間で最も高く (図2)、さらに今後1か月は気温の高い確率が70%と予報されており (3月12日鹿児島地方気象台発表1か月予報)、本種による被害が多発すると予想される。



図1 スクミリンゴガイ

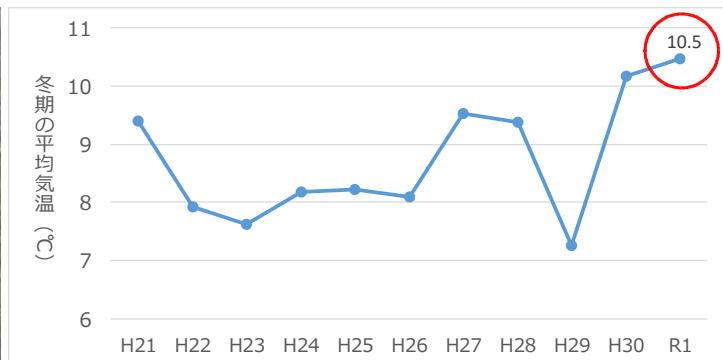


図2 各年度の12月から2月の平均気温

4 防除上の注意

- (1) スクミリンゴガイによる水稻の被害は深水状態であるほど食害が激しいので、活着後はできるだけ浅水管理する。
(2) 水田や水路の貝は捕殺し、卵は捕殺または水中に落とす。貝に寄生虫が感染している可能性があるため、ゴム又はビニール手袋を使用する。
(3) 水路からの侵入を防止するため、水口にネットを設置する。
(4) 貝の発生が多い場合は、薬剤を湛水散布する (表1参照)。散布にあたっては灌排水に十分注意して、水深が3cm位になるようにし、止水状態とする。薬剤の使用時期や使用方法、使用量など適用条件を守って使用する。

表1 主な本田防除剤

薬剤名	主成分	使用量	使用時期	備考
スクミノン	メタアルデヒド	1～4 kg/10a	収穫60日前まで	殺貝効果
ジャンボたにしくん	メタアルデヒド	1～2 kg/10a	収穫60日前まで	殺貝効果
メタレックスRG粒剤	メタアルデヒド	0.7～1.4kg/10a	移植後、但し収穫90日前まで	殺貝効果
スクミンベイト3	磷酸第二鉄	2～4kg/10a	発生時	殺貝効果
キタジンP	IBP	3～5kg/10a	本田初期	殺貝効果
スクミハンター	チオシクラム	1～2kg/10a	収穫45日前まで	食害防止効果
パダン粒剤4	カルタップ	4kg/10a	収穫30日前まで	食害防止効果

※令和2年3月18日時点登録内容

- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 黒木、松浦
 TEL:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127
 ホームページ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>
 E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫防除情報第9号

ピーマンの害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

ヒラズハナアザミウマの発生が増加し、被害果実も確認されています。

- 1 作物名 冬春ピーマン
- 2 病害虫名 ヒラズハナアザミウマ
- 3 発生状況

(1) 県では注意報5号（令和元年11月25日付）を発表し、ヒラズハナアザミウマに対する防除徹底を啓発したところである。しかし、3月中旬に実施した巡回調査の結果、11月中旬巡回調査時より10花当たり虫数及び寄生花率が高まっている。

また、一部場ではヒラズハナアザミウマによる被害果実の発生が確認されている。

(2) 3月中旬の巡回調査におけるヒラズハナアザミウマの発生面積率は72.8%（前年66.6%、平年49.4%）で平年より多、10花当たり虫数は37.4頭（前年9.4頭、平年10.9頭）で平年より多、寄生花率は50.9%（前年27.0%、平年22.3%）で平年より多となっている（図1～4）。

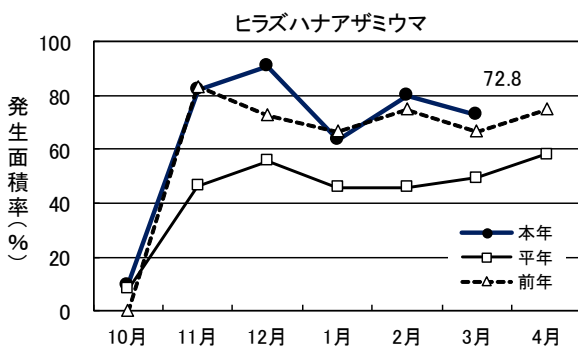


図1 発生面積率の推移

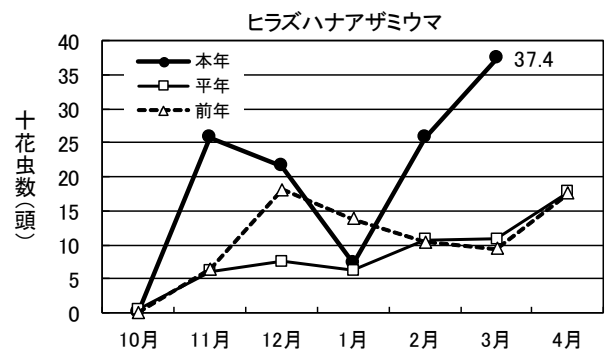


図2 10花当たり虫数の推移

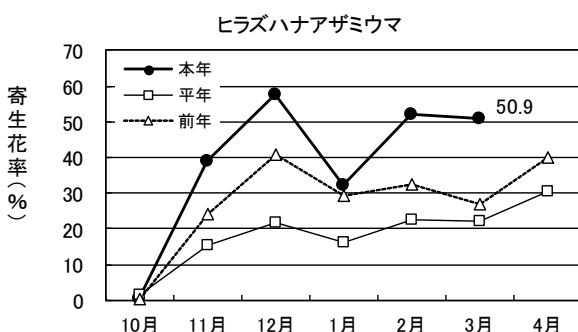


図3 寄生花率の推移



図4 ヒラズハナアザミウマが寄生する様子

4 防除上の注意

- 1) 多発すると果実への被害が見られる場合がある。高密度での防除は困難であるため、低密度のうちに防除を行う。
- 2) 施設内では、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくい。そのため最少でも7日間隔で3回の連続防除を行い、多発しているときは更に連続した防除を徹底する。
幼虫に対してジアミド系およびIGR系の薬剤が有効である。
- 3) ミナミキイロアザミウマとは薬剤に対する感受性が異なるので、薬剤の選択には注意するとともに、天敵を導入している施設では、天敵に対して影響の少ない薬剤を選択する。
- 4) ヒラズハナアザミウマは、主に花内に生息することから、薬剤の花への付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。
- 5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター） 黒木・松浦
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫防除情報第10号

きゅうりの病害対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**きゅうりべと病の発生が急激に多くなっています。
防除対策の徹底を図りましょう。**

1 作物名 冬春きゅうり

2 病害虫名 べと病

3 発生状況

(1) 3月中旬の巡回調査における発生面積率は90.0%（前年81.9%、平年55.9%）、発病葉率は34.3%（前年31.9%、平年16.4%）で、いずれも平年に比べ多い発生であった。

発生面積率、発病葉率ともに過去10年同時期で最も高くなっている（図1～3）。

(2) 向こう1か月の気象予報では、気温の高い確率が70%と予報されており、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（3月12日鹿児島地方気象台発表1か月予報）。

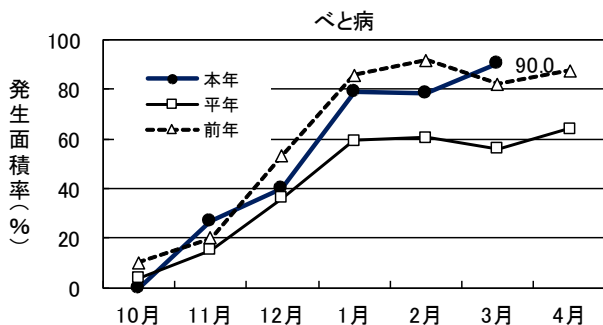


図1 発生面積率の推移

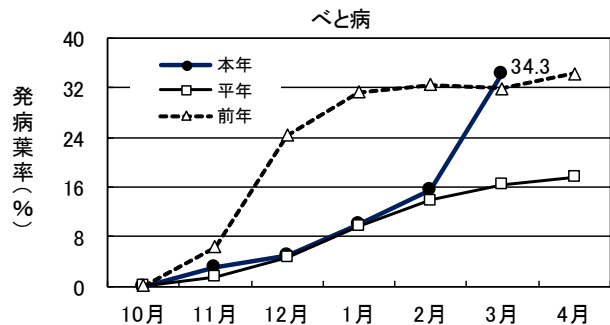


図2 発病葉率の推移



図3 べと病の病徴

4 防除上の注意

- 1) 気象条件や過繁茂により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、葉に結露が生じないように換気や温度調節を行い、施設内の管理を徹底する。
 - 2) 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
 - 3) 発病葉は感染源になるため、生育に支障がない限りできるだけ摘葉し、速やかにほ場外へ持ち出し適正に処理する。
 - 4) 多発時はべと病を対象とする専用の農薬を使用し、新葉の展開にあわせて葉裏まで十分かかるように丁寧に散布する。また、多発時の1回散布では、防除効果が現れにくいことがあるので、7日間隔で2回以上の連続防除を実施する。
 - 5) 農薬による防除では、作用点の異なる薬剤のローテーション散布を実施する。また複数の農薬で薬剤耐性菌の発生が報告されているため、農薬の散布によっても防除効果が認められない場合は使用を見合わせ、他の薬剤による防除に切り替える。
- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター） 黒木・松浦
TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

各関係機関長
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫発生予察特殊報第1号について

令和元年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

令和元年度病害虫発生予察特殊報第1号

- 1 病害虫名：ツマジロクサヨトウ（チョウ目、ヤガ科）、*Spodoptera frugiperda*
- 2 作物名：飼料用トウモロコシ
- 3 発生確認の経過
 - (1) 2019年7月上～中旬にかけて、都城市、小林市、西都市、えびの市、高原町の飼料用トウモロコシほ場において、ヨトウムシ類幼虫による食害が確認され、ツマジロクサヨトウの疑義があり、門司植物防疫所に同定依頼した結果、7月12日にツマジロクサヨトウと確認された。
 - (2) 国内では、2019年6月に鹿児島県の飼料用トウモロコシで初めて確認された（令和元年7月5日付け鹿児島県病害虫発生予察特殊報第1号）。
- 4 形態及び生態の特徴
 - (1) 分布
 - ①北米～南米、アフリカ（サハラ以南）、アジア（インド、中国、タイ、ミャンマー、台湾等）
 - ②本虫は、南北アメリカ原産で、2016年にアフリカ大陸で発生が確認された後、2018年までにアフリカ中南部のほぼ全域に分布が拡大し、2018年にはインド、スリランカ、バングラディッシュ等の南アジア、2019年には中国でも発生が確認された。
 - (2) 寄主植物
 - ①アブラナ科（カブ等）、イネ科（トウモロコシ、イネ、サトウキビ等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（トマト、ナス等）、ナデシコ科（カーネーション）、ヒルガオ科（サツマイモ等）、マメ科（ダイズ等）などの広範囲な作物。
 - ②本虫の寄主範囲は広いとされているが、現在のところ、本県ならびに鹿児島県における寄生確認作物はトウモロコシ類のみである。
 - (3) 形態及び生態
 - ①成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、オスのみ前翅中央部に白斑を持つ（写真1）。終齢幼虫は体長約40mmで頭部の逆Y字および尾部の斑点が特徴である（写真2）。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、メスの体毛で覆われる。
 - ②本虫は暖地に適応した種（南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産）であり、熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地

を除く地域では越冬することはできない。

(4) 被害

- ① 中米・ニカラグアの調査では、肥大期から成熟期のトウモロコシにおいて、被害株率が55～100%の場合、収量が15～73%低下した報告がある。
- ② 本虫は、幼虫が新葉の葉鞘部や若い子実を食害する。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する（写真4、5）

5 防除対策

当県では、当面の間、植物防疫法第29条第1項に基づき措置を行うこととし、国との協議により選定した農薬を使用しての早期防除や、青刈りサイレージ化を実施します。

- (1) 多発すると、被害が拡大する恐れがあることから、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努める。
- (2) 発生ほ場においては、別に指定される薬剤の散布を行うか、薬剤散布が困難な場合は、早期刈取りによる青刈りサイレージ処理等を実施する。
- (3) 農薬の使用にあたっては、散布は無風又は風が弱い時に行うなど近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向、防除器具のノズルの向き等にも十分注意するとともに、隣接農作物の栽培者に対して散布予定農薬の種類や散布時期等を事前に連絡するなど、農薬の飛散（ドリフト）に留意する。
- (4) 幼虫の分散を防ぐため、収穫後は直ちに耕耘する。
※農林水産省によると、本虫はこれまで国内で発生しているヨトウムシ類と同様、的確な防除の実施により被害の軽減が可能であると考えられています。

6 参考文献等

- (1) 農林水産省ホームページ、侵入を警戒する病害虫に関するファクトシート、
【病害虫の名称：ツマジロクサヨトウ】より
- (2) 松村、大塚、吉松（2019）ツマジロクサヨトウの中国における分布拡大と日本への侵入警戒． 植物防疫 73：434-438



写真1 ツマジロクサヨトウ成虫 左(♂) 右(♀) 植物防疫所HPより引用



写真2 幼虫の全景 (植物防疫所HPより引用)



写真3 県内で採取した幼虫の頭部拡大

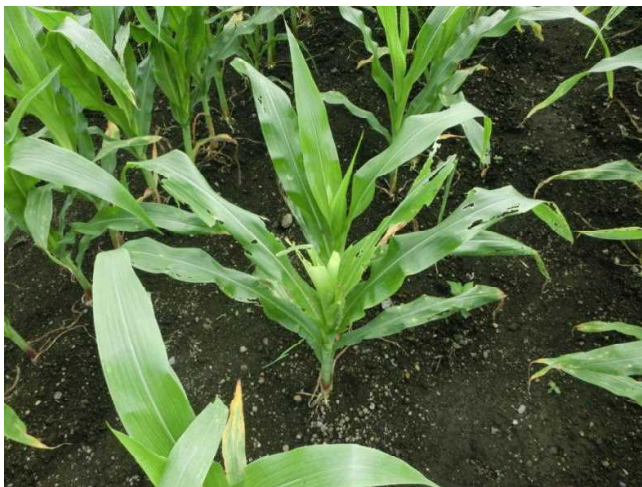


写真4 県内の被害株の状況



写真5 食害部における虫糞

ツマジロクサヨトウに対しては、以下の農薬が使用可能です。

農薬はツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第 29 条第 1 項の規定に基づき行う宮崎県内の防除にあつては以下の農薬が使用可能です。

また、下記希釈倍率、使用方法、使用時期、散布量、回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

下記の作物以外で使用可能な農薬については、門司植物防疫所または宮崎県病害虫防除・肥料検査センターまでお問い合わせください。

○飼料用とうもろこし

農薬名	希釈倍率	使用方法	使用時期	散布量	回数
カルタップ水溶剤	1,000倍	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	2回以内
アセタミプリド水溶剤	6,000倍	散布	収穫90日前まで	100～300L/10a	3回以内
MEP乳剤	2,000倍	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2回以内

○未成熟とうもろこし

農薬名	希釈倍率	使用方法	使用時期	散布量	回数
エマメクチン安息香酸塩乳剤	1,000～2,000倍	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	2回以内
BT水和剤	2,000倍	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	100～300L/10a	
フルベンジアミド水和剤	2,000～4,000倍	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内
シペルメトリン乳剤	1,000倍	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3回以内

○とうもろこし(子実)

農薬名	希釈倍率	使用方法	使用時期	散布量	回数
エマメクチン安息香酸塩乳剤	1,000～2,000倍	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2回以内
BT水和剤	2,000倍	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	100～300L/10a	
フルベンジアミド水和剤	2,000～4,000倍	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内
シペルメトリン乳剤	1,000倍	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3回以内

○水稲

農薬名	希釈倍率	使用方法	使用時期	散布量	回数
スピネトラム水和剤 (飼料用米に使用する場合を除く)	4,000～ 6,000倍	散布	収穫7日前まで	60～150L/10a	3回以内(播種時又は移植時1回、本田2回以内)
BT水和剤	2,000～ 4,000倍	散布	発生初期(但し、 収穫前日まで)	60～150L/10a	
エトフェプロックス粉剤		散布	収穫7日前まで	3～4kg/10a	3回以内
エトフェプロックス乳剤	1,000倍	散布	収穫14日前まで	60～150L/10a	3回以内

○稲(箱育苗)

農薬名	希釈倍率	使用時期	回数
クロラントラニリプロール粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱あたり50g・育苗箱の苗の上から均一に散布する。	は種時覆土前～ 移植当日	1回
フィプロニル粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱あたり50g・育苗箱の苗の上から均一に散布する。	は種時覆土前～ 移植当日	1回
スピノサド粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱あたり50g・育苗箱の苗の上から均一に散布する。	移植2日前～ 移植当日	1回

○さつまいも

農薬名	希釈倍率	使用方法	使用時期	散布量	回数
スピネトラム水和剤	2,500～ 5,000倍	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内
インドキサカルブ水和剤	2,000倍	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2回以内
エトフェプロックス乳剤	1,000倍	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3回以内
フルベンジアミド水和剤	2,000～ 6,000倍	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2回以内

《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 松浦・黒木

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ: <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

各関係機関長
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫発生予察特殊報第2号について

令和元年度病害虫発生予察特殊報第2号を公表したので送付します。

令和元年度病害虫発生予察特殊報第2号

- 1 病害虫名：ツマジロクサヨトウ（チョウ目、ヤガ科）、*Spodoptera frugiperda*
- 2 作物名：ソルガム
- 3 発生確認の経過
 - (1) 2019年7月中旬に高原町のソルガムほ場において、ヨトウムシ類幼虫による食害が確認され、ツマジロクサヨトウの疑義があり、門司植物防疫所に同定依頼した結果、7月23日にツマジロクサヨトウと確認された。
 - (2) 本県における本虫の発生は飼料用トウモロコシにおいて既に確認されている（令和元年7月12日付け宮崎県病害虫発生予察特殊報第1号）。
- 4 形態及び生態の特徴
 - (1) 分布
 - ①北米～南米、アフリカ（サハラ以南）、アジア（インド、中国、タイ、ミャンマー、台湾等）
国内においては、2019年に長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県で発生が確認されている。
 - ②本虫は、南北アメリカ原産で、2016年にアフリカ大陸で発生が確認された後、2018年までにアフリカ中南部のほぼ全域に分布が拡大し、2018年にはインド、スリランカ、バングラディッシュ等の南アジア、2019年には中国でも発生が確認された。
 - (2) 寄主植物
 - ①アブラナ科（カブ等）、イネ科（トウモロコシ、イネ、サトウキビ等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（トマト、ナス等）、ナデシコ科（カーネーション）、ヒルガオ科（サツマイモ等）、マメ科（ダイズ等）などの広範囲な作物。
 - (3) 形態及び生態
 - ①成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、オスのみ前翅中央部に白斑を持つ（写真1）。終齢幼虫は体長約40mmで頭部の逆Y字および尾部の斑点が特徴である（写真2、3）。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、メスの体毛で覆われる。
 - ②本虫は暖地に適応した種（南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産）であり、熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地

を除く地域では越冬することはできない。

(4) 被害

①中米・ニカラグアの調査では、肥大期から成熟期のトウモロコシにおいて、被害株率が55～100%の場合、収量が15～73%低下した報告がある。

②本虫は、幼虫が新葉の葉鞘部や若い子実を食害する（写真4）。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する。

5 防除対策

当県では、当面の間、植物防疫法第29条第1項に基づく措置を行うこととし、国との協議により選定した農薬を使用しての早期防除や、青刈りサイレージ化を実施します。

(1) 多発すると、被害が拡大する恐れがあることから、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努める。

(2) 発生ほ場においては、別に指定される薬剤の散布を行うか、薬剤散布が困難な場合は、早期刈取りによる青刈りサイレージ化処理等を実施する。

(3) 農薬の使用にあたっては、散布は無風又は風が弱い時に行うなど近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向、防除器具のノズルの向き等にも十分注意するとともに、隣接農作物の栽培者に対して散布予定農薬の種類や散布時期等を事前に連絡するなど、農薬の飛散（ドリフト）に留意する。

(4) 幼虫の分散を防ぐため、収穫後は直ちに耕耘する。

※農林水産省によると、本虫はこれまで国内で発生しているヨトウムシ類と同様、的確な防除の実施により被害の軽減が可能であると考えられています。

6 参考文献等

(1) 農林水産省ホームページ、侵入を警戒する病害虫に関するファクトシート、
【病害虫の名称：ツマジロクサヨトウ】より

(2) 松村、大塚、吉松（2019）ツマジロクサヨトウの中国における分布拡大と日本への侵入警戒．植物防疫 73：434-438



写真1 ツマジロクサヨトウ成虫 左(♂) 右(♀) 植物防疫所HPより引用



写真2 幼虫の全景 (植物防疫所HPより引用)



写真3 ソルガムで採取した幼虫の頭部



写真4 ソルガムにおける被害株の状況

ツマジロクサヨトウに対しては、以下の農薬が使用可能です。

ツマジロクサヨトウに対する農薬登録はありませんが、植物防疫法第 29 条第 1 項の規定に基づき行う宮崎県内の防除にあつては、以下の農薬が使用可能です。

また、下記希釈倍率、使用方法、使用時期、散布量、回数を守ること、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

下記の作物以外で使用可能な農薬については、農林水産省HPを参照ください。

記

○ソルガム(飼料用)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数 使用量	本剤の 使用回数
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
アセフェート水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

○飼料用とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数 使用量	本剤の 使用回数
BT水和剤(14459)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫90日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
MEP乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

(注)BT水和剤に記載している()内数字は登録番号。

○未成熟とうもろこし(その1)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数 使用量	本剤の 使用回数
BT水和剤(19616, 19618, 19899, 21694, 21695, 23884)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
BT水和剤(14459)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	60～150L/10a	1000倍	—
MEP乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
NAC粒剤	散布	雄穂抽出期～雌穂抽出期 但し 収穫21日前まで		4～6kg/10a	2回以内
PAP乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
エトフェプロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
エトフェプロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
エマメクテン安息香酸塩乳剤	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	700倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
カルタップ粒剤	株の上から均一に 散粒する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
クロマフェノジド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロルフェナピル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

(注)BT水和剤に記載している()内数字は登録番号。

○未成熟とうもろこし(その2)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数 使用量	本剤の 使用回数
シベルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
ピリダリル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
フィプロニル水和剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
フェンパレレート・MEP水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	4回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	4000倍	2回以内
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
ペルメトリン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	4回以内
メタフルミゾン水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
レピメクテン乳剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

○トウモロコシ(子実)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数 使用量	本剤の 使用回数
BT水和剤 (19616, 19618, 19899, 21694, 21695, 23884)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	-
BT水和剤 (19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	-
BT水和剤 (14459)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	60～150L/10a	1000倍	-
MEP乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
PAP乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
イソキサチオン乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
エトフェンプロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
エトフェンプロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
エマメクテン安息香酸塩乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	700倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
カルタップ粒剤	散布 株の上から均一に 散粒する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
クロラントラニリプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロルフェナピル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
シベルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
フェンパレレート・MEP水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	4回以内
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
ペルメトリン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	4回以内
メタフルミゾン水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内

(注)BT水和剤に記載している()内数字は登録番号。

《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 松浦・黒木

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ: http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki

2 特殊病害虫侵入警戒調査事業

1) ミバエ類侵入警戒調査

ミバエ類の侵入の危険性の高い地域において、ミバエ類の早期発見体制の整備及び侵入警戒調査を実施した。またミカンコミバエ、ウリミバエについては、関係農林振興局の協力のもとで実施した。

(1) 誘殺状況

トラップ設置場所	調査期間	誘殺数			調査機関
		チチュウカイミバエ	ミカンコミバエ	ウリミバエ	
宮崎市 中部港湾事務所敷地内	4～12, 3月	0	0	0	防除・肥料センター
〃 総合農業試験場内果樹園	〃	0	0	0	〃
〃 清武町のミカン園	〃	0	0	0	〃
都農町 立野のミカン園	〃	0	0	0	〃
南郷町 谷之口のミカン園	〃	0	0	0	〃
日向市 高森山のミカン園	〃	0	0	0	〃
門川町 牧山のミカン園	〃	0	0	0	〃
宮崎市 赤江 共同利用施設浜畑センター内	〃	—	0	0	中部農林振興局
〃 折生迫 水産試験場内	〃	—	0	0	〃
〃 内海 内海神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 内海 野島神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 折生迫 青島小学校付近	〃	—	0	0	〃
日南市 油津港東岸壁手前公園	〃	0	0	0	南那珂農林振興局
〃 猪崎鼻公園駐車場	〃	0	0	0	〃
南郷町 虚空蔵島入口	〃	0	0	0	〃
〃 贄波神社境内	〃	0	0	0	〃
〃 亜熱帯作物支場入口	〃	0	0	0	〃
串間市 市木 石波海岸（幸島入口）	〃	0	0	0	〃
〃 宮之浦（漁港公園）	〃	0	0	0	〃
〃 都井港	〃	0	0	0	〃
〃 崎田（道路沿い雑木）	〃	0	0	0	〃
〃 新福島港	〃	0	0	0	〃
川南町 通浜（川南魚港周辺）	〃	—	0	0	児湯農林振興局
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
日向市 細島港みなとの森公園	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局

トラップ設置場所	調査期間	誘 殺 数			調査機関
		チチュウカイ イミバエ	ミカンコ ミバエ	ウリミ バエ	
門川町 庵川 庵川東公民館	〃	—	0	0	東白杵農林振興局
〃 庵川 庵川神社	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 門川漁協	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 尾末神社	〃	—	0	0	〃
延岡市 浦城町 浦城養魚場付近旧道	〃	—	0	0	〃
〃 浦城町 浦城海水浴場付近	〃	—	0	0	〃
〃 須美江町須美江キャンプ場内	〃	—	0	0	〃
〃 熊野江 集落センター敷地内	〃	—	0	0	〃
北浦町 下阿蘇オートキャンプ場付近	〃	—	0	0	〃
対象病虫害の調査総回数	チチュウカイイミバエ170回（10ヶ月×17か所） ウリミバエ・ミカンコミバエ740回（10ヶ月×月2回×37か所）				

（2）調査結果

ミバエ類の本県への侵入は認めなかった。

2）アリモドキゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月にかけて、アリモドキゾウムシの侵入危険性の高い地域（29地点）にトラップ（アリモドキコール）を設置し、本虫の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・北諸県・児湯の各農林振興局においては、気温が高い7～9月に計47地点で侵入警戒調査を実施した。

（1）誘殺状況

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
宮崎市 新別府町前浜	ヒルガオ自生地	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 港	中部港湾事務所敷地内	〃	0	〃
〃 山崎町上ノ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町白砂坂上	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町乙	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下那珂	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下田島	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 関之尾町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 丸谷町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 丸谷町町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 山之口町五反田	甘藷畑	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
都城市 山田町菓子野	甘藷畑	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 〃 牧原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
三股町 宮村	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原児屋根	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
新富町 日置池田	ヒルガオ自生地	〃	0	〃
〃 日置上日置	甘藷畑	〃	0	〃
〃 日置五丁野地	甘藷畑	〃	0	〃
高鍋町 南高鍋蚊口浦	酒造工場付近	〃	0	〃
高鍋町 持田	甘藷畑	〃	0	〃
日南市南郷町榎原	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（堂園）	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（大東原）	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（大東原）	甘藷畑	〃	0	〃
宮崎市青島	県水産試験場	7～9月 6回	0	中部農林振興局
宮崎市大字郡司分	県消防学校	〃	0	〃
宮崎市大字恒久	県立宮崎農業高等学校	〃	0	〃
宮崎市佐土原町下田島	宮崎市佐土原総合支所	〃	0	〃
宮崎市田野町甲	宮崎市田野総合支所	〃	0	〃
宮崎市高岡町内山	宮崎市高岡総合支所	〃	0	〃
国富町大字岩知野	中部農業改良普及センター	〃	0	〃
国富町大字深年高田原	菊田製茶工場横	〃	0	〃
綾町大字南俣	綾町有機農業開発センター	〃	0	〃
日南市大字風田	風田国道220号線沿	〃	0	南那珂農林振興局
日南市油津	油津港	〃	0	〃
日南市大堂津	大堂津港	〃	0	〃
日南市南郷町	目井津港	〃	0	〃
串間市大字奈留	J A大東集荷場	〃	0	〃
串間市大字奈留	J A大東育苗センター	〃	0	〃
串間市大字奈留	アオイファーム	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査期間
串間市大字奈留	仲別府公民館	7～9月 6回	0	南那珂農林振興局
串間市大平	J A大東集荷場	〃	0	〃
串間市大字北方	酒造会社付近	〃	0	〃
串間市大字西方	J Aはまゆう集荷場	〃	0	〃
串間市大字西方	酒造会社付近	〃	0	〃
串間市大字南方	福島港	〃	0	〃
串間市大字南方	福島港	〃	0	〃
串間市大字都井	毛久保港	〃	0	〃
都城市 高木町	北諸県農業改良普及センター	〃	0	北諸県農林振興局
〃 山田町	J A山田支所	〃	0	〃
〃 山田町	かかし館付近	〃	0	〃
〃 平塚町	茶園付近	〃	0	〃
〃 横市町	給水栓付近	〃	0	〃
〃 豊満町	茶園付近	〃	0	〃
〃 乙房町	茶園付近	〃	0	〃
〃 梅北町	給水栓付近	〃	0	〃
〃 大岩田	旧医師会病院付近	〃	0	〃
〃 高城町	石山貯蔵庫	〃	0	〃
〃 蓑原町	給水栓付近	〃	0	〃
えびの市西長江浦	甘藷畑	〃	0	西諸県農林振興局
えびの市大明司	甘藷畑	〃	0	〃
小林市堤	甘藷畑	〃	0	〃
〃 野尻町大萩	甘藷畑	〃	0	〃
高原町後川内	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原 緑ヶ丘	緑ヶ丘バス停付近	〃	0	児湯農林振興局
〃 大字三宅 寺原	西都市運動公園付近	〃	0	〃
〃 大字上三財	三財中学校付近	〃	0	〃
新富町 大字新田 十文字	春日神社付近	〃	0	〃
〃 大字新田 三財原	葬祭場付近	〃	0	〃
高鍋町 大字上江 境谷	市の山公民館付近	〃	0	〃
木城町 大字椎木 牧ノ内	茶臼原小学校付近	〃	0	〃
対象病害虫の調査総回数	572回（5ヶ月×月2回×29か所+3ヶ月×月2回×47か所）			

（２）調査結果

アリモドキゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

3) イモゾウムシ侵入警戒調査

9月25、27日に都城市（20ほ場）、串間市（20ほ場）、10月29日に都城市（20ほ場）、串間市（20ほ場）で、収穫終了後の甘藷ほ場において1ほ場当たり50本程度の収穫残渣を切開及び目視により食害痕等を調査した（調査総回数80回（2ヶ月×40か所））。

いずれの地域においてもイモゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

4) ミカンキジラミ侵入警戒調査

4月～12月、3月において、県内のかんきつ園地18ほ場で調査したが、発生は確認されなかった（調査総回数180回（10ヶ月×18か所））。

3 その他の調査、検定等

1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況

発生指標	? : 判定不能	- : 好適条件なし	4 : 準好適条件4	3 : 準好適条件3	2 : 準好適条件2	1 : 準好適条件1	● : 好適条件
------	----------	------------	------------	------------	------------	------------	----------

(早期水稻)

	宮崎	串間	高鍋	西都	赤江	日向
5月22日	-	-	-	-	-	-
5月23日	-	-	-	-	-	-
5月24日	-	-	-	-	-	-
5月25日	-	-	-	-	-	-
5月26日	-	-	-	-	-	-
5月27日	-	-	-	-	-	-
5月28日	●	-	-	-	-	●
5月29日	-	-	-	-	-	-
5月30日	-	-	-	-	-	-
5月31日	-	-	-	-	-	-
6月1日	●	●	-	●	4	-
6月2日	●	●	4	●	-	-
6月3日	4	●	-	-	-	-
6月4日	-	-	●	●	-	●
6月5日	-	●	-	4	-	-
6月6日	-	-	?	-	-	-
6月7日	-	-	-	-	-	-
6月8日	-	-	-	-	-	-
6月9日	-	-	-	-	-	-
6月10日	-	-	-	-	-	-
6月11日	-	-	-	-	-	-
6月12日	-	-	-	-	-	-
6月13日	-	-	-	-	-	-
6月14日	-	-	-	-	-	-
6月15日	-	-	-	-	-	-
6月16日	-	-	-	-	-	-
6月17日	-	-	-	-	-	-
6月18日	-	-	-	-	-	-
6月19日	●	●	●	●	●	4
6月20日	-	-	-	-	-	-
6月21日	-	-	-	-	-	-
6月22日	-	-	-	-	-	-
6月23日	-	-	-	-	-	-
6月24日	-	●	-	-	-	-

調査地点の発病株率の推移(7月中旬は発病穂率)

	宮崎	串間	高鍋	西都	青島	日向
5月中旬	0	/	/	0	/	0
6月中旬	0			0		0
6月下旬	0			0		0
7月中旬	1.3			0		0

(普通期水稻)

	高千穂	鞍岡	延岡	神門	加久藤	小林	宮崎	都城
5月20日	-	1	-	-	●	-	-	-
5月21日	-	3	-	-	-	-	-	●
5月28日	-	4	●	●	●	●	●	-
6月1日	-	-	-	-	-	-	●	●
6月2日	4	4	4	4	-	●	●	-
6月3日	1	4	●	-	1	1	4	-
6月5日	-	-	-	-	●	1	-	-
6月7日	●	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	-	-	-	1	●	●	●	-
6月23日	-	-	-	●	●	-	-	-
6月24日	-	-	-	-	-	-	-	●
6月26日	-	-	-	-	●	-	●	●
6月28日	-	●	-	-	●	-	-	-
6月30日	●	●	-	●	-	-	-	-
7月7日	-	●	-	●	-	-	-	-
7月9日	-	-	●	-	-	-	●	-
7月10日	-	-	-	●	-	-	-	-
7月13日	4	-	●	-	-	-	-	-
7月15日	●	●	●	●	●	●	-	-
7月16日	●	-	-	-	-	-	-	-
7月19日	-	-	-	●	-	-	2	2
7月20日	-	●	-	-	-	-	-	-
7月22日	-	-	-	●	-	-	-	-
7月28日	-	●	-	-	-	-	-	-

調査地点の発病株率の推移(9月中旬は発病穂率)

	高千穂	五ヶ瀬	延岡	東郷	えびの	小林	国富	都城
6月中旬	0	0	0	0	0	0	0	0
7月中旬	0	0	0	2.0	0	0	0	0
7月下旬	0	0	0	56.0	0	7.0	0	0
8月中旬	0	6.0	0	8.0	0	0	0	0
9月中旬	0.1	0.05	0.2	2.3	0.3	0	0	0.3

2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査

イタリアンライグラスでの斑点米カメムシ類の発生状況(6月)

※20回振り/1地点

地域名	地点数	ミナミアオカメムシ①			クモヘリカメムシ②			ホソハリカメムシ③		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
中部	22	0.0	0.1	0.1	0.3	0	0.3	1.0	0.1	1.1
南那珂	12	0	0	0	3.0	0.4	3.4	0.8	0.7	1.4
児湯	10	0	0.1	0.1	4.1	1.7	5.8	2.1	0.4	2.5
東臼杵	6	0	0	0	17.8	0	17.8	1.8	0	1.8
全 県	50	0.0	0.1	0.1	3.8	0.4	4.3	1.3	0.3	1.5

地域名	地点数	シラホシカメムシ④			アカスジカスミカメ⑤			4種合計(①+②+③+④)	4種平年値
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		
中部	17	0.2	0.1	0.3	33.5	7.2	40.6	1.8	7.0
南那珂	14	0.2	0.1	0.3	5.2	4.4	9.6	5.1	12.3
児湯	13	0.3	0.4	0.7	33.9	13.8	47.7	9.1	13.3
東臼杵	6	0.3	0	0.3	81.2	28.2	109.3	1.7	9.6
全 県	50	0.2	0.1	0.4	32.5	10.4	42.8	6.2	9.6

数値を小数点第2位で四捨五入しているため、合計数値が一致しない場合があります。

3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測

番号	普及センター名	採取場所	採取日	平均口針鞘数	離脱予想日	飛来日	備考
1	中部	宮崎市高岡町(中山)	7月22日	0	9月5日	飛来なし	
2	中部	宮崎市高岡町(高浜)	7月22日	0	9月5日	飛来なし	
3	中部	宮崎市高岡町(小山田)	7月22日	0.4	9月5日	飛来なし	
4	南那珂	日南市(細田)	7月30日	0.2	9月13日	飛来なし	
5	南那珂	日南市(大窪)	7月30日	0.2	9月13日	飛来なし	
6	南那珂	日南市南郷町(潟上)	7月30日	0.6	9月13日	飛来なし	
7	南那珂	串間市大平	7月30日	0.1	9月13日	飛来なし	
8	西諸県	小林市種子田	7月26日	0	9月9日	9月5日	
9	西諸県	小林市坂下	7月26日	2.8	9月5日	9月3日	
10	児湯	西都市宝財原	7月29日	7.0	8月27日	8月18日	
11	児湯	都農町新藤見	7月23日	2.6	9月2日	飛来なし	
12	東臼杵北部	延岡市川島町・北方町(蔵田、上崎)	7月23日	—	—	7月29日	
13	防除センター	新富町(新田)	7月23日	0.2	9月6日		
14	防除センター	延岡市(片田町)	7月23日	0.5	9月6日		

4) サトイモ疫病の発生状況調査

発生経過

令和元年産については、5月から巡回調査を開始し、7月4日の調査で疫病の初発生を確認した（現地からは6月26日に発生確認情報あり）。初発確認は前年より3週間ほど遅かったが、その後の病勢は、7月20日（台風7号）と8月6日（台風8号）に接近または上陸した台風の影響もあり、7月下旬から8月中旬にかけて急速に進展した。発生ほ場率は8月中旬に100%、発病株率は9月上旬に100%となった。

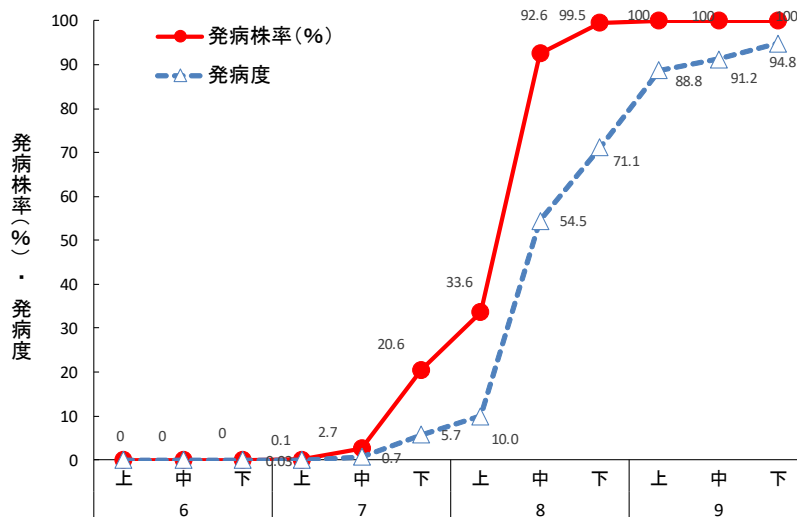


図1 巡回調査ほ場における疫病の発病株率および発病度の推移

注) 調査ほ場は14ほ場（宮崎市佐土原町1、宮崎市田野町2、西都市1、国富町2、都城市4、小林市4）

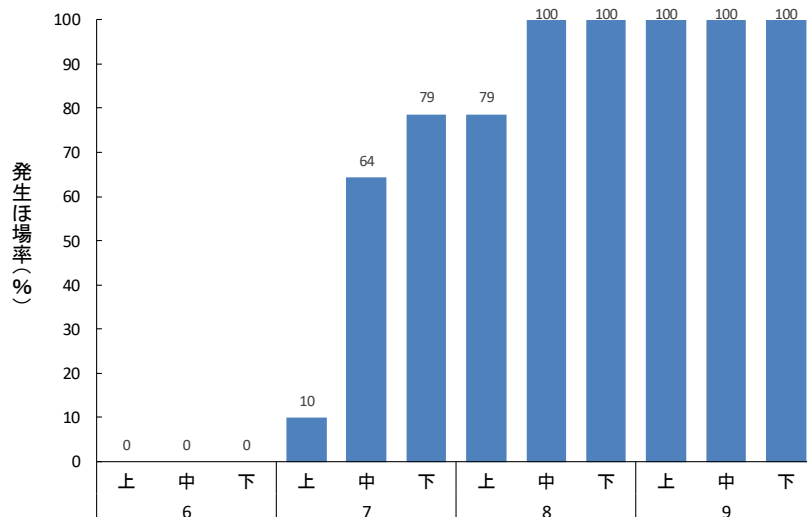


図2 巡回調査ほ場における疫病の発生ほ場率の推移

調査基準

- E(0) : 発病なし
- D(1) : 下位葉を中心に1/3以下(1~2枚)の葉に病斑がみられるが、枯死茎は認められない
- C(2) : 下位葉を中心にほぼ半数(3枚前後)の葉に病斑がみられるが、枯死茎は認められない
- B(3) : ほとんどの葉が発病、枯死茎が半数程度認められ、残存する茎数は3~4本
- A(4) : 枯死茎が2/3程度認められ、残存する茎数は2本以下

$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2C + D) / (4 \times \text{調査株数}) \times 100$$

5) 割れ籾程度による斑点米の発生状況

宮崎県の3~4月植えの早期水稲において斑点米カメムシ類による1等米比率の低下防止は長年の課題である。本県では出穂期前後の2回防除を基本としているが、無人ヘリによる防除スケジュールや防除経費などの諸事情により2回防除が徹底されず、斑点米の発生を抑制できていない。そのため、本県病害虫防除所では6月中下旬の水田における虫数や発生面積率を用い予察情報を発出し、防除の啓発を行っている。しかし、平年並以下の発生にも関わらず斑点米の発生が多い年もあり、より精度の高い予察手法を必要としている。水稲の割れ籾の発生は斑点米の発生を助長する(田淵・櫻井, 2019)ことから、宮崎総農試で栽培された過去7年分のコシヒカリを用い検討した結果、割れ籾率と斑点米格下げ率には相関が見られた。また、割れ籾の発生は減数分裂期の低温が影響する(二瓶・橋本, 1992)ため、本県早期水稲の減数分裂期の最低気温と6月中旬のカメムシ類発生面積率を説明変数、斑点米格下げ率を目的変数とした重回帰分析を行った所、高い相関関係が見られた。

参考資料

表1 1等米比率とカメムシ類による格下げ率の推移

(単位: %)

	H20	H21※	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29※
1等米比率	65.8	72.9	65.5	62.3	69	66.4	72.2	70.4	62.9	49.6
カメムシによる格下げ率	30.4	13.7	20.9	16.3	18.0	9.4	17.8	13.8	14.0	44.9

※印は注意報発表年

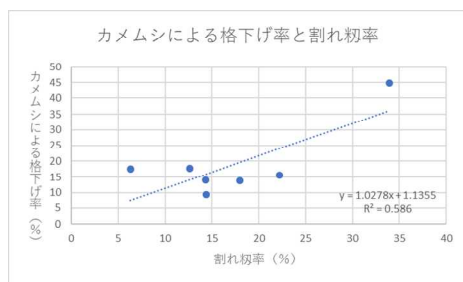


図1 斑点米カメムシによる格下げ率と割れ籾率

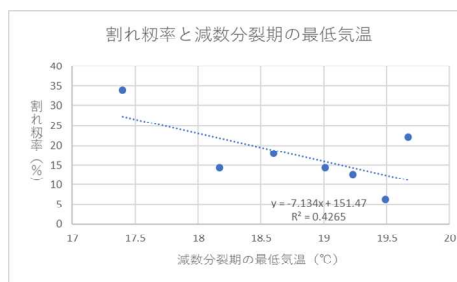


図2 割れ籾率と減数分裂期の最低気温

表2 斑点米格下げ率を目的変数とした重回帰分析

(説明変数: 6月中旬の斑点米カメムシ発生面積率及び6月6日から15日の平均最低気温)

回帰統計	
重相関 R	0.92
重決定 R2	0.85
補正 R2	0.82
標準誤差	4.06
観測数	12.00

分散分析表

	自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F
回帰	2	850.21	425.11	25.83	0.00
残差	9	148.14	16.46		
合計	11	998.36			

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	125.65	21.48	5.85	0.000	77.06	174.24	77.06	174.24
6月中旬斑点米カメムシ発生面積率	0.39	0.11	3.70	0.005	0.15	0.63	0.15	0.63
6.6~6.15の平均最低気温	-6.00	1.11	-5.43	0.000	-8.51	-3.50	-8.51	-3.50

6) 輸出検疫協議の迅速化委託事業

(1) 目的

農産物の海外輸出推進のための植物検疫に係る協議における基礎資料とするため、当該害虫の全国的な発生調査を実施した。

(2) 方法

ア) 調査対象害虫

農林水産省から指定の4種害虫を対象とした。

ナシマダラメイガ、スモモヒメシンクイ、ブドウホソハマキ、

オウトウショウジョウバエ

※リンゴコシンクイについては、県内に寄主植物の経済栽培実態が無いため、調査を実施しなかった。

イ) 調査方法

① ナシマダラメイガ

県内3地点（宮崎市1地点、新富町1地点、都農町1地点）のナシ栽培ほ場に、6月中旬から9月上旬までフェロモントラップを設置し、誘殺の有無を調査した。

② スモモヒメシンクイ

県内3地点（宮崎市1地点、新富町1地点、都農町1地点）のスモモ栽培ほ場に、6月中旬から9月上旬までフェロモントラップを設置し、誘殺の有無を調査した。

③ ブドウホソハマキ

県内3地点（宮崎市2地点、小林市1地点）のブドウ栽培ほ場において、6月中旬に1か所あたり3樹50果房の見取り調査を実施した。

④ オウトウショウジョウバエ

県内4地点（宮崎市）の無防除のブルーベリー果実を、6月中旬から7月上旬に採集し、本虫の発生の有無を調査した。

(3) 結果の概要

本年度調査した4害虫について、いずれの調査地点においても発生は確認されなかった。そのため、令和元年における本事業でのステータスは、「暫定的な県内全域未発生」とした。

7) 令和元年(2019)に宮崎県で初確認されたツマジロクサヨトウの発生状況と薬剤感受性

2019年7月に宮崎県の飼料用トウモロコシおよびソルガムにおいて、ツマジロクサヨトウ幼虫の芯葉への寄生および食害が初確認された(令和元年度宮崎県病害虫発生予察特殊報第1および2号)。7月に実施した早播きトウモロコシ(3月下旬~5月上旬播種)を主体とした調査では、9.3%(8/86ほ場)のほ場で幼虫の寄生を確認した。また、9月に実施した早播き後二期作トウモロコシ(7月下旬~8月中旬播種)では89.8%(44/49ほ場)の高い寄生ほ場率を示した。主要な飼料用トウモロコシ栽培市町村において、広範囲に発生していることが確認され、本年の発生確認市町村は12/31市町であった。採集した個体群を用い、トウモロコシ葉片浸漬法により各種殺虫剤の常用濃度における3齢幼虫の感受性を調査した。植物防疫法の特例により使用可能な殺虫剤における処理72時間後の補正死虫率は、カルタップ水和剤1,000倍89.7%、アセタミプリド水溶剤6,000倍0%、MEP乳剤2,000倍20.7%であった。

表1 令和元年(2019) ツマジロクサヨトウ発生調査結果

市町村	栽培面積 ha	早播き主体 7月調査(7/10-12)			早播き後二期作 9月調査(9/4-10)			
		調査ほ場 数	幼虫確認 ほ場数	発生ほ場 率%	調査ほ場 数	被害ほ場 数	幼虫確認 ほ場数	発生ほ場 率%
1 宮崎市	40	8	0	0	-	-	-	-
2 国富町	13.5	1	0	0	-	-	-	-
3 綾町	20.6	2	0	0	-	-	-	-
4 日南市	17.8	5	0	0	-	-	-	-
5 串間市	89.1	5	0	0	-	-	-	-
6 都城市	2164.7	14	2	14.3	12	12	12	100
7 三股町	206.3	4	0	0	4	4	2	50.0
8 小林市	760.3	8	1	12.5	9	9	7	77.8
9 えびの市	364.7	6	1	16.7	2	2	2	100
10 高原町	375.7	2	1	50	7	7	6	85.7
11 西都市	113.3	2	1	50.0	-	-	-	-
12 高鍋町	27.9	1	0	0	-	-	-	-
13 新富町	76.3	6	0	0	4	4	4	100
14 西米良村	1.4	-	-	-	-	-	-	-
15 木城町	33.4	2	2	100	-	-	-	-
16 川南町	179.2	7	0	0	11	11	11	100
17 都農町	73.8	3	0	0	-	-	-	-
18 延岡市	39.8	4	0	0	-	-	-	-
19 日向市	18.1	2	0	0	-	-	-	-
20 門川町	2.7	2	0	0	-	-	-	-
21 諸塚村	11	-	-	-	-	-	-	-
22 椎葉村	31.1	-	-	-	-	-	-	-
23 美郷町	7.5	2	0	0	-	-	-	-
24 高千穂町	81.4	-	-	-	-	-	-	-
25 日之影町	12.3	-	-	-	-	-	-	-
26 五ヶ瀬町	48.2	-	-	-	-	-	-	-
	4810.1	86	8	9.3	49	49	44	89.8

※栽培面積は平成30年産青刈りトウモロコシの市町村別作付け面積(H16~18の3カ年平均)から推定。

※二期作目は、主要栽培地域のみ調査対象として実施。

表2 ツマジロクサヨトウ3齢幼虫に対する補正死虫率%

	検定濃度	72hr
1 カルタップ水溶剤	1000	89.7
2 カルタップ水溶剤	3000	27.6
3 アセタミプリド顆粒水溶剤	2000	0
4 アセタミプリド顆粒水溶剤	6000	0
5 アセタミプリド顆粒水溶剤	18000	10.3
6 MEP乳剤	2000	20.7
7 MEP乳剤	6000	6.9

※太字が特例により飼料用トウモロコシにおいて使用可能な薬剤および濃度

8) サツマイモ腐敗に関する発消長調査

1 調査目的

平成30年（2018）の秋頃からサツマイモの塊根腐敗症状が多発し問題となっている。腐敗塊根からはサツマイモ基腐病や乾腐病が分離されるものの、その主要病害及び発消長については不明である。そのため、今後の防除対策に資するため、生産現場における発消長を明らかにする。

2 調査内容

1) 調査地域及びほ場数

都城市と串間市の各3ほ場。

※平成30年産における塊根腐敗症状発生の発生ほ場から選定。

2) 調査期間及び調査間隔

令和元年6月～10月、約2週間間隔

3) 調査株数

1ほ場当たり50株×2か所の計100株を調査。

4) 調査方法

- ・基部黒変およびつる黒変症状の有無を調査し、発病株率を算出。
- ・栽培終了時に、各ほ場から症状別に15～20株を掘取り、塊根の腐敗状況や収量等を調査。

3 結果

1) 南那珂地域の3ほ場で発生した基部およびつるの黒変症状部からは、基腐病が高率に分離され、現地における発生は基腐病が主体であった。

2) 平成30年に塊根腐敗が多発した南那珂地域では、6月上旬には基腐病による株元の異常が確認された。その後7月中下旬までは病勢の進展は緩やかで発病株率は漸増する様相であった。しかし、8月上旬の台風6号の接近を境に急速に発病株は増加し、8月中旬には発病株率29～85%、9月中旬には71～99%に達し、いずれのほ場も多発状態であった。また、地上部の完全枯死株率も18～51%の中～多発生の状況であった。

一方、北諸県地域では、9月下旬につる割病（1%）がわずかに確認された以外は、調査期間（6～10月）を通して基部およびつるの黒変症状は未確認であった。（表1）

3) 収穫物調査の結果、南那珂地域では、地上部の基部黒変および全体が枯死している株では、発芽もしくは腐敗塊根が多く、減収率が24～60%であった。一方、北諸県地域では同様の症状を呈する塊根は見られず減収は認められなかった。（表2）

4) 南那珂地域から採取健全な塊根をインキュベーターで貯蔵した結果、貯蔵1ヶ月後から腐敗症状が見られ、貯蔵4ヶ月後に20～25%の塊根に腐敗症状が認められた。

また、南那珂地域の調査圃場の生産者が貯蔵した塊根の腐敗状況を調査した結果、貯蔵2ヶ月後の塊根腐敗率は18.8～42.7%、貯蔵4ヶ月後に33.3～65.3%となり、貯蔵中にも腐敗塊根が増加することが明らかとなった。（表3）

4 具体的なデータ

表 1 発病株率の推移

1. 南那珂地域

市町村名	地区名	生産者名	定植	発病株率累計 (%)						
				6月6日	6月25日	7月15日	7月26日	8月16日	8月29日	9月13日
串間市	奈留	A	5月下旬	0	0	7	13	48	73 (7)	99 (51)
串間市	大東	B	5月下旬	0	0※1	0	1	29	58 (0)	71 (18)
串間市	大東	C	4月下旬	0※1	3	16	31 (74)	85	83 (9) ※2	—

※1 調査対象株外で基腐病を確認。発病株は抜き取り処理

() は発病が早く激発している場所の発病率

※2 収穫開始。前回まで調査した株は収穫済みであったため、前回までとは異なる株で調査

() は地上部枯死株

2. 北諸県地域

市町村名	地区名	生産者名	定植	発病株率累計 (%)								
				6月19日	7月16日	7月30日	8月13日	8月27日	9月9日	9月27日	10月8日	10月18日
都城市	山田町	D	5月上旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0※2
都城市	横市	E	5月上旬	0	0	0	0	0	0	1※1	—	—
都城市	高木	F	5月上旬	—	0	0	0	0	0	—	—	—

※1 つる割病

※2 つる割病微発生

表 2 坪堀調査結果

地域名	市町村名	地区名	生産者名	収穫日	坪堀収量 (kg/10a)	減収率 (%)※
南那珂地域	串間市	奈留	A	9月下旬	990	60
		大東	B	9月下旬	1,019	59
		大東	C	9月上旬	1,908	24
北諸県地域	都城市	山田	D	10月中旬	3,739	0
		横市	E	9月下旬	6,390	0
		高木	F	9月上旬	8,751	0

※経営指針収量 (普通堀) 2,500kg/10aより算出

表 3 貯蔵塊根腐敗状況調査結果

1. インキュベーターで貯蔵した塊根腐敗率の推移

市町村	地区名	生産者名	塊根腐敗率 (%)			
			1ヶ月後	2ヶ月後	3ヶ月後	4ヶ月後
串間市	奈留	A	0	4.3	21.7	21.7
串間市	大東	B	0	20.0	20.0	20.0
串間市	大東	C	8.3	25.0	25.0	25.0

※調査時に腐敗しているものを切断し、腐敗状況を確認。健全なものだけを再度インキュベーターで貯蔵。

貯蔵2~4ヶ月後の塊根腐敗率は累積腐敗塊根率。

2. 生産者における貯蔵塊根腐敗率

(1) 貯蔵2ヶ月経過後

市町村名	地区名	生産者名	腐敗程度別					塊根腐敗率 (程度2~5)	平均重量 (g/個)	分離した菌株	
			0	1	2	3	4				5
串間市	奈留	A	54.7	2.7	10.7	16.9	15.1	0	42.7	83 (n=225)	基腐病100% (n=10)
串間市	大東	B	78.8	2.4	7.1	1.2	10.6	0	18.8	223 (n=85)	基腐病100% (n=10)
串間市	大東	C	77.0	0	5.3	10.6	7.1	0	23.0	167 (n=113)	no data

(2) 貯蔵4ヶ月経過後

市町村名	地区名	生産者名	腐敗程度別					塊根腐敗率 (程度2~5)	平均重量 (g/個)	分離した菌株	
			0	1	2	3	4				5
串間市	奈留	A	34.2	0.5	3.6	11.2	50.5	0	65.3	82 (n=196)	基腐病70%、フザリウム30% (n=10)
串間市	大東	B	82.2	0	1.0	8.9	7.9	0	17.8	184 (n=101)	基腐病91.7%、フザリウム8.3% (n=12)
串間市	大東	C	65.9	1	15.6	4.4	13.3	0	33.3	134 (n=135)	基腐病70%、フザリウム30% (n=10)

※腐敗程度別調査基準

0 病徴なし

2 塊根腐敗 (断面積1/2未満)

4 塊根腐敗 (断面積全体)

1 しょ梗部変色

3 塊根腐敗 (断面積1/2以上、全体には達していない)

5 崩壊

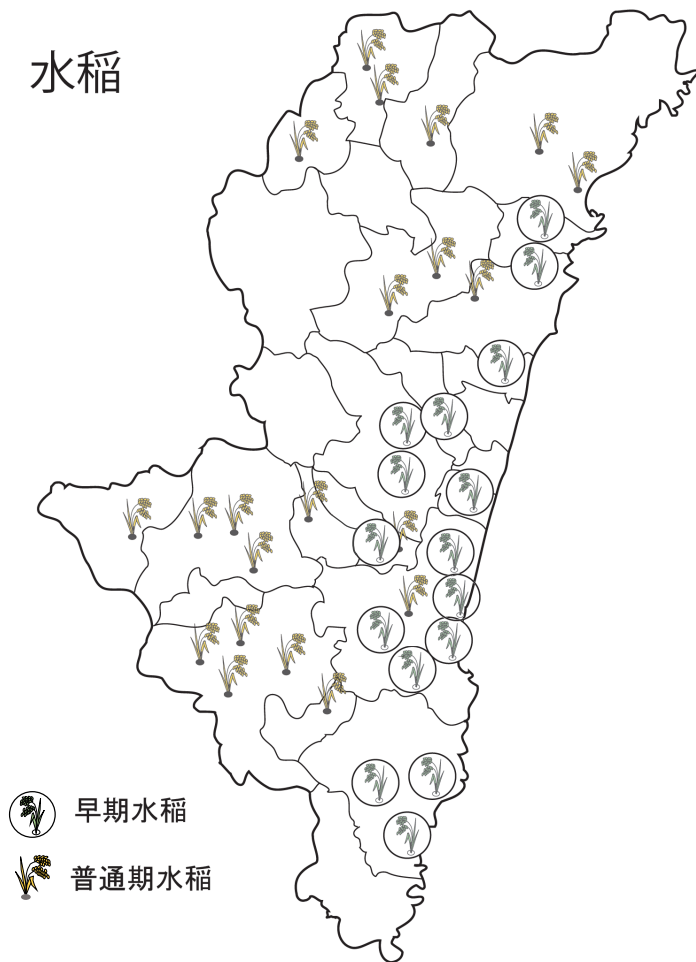
Ⅲ そ の 他

1 病虫害防除員の設置状況

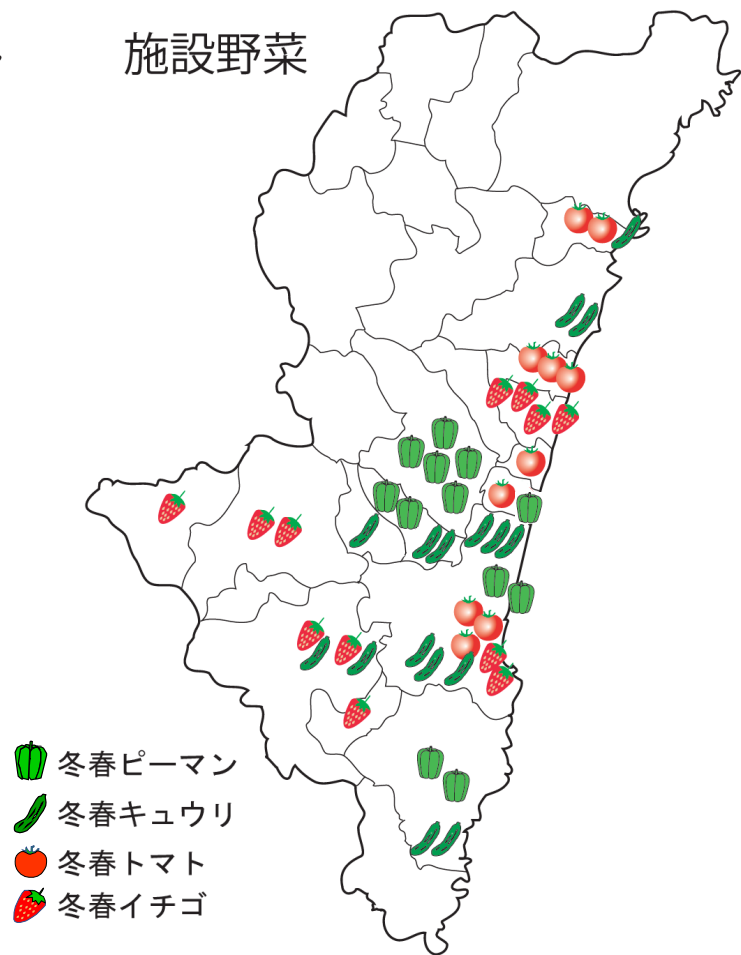
市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜	市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜
宮崎市	6	1	1		4	西米良村	1	1			
国富町						木城町	1				1
綾町						川南町	1				1
小計	6	1	1		4	都農町	1		1		
日南市	3	2	1			小計	5	1	1		3
串間市						延岡市	2	2			
小計	3	2	1			日向市	1	1			
都城市	5	4		1		門川町					
三股町	1	1				美郷町	1	1			
小計	6	5		1		諸塚村					
小林市	2	1		1		椎葉村					
えびの市	1				1	小計	4	4			
高原町						高千穂町	1	1			
小計	3	1		1	1	日之影町	1	1			
西都市	1				1	五ヶ瀬町	1			1	
高鍋町						小計	3	2		1	
新富町						合計	30	16	3	3	8

2 巡回調査ほ場の分布図

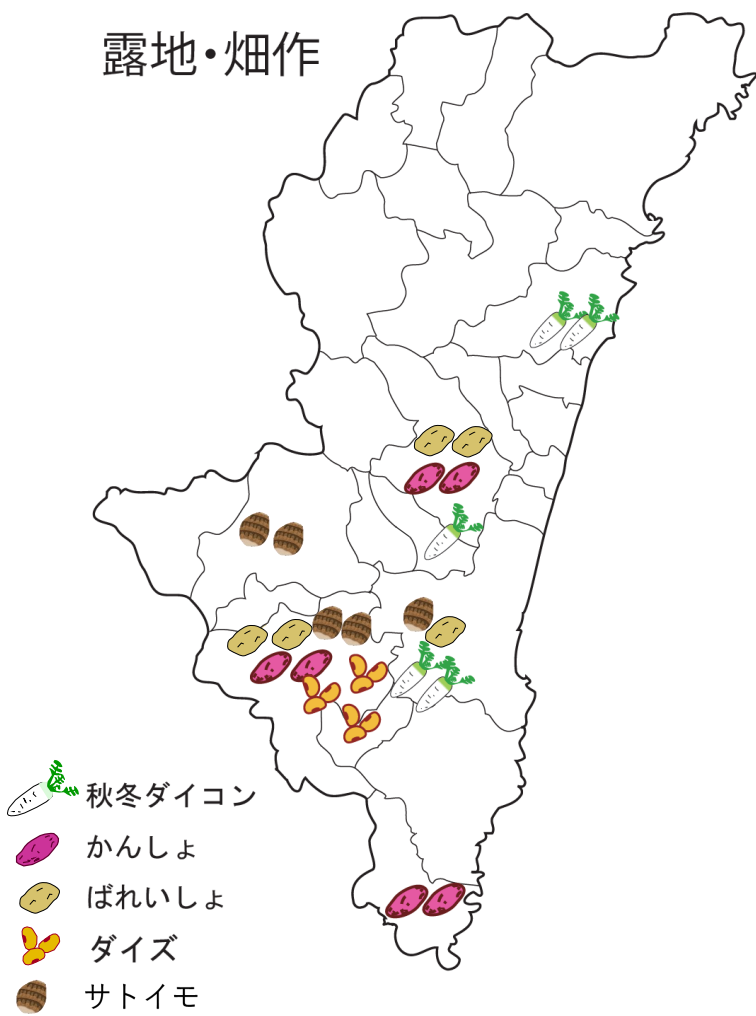
水稻



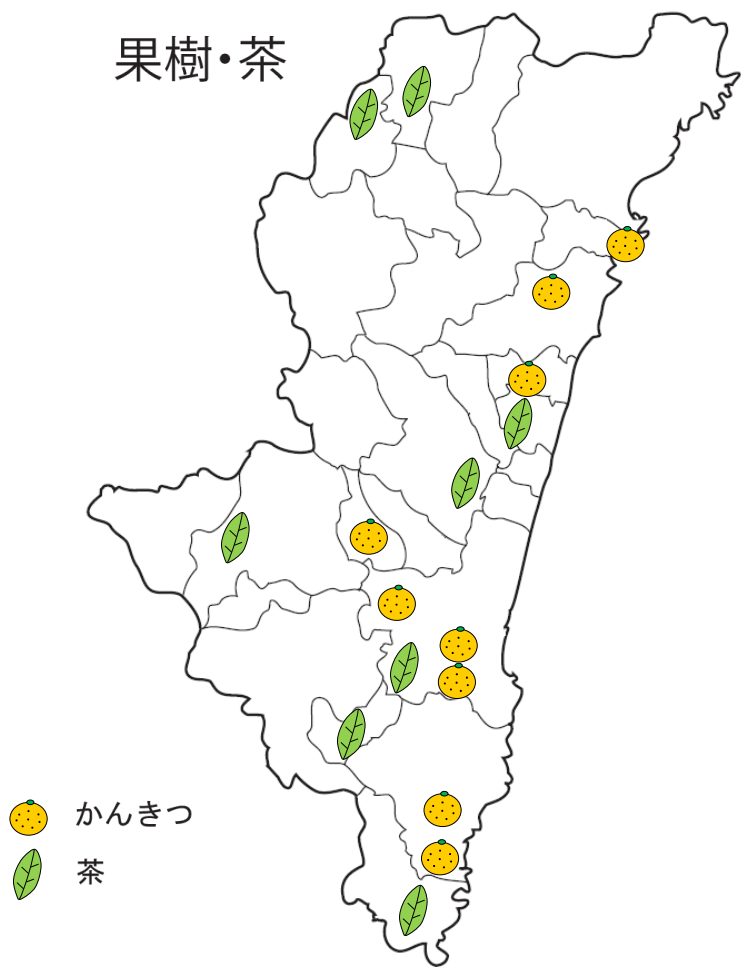
施設野菜



露地・畑作



果樹・茶



IV 令和元年度気象概況

月別気象概況（宮崎地方気象台作成の気象月報から抜粋）

○4月

中旬までは、高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、下旬は、前線や気圧の谷等の影響で曇りや雨の日が多かった。また、期間の前半は平年より気温が低く、後半は平年より気温が高く推移した。

県内各地の月平均気温は平年差 $-0.4^{\circ}\text{C}\sim+0.6^{\circ}\text{C}$ の平年並で、西米良、加久藤、宮崎、都城、串間では平年より高かった。月間降水量は $83.0\text{mm}\sim283.0\text{mm}$ （平年比 56% \sim 106%）で平年より少なく、えびの、国富では平年よりかなり少なく、延岡、日向では平年並で、北 方では平年より多かった。月間日照時間は平年比 105% \sim 117%で平年より多く、古江、日向では平年並だった。

○5月

上旬と下旬は、高気圧に覆われて概ね晴れた日が多かった。中旬は、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、日之影で月降水量が 273.0mm に達し、月降水量の多い方からの5月の極値を更新した。また、期間の前半は平年より気温が低く、後半は平年より 気温が高く推移した。なお、九州南部（宮崎県を含む）は31日ごろ梅雨入り（平年と同じで、昨年より5日早い）したと見られる。

県内各地の月平均気温は平年差 $-0.3^{\circ}\text{C}\sim+0.7^{\circ}\text{C}$ の平年並で、小林、宮崎、都城、油津、串間では平年より高かった。月間降水量は $102.0\text{mm}\sim488.0\text{mm}$ （平年比 44% \sim 191%）で平年より多いか、平年よりかなり多く、高千穂、野尻、都城では平年並で、鞍岡、西米良、加久藤、えびの、小林では平年より少なかった。月間日照時間は平年比 104% \sim 121%で平年より多いか、平年並だった。

○6月

期間を通して、気圧の谷や湿った空気等の影響で曇りや雨の日が多く、特に九州付近に停滞した梅雨前線の活動が活発となり、大雨や荒れた天気となった日があった。また、日之影と都農で月降水量の少ない方から、高千穂で月間日照時間の多い方からの6月の極値をそれぞれ更新した。

県内各地の月平均気温は平年差 $-0.3^{\circ}\text{C}\sim+0.4^{\circ}\text{C}$ の平年並で、西都、小林では平年より低かった。月間降水量は $211.0\text{mm}\sim832.0\text{mm}$ （平 年比 55% \sim 102%）の平年並で、高千穂、古江、鞍岡、西都、野尻、都城、油津では平年より少なかった。月間日照時間は平年比 92% \sim 118%の平年並で、高千穂、延岡、日向、西都、小林では平年より多かった。

○7月

上旬と中旬は、梅雨前線や気圧の谷等の影響で曇りや雨の日が多く、気温は平年より低く推移し、下旬は、高気圧に覆われて概ね晴れた日が多く、気温は平年並か平年より高く推移した。また、期間を通して、日降水量が 100mm を超える大雨となった日があり、月降 水量が都農で 821.0mm 、赤江で 769.0mm に達し、月降水量の多い方からの7月の極値をそれぞれ更新した。 なお、九州南部（宮崎県を含む）は24日ごろ梅雨明け（平年より10日遅く、昨年より15日遅い）したと見られる。

県内各地の月平均気温は平年差 $-1.6^{\circ}\text{C}\sim-0.2^{\circ}\text{C}$ で平年より低く、日向、西都、小林、油津では平年よりかなり低かった。月間降水量は $519.5\text{mm}\sim1206.5\text{mm}$ （平年比 130% \sim 319%）で平年よりかなり多いか、平年より多かった。月間日照時間は平年比 59% \sim 75%で平年よりかなり少ないか、平年より少なかった。

○8月

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷や湿った空気、前線の影響で曇りや雨の日が多く、上旬に台風第8号、中旬に台風第10号の影響で、日降水量が 100mm を超える大雨や大荒れの天気となった所があった。また、期間の前半は平年より気温が高く、後半 は平年より気温が低く推移した。

県内各地の月平均気温は平年差 $-0.5^{\circ}\text{C}\sim+0.6^{\circ}\text{C}$ で、都城、串間では平年より高く、他は平年並か平年より低かった。月間降水量は $231.5\text{mm}\sim564.5\text{mm}$ （平年比 74% \sim 215%）で、古江では平年よりかなり多く、北方、延岡、加久藤、西都、宮崎、油津、串間では平年より多く、他は平年並だった。月間日照時間は平年比 60% \sim 77%で、鞍岡では平年より少なく、他は平年よりかなり少なかった。

○9月

高気圧と気圧の谷や湿った空気等の影響を交互に受け、天気は数日の周期で変わり、上旬は台風第13号、下旬は台風第17号の影響 で大雨や荒れた天気となった。また、南からの暖かい空気の影響も加わり、気温は平年より高く推移した。22日は発達した積乱雲により、延岡市で竜巻が発生した。

県内各地の月平均気温は平年差 $+0.5^{\circ}\text{C}\sim+2.0^{\circ}\text{C}$ で、全ての観測所で平年よりかなり高いか、平年より高かった。

月間降水量は 85.5mm ~698.0mm (平年比 33%~171%) で、諸塚、北方、延岡、神門では平年より多く、深瀬、串間では平年より少なく、他は平年並だった。月間日照時間は平年比 84%~118%で、油津、串間では平年より多く、古江、延岡、日向、神門では平年より少なく、他は平年並だった。

○10月

期間の前半は、高気圧に覆われて晴れた日が多く、後半は、気圧の谷や湿った空気等の影響で曇りや雨の日が多かった。18日は前線の影響で大雨となった所があった。また、期間を通して暖かい空気に覆われたため、気温は平年より高く推移した。

県内各地の月平均気温は平年差+1.4°C~+2.5°Cで全ての観測所で平年よりかなり高かった。月間降水量は 74.0 mm~331.0mm (平年比 63%~170%) で全ての観測所で平年より多いか、平年並だった。月間日照時間は平年比 86%~109%で古江、延岡、日向、西都は平年より多く、加久藤は平年より少なく、他は平年並だった。

○11月

上旬と中旬は、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。下旬は、晴れの日と曇りや雨の日が短い周期で変化した。また、気圧の谷や前線等の影響で雨となった日もあり下旬は多雨となったが、中旬までは少雨傾向で多照だった。なお、都農の月降水量は 37.0mmで、月降水量の少ない方からの11月の極値を更新した。

県内各地の月平均気温は平年差+0.3°C~+1.3°Cで加久藤、小林、宮崎、都城、串間は平年より高く、他は平年並だった。月降水量は 31.5 mm~97.5mm (平年比 27%~82%) で鞍岡、えびの、野尻、国富、宮崎、都城は平年並で、他は平年より少なかった。月日照時間は平年比 109%~130%で加久藤、串間は平年よりかなり多く、他は平年より多かった。

○12月

期間を通して、高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日もあり、22日と26日は、低気圧や前線の影響で荒れた天気となった。また、上旬は寒気の影響で気温は平年より低く、中旬、下旬は、暖かい空気に覆われたため、平年より高い日が多かった。

県内各地の月平均気温は平年差+1.0°C~+1.9°Cで平年よりかなり高いか、平年より高かった。月降水量は 57.5 mm~135.0mm (平年比 94%~256%) で西都、小林、宮崎は平年並で、古江は平年よりかなり多く、他は平年より多かった。月日照時間は平年比 70%~92% で平年より少ないか、平年よりかなり少なかった。

○1月

上旬は、高気圧に覆われて概ね晴れた日が多かったが、中旬から下旬にかけて、高気圧と低気圧、気圧の谷などの影響を交互に受け、天気は短い周期で変化した。また、季節外れの温かい空気の流れ込みで気温が平年より高く推移し、湿った空気の影響も加わり大気の状態が非常に不安定となり、大雨となった所があった。このため月平均気温が赤江 10.2°C、延岡 9.0°C、小林 8.3°Cを観測、月降水量も古江 244.5 mm、都農 179.5 mm、赤江 144.5 mmを観測して、月平均気温が高い方から、月降水量が多い方からそれぞれ1月の極値を更新した。

県内各地の月平均気温は平年差+1.9°C~+2.9°Cで全ての観測所で平年よりかなり高かった。月降水量は 72.5 mm~244.5 mm (平年比 102% ~459%) で古江、北方、延岡、日向、国富、宮崎は平年よりかなり多く、深瀬、串間は平年並で、他は平年より多かった。月日照時間は平年比 81%~95%で延岡、日向、神門、都城は平年よりかなり少なく、高千穂、鞍岡は平年並で、他は平年より少なかった。

○2月

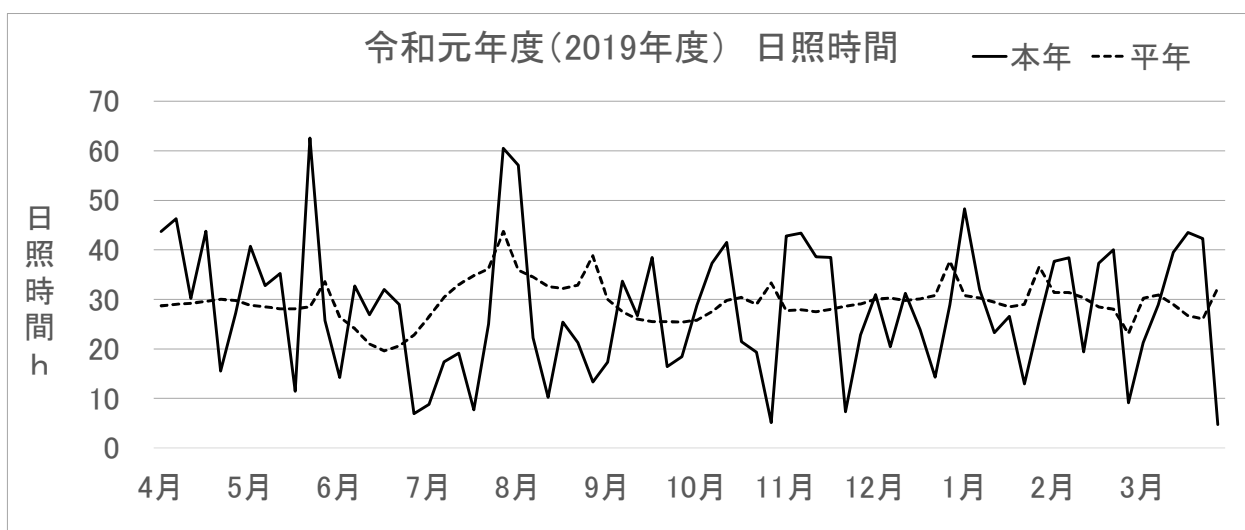
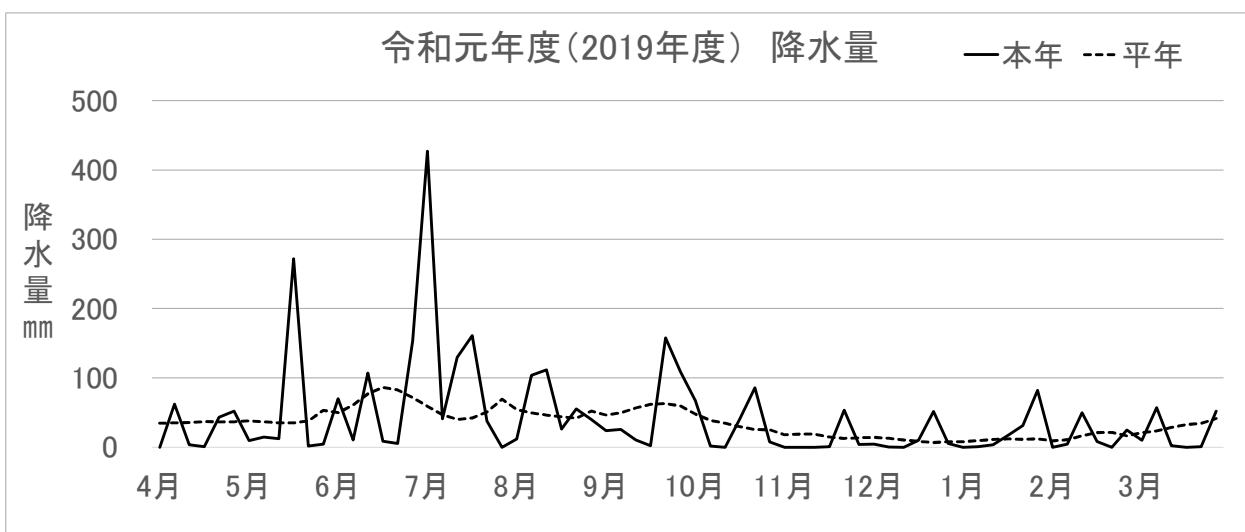
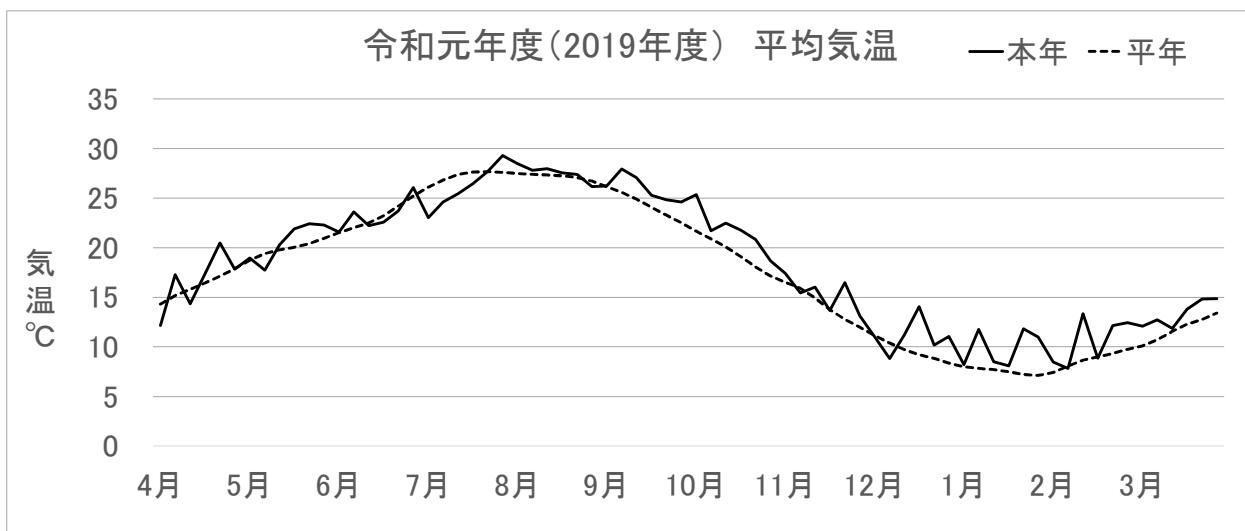
高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、低気圧や前線、気圧の谷の影響で曇りや雨の日もあった。また、寒気の影響で気温の低い日もあったものの、暖かい空気に覆われた日が多く、気温は平年より高く推移した。

県内各地の月平均気温は平年差+0.8°C~+1.8°Cで全ての観測所で平年より高かった。月降水量は 76.5 mm~297.0 mm (平年比 80%~162%) で鞍岡は平年よりかなり多く、他は平年より多いか、平年並だった。月日照時間は平年比 99%~119%で西米良は平年よりかなり多く、他は平年より多いか、平年並だった。

○3月

期間中は、高気圧と低気圧、前線や気圧の谷の影響を交互に受けたため、天気は短い周期で変化した。また、暖かい空気の流れ込みで気温が平年より高く推移した日が多かった。

県内各地の月平均気温は平年差+1.0°C~+1.7°Cで平年よりかなり高いか高く、月降水量は 78.0 mm~219.5 mm (平年比 57%~92%) で平年並か少なく、高千穂ではかなり少なかった。また、日照時間は平年比 94~109%の平年並で、小林は平年より少なかった。



宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805 番地

TEL 0985-73-6670

FAX 0985-73-2127

E-mail : [byogaichu-hiryo @ pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)